

AZ
351
20



0008136000

0008136-000

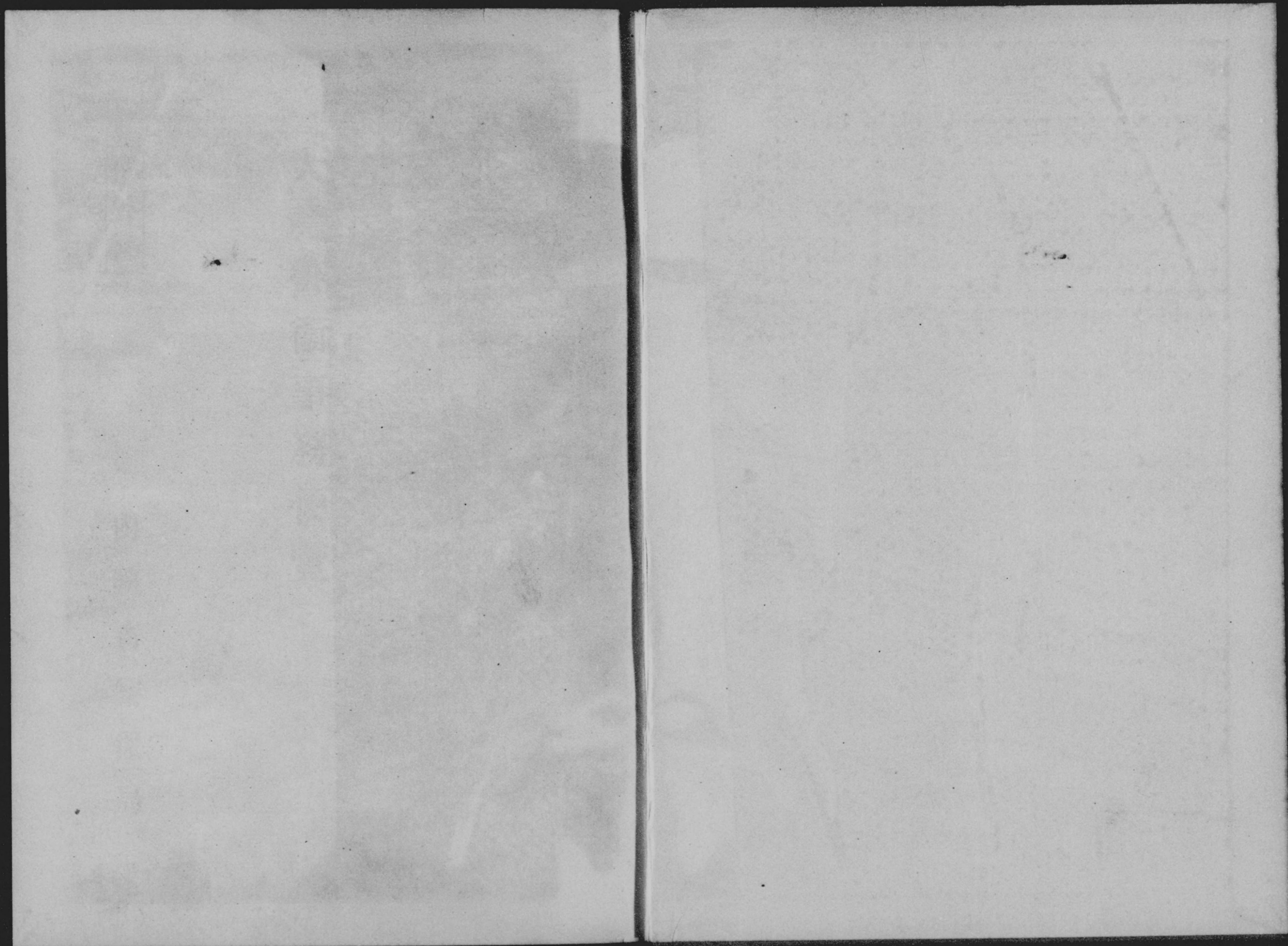
AZ-351-20

大札警衛事務便覧

内務省警保局

1928

ABH



昭和三年九月

大禮警衛事務便覽

部外秘

内務省警保局

AZ
351
20



856819

大禮警衛事務便覽總目次

第一章 大禮事務ノ部

- 皇室典範(抄)……………一頁
- 登極令(抄)……………一
- 大禮御儀日取……………三
- 皇室儀制令……………五
- 鹵簿……………五
- 宮中席次……………六
- 大禮鹵簿……………一五
- 第一 宮城東京驛間……………一五
- 京都驛京都皇宮間鹵簿……………一五
- 第二 名古屋驛名古屋離宮間鹵簿……………一八
- 第三 京都皇宮大嘗宮間鹵簿……………二二
- 第四 神宮親謁ノ節京都皇宮京都驛間及山田驛宇治山田行在所間鹵簿……………三三
- 第五 神武天皇山陵及明治天皇山陵親謁ノ節京都皇宮京都驛間鹵簿……………三三

第六 宇治山田行在所兩宮內頓宮間 函簿 二五
 畝傍驛畝傍山東北陵頓宮間
 桃山驛伏見桃山陵頓宮間
 京都皇宮後月輪陵頓宮間

第七 大正天皇山陵親謁ノ節宮城原宿驛間函簿 二七
 第八 東淺川驛多摩陵頓宮間函簿 二八

○大禮使官制 三三
 ○大禮使處務規程 三六
 ○大禮使長官官房事務分擔 三八
 ○大禮使職員 四〇
 警備係、新聞寫真係員氏名 四六
 ○大禮費及大禮施設費ノ支辨ニ屬スル内國旅費ノ特例ニ關スル件(勅令省令) 四七
 ○大禮ニ關スル工事等ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件 五三
 ○神武天皇竝前帝四代山陵所在地 五五

第二章 警衛事務ノ部

○警衛例規 五六

行幸啓御道筋通行者敬禮方 五六
 行幸啓御途中直訴建言禁止諭達方 五六
 拜觀人ニ對シ脱帽等ノ注意ヲ促スニ及ハス及高所拜觀ニ關スル件 五六
 警衛線ニ配置ノ警察官吏ハ禮式ヲ爲サス公衆ニ注目ノ件 五七
 御道筋ニ於ケル交通往來ノ阻止、拜觀人傘外套ノ使用異様又ハ汚染ノ服裝ニテ拜觀
 ヲ爲ス者ノ取扱方、汽車ノ車窓閉鎖等ニ關スル件 五八
 行幸啓ノ節地方長官奉送迎ノ件 五九
 同上ニ關スル件 五九
 皇太子殿下陸海軍演習ニ關シ御微行行啓ノ節奉送迎御警衛其ノ他ノ件 六〇
 行幸啓ノ際學校生徒、在郷軍人團其ノ他各種團體ノ旗手團體旗操縱敬禮ノ儀ニ付
 注意ノ件 六〇
 行幸啓ノ際在郷軍人團體ノ旗手團體旗操縱敬禮ノ儀ニ付陸軍大臣ヨリ帝國在郷軍
 人會々長ニ對シ通牒ノ件 六一
 行幸啓ノ節學生生徒敬禮方文部省訓令 六一
 行幸啓ノ節行在所其ノ他ニ出入シ得ル者ニ關スル件 六三

行幸啓ノ節路傍ニ跪座拜觀ニ關スル件	六三
御警衛ニ従事スル警察官吏ハ御通過後右回轉ヲ爲サ、ル件	六四
途上警衛ニ従事スル警察官吏ノ心得ニ關スル件	六四
行在所及御泊所警衛規程宮内大臣ヨリ制定通牒ニ付依命通牒ノ件	六五
行幸啓ノ節供奉員及關係員徽章附着ノ件	六七
皇族警衛ニ付努メテ一般ニ迷惑ヲ感セシメサル様措置方ノ件	七〇
御召列車(乗車スル警察官吏ノ注意ニ關スル件	七三
行幸啓又ハ御成ノ際停車場構内ニ於ケル撮影奉送迎者ノ資格等ニ關スル件	七四
鹵簿撮影其ノ他ノ件	七六
皇子殿下地方御成ノ節奉送迎及御警衛ニ關スル件	七八
御召列車運轉ノ場合鐵道ノ警備区域内ニ於ケル警備方ニ關スル件	七九
皇子殿下御發着割ニ關スル件	七九
行幸啓ノ際停車場構内ニ於ケル御寫眞撮影ニ關スル件	七九
御召列車警護其ノ他ニ關スル件	八〇
鐵道沿線警戒ニ關スル件	八三

警察禮式中改正ニ關スル件	八三
鹵簿撮影其ノ他ノ件	八三
警衛警察官吏ノ姿勢方向等ニ關スル件	八四
大禮警衛ニ従事スル警察官吏ノ「ゲートル」及手套ノ使用齊一方ニ關スル件	八六
○警衛ニ關スル注意事項	八七
○直訴其ノ他不敬事件調	八七
○皇太子殿下御渡歐中各國ニ於ケル警衛狀況	一一六
御滯英中御警衛ノ概要	一一六
御滯蘭中御警戒ニ關スル報告	一一八
御來白ノ際ニ於ケル當國警戒狀況	一一二
御來伊ニ際シ伊國警戒狀況	一一三
御渡歐中各國警衛概況	一一五
○警衛要諦(英國警察法典)	一二八
○大禮ニ關スル各廳府縣應援警察官吏數表	一三三

大禮警衛事務便覽

○皇室典範（抄）

第二章 踐祚即位

- 第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク
- 第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ
- 第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ

○登極令（明治四十二年 皇室令第一號）

- 第一條 天皇踐祚ノ時ハ即チ掌典長ヲシテ賢所ニ祭典ヲ行ハシメ且踐祚ノ旨ヲ皇靈殿神殿ニ奉告セシム
- 第二條 天皇踐祚ノ後ハ直ニ元號ヲ改ム
- 元號ハ樞密顧問ニ諮詢シタル後之ヲ勅定ス
- 第三條 元號ハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス
- 第四條 即位ノ禮及大嘗祭ハ秋冬ノ間ニ於テ之ヲ行フ

大嘗祭ハ即位ノ禮ヲ訖リタル後續テ之ヲ行フ

第五條 即位ノ禮及大嘗祭ヲ行フトキハ其ノ事務ヲ掌理セシムル爲宮中ニ大禮使ヲ置ク
大禮使ノ官制ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 即位ノ禮及大嘗祭ヲ行フ期日ハ宮内大臣國務各大臣ノ連署ヲ以テ之ヲ公告ス

第七條 即位ノ禮及大嘗祭ヲ行フ期日定マリタルトキハ之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ勅使ヲシテ神宮
神武天皇山陵竝前帝四代ノ山陵ニ奉幣セシム

第八條 大嘗祭ノ齋田ハ京都以東以南ヲ悠紀ノ地方トシ京都以西以北ヲ主基ノ地方トシ其ノ地方ハ之
ヲ勅定ス

第九條 悠紀主基ノ地方ヲ勅定シタルトキハ宮内大臣ハ地方長官ヲシテ齋田ヲ定メ其ノ所有者ニ對シ
新穀ヲ供納スルノ手續ヲ爲サシム

第十條 稻實成熟ノ期至リタルトキハ勅使ヲ發遣シ齋田ニ就キ拔穂ノ式ヲ行ハシム

第十一條 即位ノ禮ヲ行フ期日ニ先タチ天皇神器ヲ奉シ皇后ト共ニ京都ノ皇宮ニ移御ス

第十二條 即位ノ禮ヲ行フ當日勅使ヲシテ之ヲ皇靈殿神殿ニ奉告セシム

大嘗祭ヲ行フ當日勅使ヲシテ神宮皇靈殿神殿竝官國幣社ニ奉幣セシム

第十三條 大嘗祭ヲ行フ前一日鎮魂ノ式ヲ行フ

第十四條 即位ノ禮及大嘗祭ハ附式ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フ

第十五條 即位ノ禮及大嘗祭訖リタルトキハ大饗ヲ賜フ

第十六條 即位ノ禮及大嘗祭訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ神宮神武天皇山陵竝前帝四代ノ山陵ニ謁
ス

第十七條 即位ノ禮及大嘗祭訖リテ東京ノ宮城ニ還幸シタルトキハ天皇皇后ト共ニ皇靈殿神殿ニ謁ス

第十八條 諒闇中ハ即位ノ禮及大嘗祭ヲ行ハス

(附式略)

○京都ニ行幸ノ儀以下ノ諸儀ノ期日

(昭和三年七月二十六日
官報大禮使彙報記載)

京都ニ行幸ノ儀以下ノ諸儀ノ期日左ノ通御治定アラセラル

京都ニ行幸ノ儀

十一月 七 六 日

賢所春興殿ニ渡御ノ儀

同 七 日

即位禮當日皇靈殿神殿ニ奉告ノ儀

同 十 日

即位禮當日賢所大前ノ儀

同 日

即位禮當日紫宸殿ノ儀

同 日

即位禮後一日賢所御神樂ノ儀	十一月十一日
神宮皇靈殿神殿並官國幣社ニ勅使發遣ノ儀	同 十二日
大嘗祭前一日鎮魂ノ儀	同 十三日
大嘗祭當日神宮ニ奉幣ノ儀	同 十四日
大嘗祭當日皇靈殿神殿ニ奉幣ノ儀	同 十四日
大嘗祭當日賢所大御饌供進ノ儀	同 十四日
大嘗宮ノ儀 <small>(條紀殿供饌ノ儀 主基殿供饌ノ儀)</small>	同 十四日ヨ リ十五日ニ亘ル
即位禮及大嘗祭後大饗第一日ノ儀	同 十六日
即位禮及大嘗祭後大饗第二日ノ儀	同 十七日
即位禮及大嘗祭後大饗夜宴ノ儀	同 日
即位禮及大嘗祭後神宮ニ親謁ノ儀	同 二十日
即位禮及大嘗祭後神武天皇山陵ニ親謁ノ儀	同 二十一日
即位禮及大嘗祭後仁孝天皇山陵孝明天皇山陵ニ親謁ノ儀	同 二十三日
即位禮及大嘗祭後明治天皇山陵ニ親謁ノ儀	同 二十四日
東京ニ還幸ノ儀	同 二十五日
	同 二十六日
	同 二十七日

賢所溫明殿ニ還御ノ儀	同 二十七日
東京還幸後賢所御神樂ノ儀	同 二十八日
即位禮及大嘗祭後大正天皇山陵ニ親謁ノ儀	同 二十九日
還幸後皇靈殿神殿ニ親謁ノ儀	同 三十日

○皇室儀制令 (抄) (大正十五年皇室令 第七號)

第三章 鹵簿

第二十二條 鹵簿ハ他ノ皇室令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外本章ノ定ムル所ニ依ル

第二十三條 天皇ノ鹵簿ハ第一公式第二公式第三公式及略式トス

重大ノ朝儀ニハ第一公式ノ鹵簿ヲ用キ其ノ他ノ朝儀ニハ第二公式又ハ第三公式ノ鹵簿ヲ用ウ

朝儀ニ非サル場合ニハ第三公式又ハ略式ノ鹵簿ヲ用ウ

第二十四條 太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃ノ鹵簿ハ各公式及略式トス

朝儀ニハ公式ノ鹵簿ヲ用キ其ノ他ノ場合ニハ略式ノ鹵簿ヲ用ウ

第二十五條 攝政ノ鹵簿ハ第一公式第二公式及略式トス

重大ノ朝儀ニハ第一公式ノ鹵簿ヲ用キ其ノ他ノ朝儀ニハ第二公式ノ鹵簿ヲ用ウ

朝儀ニ非サル場合ニハ略式ノ鹵簿ヲ用フ

第二十六條 親王親王妃内親王王王妃女王ハ天皇又ハ皇后ニ代リテ朝儀ニ臨ム場合又ハ特旨ニ依ル場
合ニ公式ノ鹵簿ヲ用フ

第二十七條 公式ノ鹵簿ハ附式ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 天皇太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃同乗又ハ同列ノ場合ニ於ケル鹵
簿及略式ノ鹵簿ハ別ニ之ヲ定ム

第四章 宮 中 席 次

第二十九條 文武高官有爵者優遇者ノ宮中ニ於ケル席次ハ特旨ニ由ルモノヲ除クノ外左ノ順位ニ依ル

第一階

第一 大勳位

一 菊花章頸飾

二 菊花大綬章

第二 内閣總理大臣

第三 樞密院議長

第四 元勳優遇ノ爲大臣ノ禮遇ヲ賜ハリタル者

第五 元帥國務大臣宮内大臣内大臣

第六 朝鮮總督

第七 内閣總理大臣又ハ樞密院議長タル前官ノ禮遇ヲ賜ハリタル者

第八 國務大臣宮内大臣又ハ内大臣タル前官ノ禮遇ヲ賜ハリタル者

第九 樞密院副議長

第十 陸軍大將海軍大將樞密顧問官

第十一 親任官

第十二 貴族院議長衆議院議長

第十三 勳一等旭日桐花大綬章

第十四 功一級

第十五 親任官ノ待遇ヲ賜ハリタル者

第十六 公爵

第十七 從一位

第十八 勳一等

一 旭日大綬章

二 寶冠章

三 瑞寶章

第二階

第十九 高等官一等

第二十 貴族院副議長衆議院副議長

第二十一 麝香間祇候

第二十二 侯 爵

第二十三 正二位

第三階

第二十四 高等官二等

第二十五 功二級

第二十六 錦鷄間祇候

第二十七 勅任待遇

第二十八 伯 爵

第二十九 從二位

第三十 勳二等

一 旭日重光章

二 寶冠章

三 瑞寶章

第三十一 子 爵

第三十二 正三位

第三十三 從三位

第三十四 功三級

第三十五 勳三等

一 旭日中綬章

二 寶冠章

三 瑞寶章

第三十六 男 爵

第三十七 正四位

第三十八 從四位

第四階

第三十九 貴族院議員衆議院議員

第四十 高等官三等

第四十一 高等官三等ノ待遇ヲ享クル者

第四十二 功四級

第四十三 勳四等

一 旭日小綬章

二 寶冠章

三 瑞寶章

第四十四 正五位

第四十五 從五位

第五階

第四十六 高等官四等

第四十七 高等官四等ノ待遇ヲ享クル者

第四十八 功五級

第四十九 勳五等

一 雙光旭日章

二 寶冠章

三 瑞寶章

第五十 正六位

第六階

第五十一 高等官五等

第五十二 高等官五等ノ待遇ヲ享クル者

第五十三 從六位

第五十四 勳六等

一 單光旭日章

二 寶冠章

三 瑞寶章

第七階

第五十五 高等官六等

第五十六 高等官六等ノ待遇ヲ享クル者
第五十七 正七位

第八階

第五十八 高等官七等
第五十九 高等官七等ノ待遇ヲ享クル者
第六十 從七位
第六十一 功六級

第九階

第六十二 高等官八等
第六十三 高等官八等ノ待遇ヲ享クル者

第十階

第六十四 高等官九等
第六十五 奏任待遇
第六十六 正八位
第六十七 功七級

第六十八 勳七等

- 一 青色桐葉章
- 二 寶冠章
- 三 瑞寶章

第六十九 從八位

第七十 勳八等

- 一 白色桐葉章
- 二 寶冠章
- 三 瑞寶章

第三十條 同順位ノ者ノ間ニ在リテハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ身位ヲ得タル日ノ前後ニ從ヒ其ノ前後ナキトキハ其ノ日ニ有シタル席次ノ順序ニ從ヒ其ノ日ニ席次ヲ有セサリシトキハ年齢ノ順序ニ從フ

同爵者ノ席次ハ位階ニ依ル

第三十一條 大臣ノ禮遇又ハ前官ノ禮遇ヲ賜ハリタル者ニシテ其ノ順位ヲ超エタル官ニ任セラレ退官ノ後更ニ前ニ賜ハリタル禮遇ト同順位ノ禮遇ヲ賜ハリタルトキハ前ニ禮遇ヲ賜ハリタル時ニ有シタル

席次ニ依リ後ノ禮遇前ノ禮遇ノ下ナルトキハ第三十四條ノ例ニ依ル

第三十二條 親任官ニシテ國務大臣ニ任セラレ退官ノ後二年以内ニ更ニ前ト同順位ノ親任官ニ任セラレタルトキハ前ニ有シタル席次ニ依リ前ノ順位ヨリ降リタル官ニ任セラレタルトキハ第三十四條ノ例ニ依ル

第三十三條

退官退職ノ日ヨリ二年以内ニ前官職ト同順位ノ官職ニ就キタルトキハ前ニ有シタル席次ニ依ル

第三十四條 轉官轉職ノ場合ニ於テ其ノ官職同順位ナルトキハ前ニ有シタル席次ニ依リ前ノ順位ヨリ降リタルトキハ其ノ順位ノ首席トス

第三十五條 休職又ハ退職ノ文官及豫備役後備役又ハ退役ノ者ハ各相當順位ノ下席トス

第三十六條 同一人ニシテ二箇以上ノ身位ヲ有スルトキハ其ノ高キニ從フ但シ特定ノ身位ニ依リ席次ヲ定ムル必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 妻ノ席次ハ夫ニ次ク

第三十八條 官職ヲ有スル者ニ就キ職務上ノ必要アルトキハ前數條ノ規定ニ拘ラス特ニ席ヲ定ムルコトヲ得

トヲ得

○大禮ニ關スル鹵簿

(昭和三年九月二十日
官報大禮使兼報記載)

大禮ニ關スル鹵簿左ノ通り定メラル

第一 宮城東京驛間 鹵簿

警部 騎馬

警部 騎馬

警部 騎馬

警部 騎馬

警部 騎馬

警部 騎馬

警部 騎馬

警部 騎馬

警部 騎馬

警部 騎馬

警部 騎馬

警部 騎馬

警視總監 又ハ
警視廳警務部長 (京都ニ於テハ
京都府警察部長) 騎馬

近衛騎兵 式部官 馬車 式部長官 馬車

警部 騎馬

宮内大臣 馬車	近衛騎兵 掌典 補 騎馬	掌典 補 騎馬	掌典	掌典 騎馬
---------	--------------	---------	----	-------

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

賢所御羽車

駕輿三十二人

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

吳床

雨皮掌典長

騎馬

典 騎馬

掌典補 騎馬

吳床

掌

典 騎馬

掌典補 騎馬

近衛騎兵 天皇旗

近衛騎兵持

近衛騎兵 車馬監

騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

天皇

御馬車

騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛騎兵

皇后

御馬車

騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校

騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

侍從武官長 騎馬

侍從武官 騎馬

主馬頭 騎馬

東京警備司令官(京都ニ於テハ第十六師團長)

騎馬

近衛騎兵

大禮使總裁 馬車

親王 馬車

親王妃 馬車

近衛騎兵 侍從 馬車

女官 馬車

內大臣 馬車

內閣總理大臣 馬車

樞密院議長 馬車

大禮使長官 馬車

宮內次官 式部次長 大禮使次官 馬車

侍從次長 皇后宮大夫 內大臣秘書官長 馬車

皇后宮事務官	宮内書記官	知事
内大臣秘書官	式部官	馬車
侍醫	大禮使高等官	

近衛騎兵	警部	警部
	騎馬	騎馬
		警部
		視騎馬
		警部
		騎馬

○馬車ノ種類 天皇御馬車ハ特別御料儀裝車、皇后御馬車ハ御料儀裝車、供奉員馬車ハ儀裝車
 ○服 裝 天皇ハ御正裝、皇后ハ御通常服、供奉員男子ハ大禮服、正裝、女子ハ通常服但シ掌典

(注意) 侍從武官長又ハ侍從武官馬車ニテ供奉スルトキハ侍從ト同乗ス以下之ニ做フ

警視總監馬車ニテ供奉スルトキハ東京府知事ト同乗ス

第二 名古屋驛名古屋離宮間函簿

警部	警部	式部長官
騎馬	騎馬	馬車
警部	警部	
騎馬	騎馬	
警部	警部	
騎馬	騎馬	

宮内大臣	近衛騎兵	掌典補	掌典
馬車		騎馬	騎馬
		掌典補	掌典
		騎馬	騎馬
		掌典	掌典
		騎馬	騎馬

近衛將校	近衛將校	賢所御羽車	駕輿
騎馬	騎馬	三十二人	丁
		吳床	吳床
		雨皮	

掌典長	掌典補	近衛騎兵
騎馬	騎馬	
		近衛騎兵

天皇旗	近衛騎兵	車馬監
近衛騎兵持		騎馬

近衛將校	近衛將校	天	皇
騎馬	騎馬	御馬車	侍從長陪乘
		近衛騎兵	

近衛將校騎馬 近衛將校騎馬 侍從武官騎馬

皇 后 御馬車騎馬 侍從武官長騎馬

近衛將校騎馬 女官長陪乘騎馬 侍從武官騎馬

主馬頭騎馬 第三師團長騎馬 近衛騎兵 大禮使總裁馬車

親王 親王妃馬車 王 王妃馬車 侍從馬車 女官馬車

內大臣馬車 內閣總理大臣馬車 宮內次官馬車
大禮使長官馬車 樞密院議長馬車 皇后宮大夫馬車
大禮使次官

式部次長馬車 宮內書記官馬車 愛知縣知事馬車
皇后宮事務官馬車 式部醫官馬車
內大臣秘書官馬車 大禮使高等官馬車

近衛騎兵 警部騎馬 警部騎馬

○馬車ノ種類 天皇御馬車ハ御料儀裝車、皇后御馬車ハ座馭式御料儀裝車、供奉員馬車ハ普通車
○服 裝 第一ニ同シ

第三 京都皇宮大嘗宮間函簿

警部騎馬 近衛騎兵 天皇旗 近衛騎兵捧持

近衛騎兵 近衛將校騎馬 近衛將校騎馬 近衛將校騎馬
天 皇 御馬車騎馬 侍從長陪乘騎馬 近衛騎兵

近衛將校騎馬 近衛將校騎馬 近衛騎兵 侍從馬車
皇 后 御馬車騎馬 女官長陪乘騎馬 近衛將校騎馬

女 官 馬車

侍從武官長 馬車

宮内大臣 馬車
皇后宮大夫 馬車

宮内書記官 馬車
皇后宮事務官 馬車

近衛騎兵

警 部 騎馬
警 部 騎馬

○馬車ノ種類 御馬車ハ御料普通車、供奉員馬車ハ普通車

○服 裝 天皇ハ御正裝、皇后ハ御袿袴、供奉員男子ハ大禮服、正裝(近衛將校ハ軍裝トス)、女子ハ袿袴

第四 神宮親謁ノ節京都皇宮京都驛間及山田驛宇治山田行在所間鹵簿

警 部 騎馬

近衛騎兵

天 皇 旗 近衛騎兵捧持

警 部 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛騎兵

天 皇 御馬車 侍從長陪乘

近衛騎兵

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬
皇 后 御馬車 女官長陪乘

近衛將校 騎馬
近衛騎兵

侍 從 內大臣秘書官 馬車

女 官 馬車

侍從武官長 馬車
侍從武官

宮内大臣 馬車
皇后宮大夫 馬車

宮内書記官 馬車
皇后宮事務官 馬車

近衛騎兵

警 部 騎馬
警 部 騎馬

○馬車ノ種類 第三ニ同シ
○服 裝 天皇ハ御通常禮裝、皇后ハ御通常服、供奉員宮内官ハ供奉服、武官ハ通常禮裝(近衛將校ハ軍裝トス)、女子ハ通常服

第五 神武天皇山陵及明治天皇山陵親謁ノ節京都皇宮京都驛間鹵簿

警 部 騎馬

近衛騎兵

天 皇 旗 近衛騎兵捧持

警 部 騎馬

近衛騎兵 近衛將校騎馬 天皇 御馬車侍從長陪乘 近衛將校騎馬 近衛騎兵

近衛將校騎馬 近衛將校騎馬 近衛騎兵 侍馬車

皇 后 御馬車女官長陪乘 近衛將校騎馬 近衛騎兵 侍馬車

女 官馬車 侍從武官長馬車 宮内大臣馬車 侍從武官馬車 皇后宮大夫馬車

宮内書記官 皇后宮事務官馬車 近衛騎兵 警部騎馬 警部騎馬

○馬車ノ種類 第三ニ同シ

○服 裝 天皇ハ御正裝、皇后ハ御通常服、供奉員男子ハ大禮服、正裝(近衛將校ハ軍裝トス)、女子ハ通常服

第六

宇治山田行在所兩宮内頓宮間
畝傍驛畝傍山東北陵頓宮間
桃山驛伏見桃山陵頓宮間
京都皇宮後月輪陵頓宮間

鹵簿

警部騎馬 警部騎馬 警視騎馬 近衛騎兵 式部長官馬車
警部騎馬 警部騎馬 警部騎馬 近衛騎兵 式部長官馬車

宮内大臣馬車 天皇 旗 近衛騎兵捧持 近衛騎兵 車馬監騎馬

近衛將校騎馬 近衛將校騎馬 近衛將校騎馬 近衛騎兵

近衛將校騎馬 天皇 御馬車侍從長陪乘 近衛將校騎馬 近衛騎兵

近衛將校騎馬 皇 后 御馬車女官長陪乘 侍從武官長騎馬 侍從武官騎馬

近衛將校騎馬 近衛將校騎馬 近衛將校騎馬 侍從武官騎馬

主馬頭騎馬 第十六師團長騎馬 近衛騎兵 大禮使總裁馬車

親王馬車 親王馬車 王馬車 王馬車 妃馬車 侍從馬車 女官馬車

內大臣馬車 內閣總理大臣馬車 皇后宮大夫馬車
大禮使長官馬車 樞密院議長馬車 侍醫馬車

宮內次官馬車 宮內書記官馬車 知事馬車
大禮使次官馬車 式部事務官馬車 大禮使高等官馬車

近衛騎兵警部 騎馬 近衛騎兵警部 騎馬

○馬車ノ種類 天皇御馬車ハ御料儀裝車、皇后御馬車ハ座馭式御料儀裝車、供奉員馬車ハ儀裝車
○服 裝 宇治山田行在所兩宮内願宮間ノ鹵簿ニ在リテハ天皇ハ御正裝、皇后ハ御袿袴、供奉員男子ハ大禮服、正裝、女子ハ袿袴、其ノ他ノ鹵簿ニ在リテハ天皇ハ御正裝、皇后ハ御通常服、供奉員男子ハ大禮服、正裝、女子ハ通常服
第七 大正天皇山陵親謁ノ節宮城原宿驛間鹵簿

警部騎馬 近衛騎兵 天皇 旗近衛騎兵扶持
警部騎馬 近衛騎兵

近衛騎兵 近衛將校騎馬 近衛將校騎馬 近衛將校騎馬 近衛將校騎馬
天 皇 御馬車 侍從長陪乘 近衛將校騎馬 近衛騎兵

近衛將校騎馬 近衛將校騎馬 近衛騎兵 侍馬車
皇 后 御馬車 女官長陪乘 近衛將校騎馬 近衛騎兵 侍從馬車

女官 馬車

侍從武官長 馬車
侍從武官

宮内大臣 馬車
皇后宮大夫

宮内書記官

警部 騎馬

皇后宮事務官 馬車

近衛騎兵

侍醫

警部 騎馬

○馬車ノ種類 第三ニ同シ
○服 裝 第五ニ同シ

第八 東淺川驛多摩陵頓宮間函簿

警部 騎馬

警部 騎馬

警部 騎馬

警部 騎馬

式部長官 馬車

警部 騎馬

警部 騎馬

式部長官 馬車

宮内大臣 馬車

天皇旗

近衛騎兵捧持

近衛騎兵 車馬監 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛騎兵

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

侍從武官 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

侍從武官 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

近衛將校 騎馬

侍從武官 騎馬

主馬頭 騎馬

第一師團長 騎馬

近衛騎兵

大禮使總裁 馬車

親王 馬車

親王

侍從 馬車

女官 馬車

親王妃 馬車

親王妃

侍從 馬車

女官 馬車

内大臣 馬車

内閣總理大臣

皇后宮大夫 馬車

大禮使長官 馬車

樞密院議長

侍醫 馬車

宮内次官 馬車

宮内書記官 馬車
式部
大禮使次官 馬車
皇后宮事務官
大禮使高等官

東京府知事 馬車
警視總監

警部 騎馬

近衛騎兵

警部 騎馬

○馬車ノ種類 第六ニ同シ

○服 裝 天皇ハ御正裝、皇后ハ御通常服、供奉員男子ハ大禮服、正裝、女子ハ通常服

○大正十五年宮内省達第二號 (昭和二年一月二十日 宮内省達第二號改正)

御同乗又ハ御同列ノ場合ニ於ケル公式鹵簿及略式鹵簿ニ關スル件

第一條 天皇皇后皇太后御同乗又ハ御同列ノ場合ニ於ケル公式ノ鹵簿ハ臨時ノ勅定ニ依ル

第二條 略式鹵簿ハ略式馬車鹵簿及略式自動車鹵簿トス

第三條 略式馬車鹵簿ハ左ノ如シ

(略)

第四條 略式自動車鹵簿左ノ如シ

第一 天皇略式自動車鹵簿

警察官 <small>自動車</small>	天 皇 <small>御自動車、侍從長又ハ侍從次長陪乘</small>	近衛將校	近衛將校	皇宮警察官
------------------------	-------------------------------------	------	------	-------

侍從武官 <small>自動車</small>	侍從武官長 <small>自動車</small>	宮内大臣又ハ宮内次官 <small>自動車</small>	警察官 <small>自動車</small>
-------------------------	--------------------------	-------------------------------	------------------------

(注意)侍從武官長陪乗スルトキハ「侍從武官長陪乗自動車」ヲ「侍從長又ハ侍從次長陪乗自動車」トス
 近衛將校及皇宮警察官ハ側車附自動自轉車又ハ自動自轉車ヲ用ウ、以下之ニ做フ
 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ供奉員及車輛數ハ之ヲ變更スルコトアルヘシ、以下之ニ做
 フ

第二 天皇皇后御同列略式自動車鹵簿

近衛將校

警察官 自動車

天皇 御自動車、侍從長
又ハ侍從次長陪乗

皇宮警察官

近衛將校

皇后 御自動車、
女官陪乗

近衛將校

皇宮警察官

侍從 自動車
侍從武官

近衛將校

女官 自動車

侍從武官長
皇后宮大夫
侍醫

自動車

宮内大臣又ハ宮内次官
宮内書記官
皇后宮事務官

自動車

警察官 自動車

第三 天皇皇后御同乘略式自動車鹵簿

近衛將校

警察官 自動車

天皇 御自動車、侍從長
皇后 又ハ侍從次長陪乗

近衛將校

皇宮警察官

近衛將校

侍從 自動車
侍從武官

女官 自動車

侍從武官長
皇后宮大夫
侍醫

自動車

宮内大臣又ハ宮内次官
宮内書記官
皇后宮事務官

自動車

警察官 自動車

第四 皇后略式自動車鹵簿

近衛將校

警察官 自動車

皇后 御自動車、
女官陪乗

近衛將校

皇宮警察官

近衛將校

女官 自動車

皇后宮大夫 自動車
皇后宮事務官
侍醫

警察官 自動車

○大禮使官制 (昭和二年十二月三十日 勅令第三百八十二號)

第一條 大禮使ハ内閣總理大臣ノ管理ニ屬シ即位ノ禮及大嘗祭ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 大禮使ニ總裁ヲ置ク

總裁ハ皇族ノ中ヨリ之ヲ勅命ス

第三條 大禮使ニ左ノ職員ヲ置ク

- 長官 二人
- 次官 若干人
- 參與官 若干人
- 事務官 若干人

典儀官 若干人

書記 若干人

前項職員ノ外必要アルトキハ御用掛ヲ置クコトヲ得

第四條 長官ハ之ヲ勅命ス

次官、參與官、事務官及典儀官ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス御用掛ヲ命スルトキ亦同ジ

書記ハ長官之ヲ命ズ

第五條 長官ハ所部ノ職員ヲ統督シ使務ヲ總理ス

長官事故アルトキハ内閣總理大臣ノ指名スル次官其ノ職務ヲ代理ス

第六條 次官ハ長官ヲ輔ケ使務ヲ掌理ス

第七條 參與官ハ長官ノ命ヲ承ケ使務ヲ輔ク

第八條 事務官ハ上司ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

典儀官ハ上司ノ命ヲ承ケ典式ヲ掌ル

第九條 書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務及典式ニ關スル事務ニ從事ス

第十條 官職ヲ有スルニ因リ大禮使職員ヲ命セラレタル者ヲ除クノ外長官ハ親任官、次官及參與官ハ

勅任官、事務官ハ勅任官又ハ奏任官、典儀官ハ奏任官、書記ハ判任官ノ待遇トシ御用掛ノ待遇ハ各別ニ之ヲ定ム

第十一條 官職ヲ有スルニ因リ大禮使職員ヲ命セラレタル者其ノ官職ヲ退キタルトキハ退職ス

第十二條 使務ノ處理ニ關スル規程ハ長官之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大禮使處務規程(昭和二年十二月三十日大禮使決定)

第一條 大禮使ニ評議會、長官官房及左ノ六部ヲ置ク

典儀部

調度部

造營部

車馬部

鐵道部

主計部

第二條 評議會ハ長官ノ諮問ニ依リ重要ノ事項ヲ審議ス

第三條 長官官房ニ於テハ人事、文書、饗宴其ノ他各部ニ屬セサル一切ノ事務ヲ掌ル

第四條 典儀部ニ於テハ祭祀、典式及接伴ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 調度部ニ於テハ物件ノ購入、供給及運送竝ニ雜役ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 造營部ニ於テハ建築其ノ他ノ工事ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 車馬部ニ於テハ馬車、馬匹及自動車ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 鐵道部ニ於テハ鐵道ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 主計部ニ於テハ會計ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 評議會ニ會員及幹事、長官官房ニ官房主任、各部ニ部長ヲ置ク

第十一條 評議會ノ議事ハ長官之ヲ整理シ長官事故アルトキハ長官ノ指名スル次官之ニ代ル

第十二條 職員ノ勤務ハ長官之ヲ命ス

評議會會員及各部長ハ次官及參與官ノ中ヨリ、評議會幹事及長官官房主任ハ事務官ノ中ヨリ長官之ヲ命ス

○大禮使長官官房事務分擔(昭和三年一月九日制定)

總務係

長官官房ニ屬スル重要ナル事務ノ審議ニ關スル事項

庶務係

機密ニ關スル事項

職員ノ進退身分ニ關スル事項

職員ノ分屬定員等ニ關スル事項

官印ノ管守ニ關スル事項

褒賞賜與及給與ニ關スル事項

進獻ニ關スル事項

其ノ他各係ニ屬セサル事項

文書係

文書ノ接受發送ニ關スル事項

文書翻譯ニ關スル事項

統計報告ニ關スル事項

長官官房ノ書類整理ニ關スル事項

大禮記録ニ關スル事項

法規類ノ調査審議立案ニ關スル事項

饗饌係

饗饌賜饌ニ關スル事項

食品給與ニ關スル事項

警備係

御警衛ニ關スル事項

消防ニ關スル事項

防疫衛生ニ關スル事項

救護ニ關スル事項

新聞寫真係

新聞雜誌出版物ニ對スル發表及取締ニ關スル事項寫真及活動寫真ノ取締ニ關スル事項

○大禮使職員 (昭和三年九月二十二日現在)

總裁	大勳位功二級	載仁親王
長官	從三位公爵	近衛文麿
次官	內閣書記官長	鳩山一郎
次官	宮內次官	關屋貞三郎
御用掛	正二位勳一等伯爵	伊東巳代治
御用掛	從二位勳一等男爵	平沼騏一郎
評議會	參與官	鐵道次官 八田嘉明
會員次官	關屋貞三郎	法制局長官 前田米藏
參與官	鳩山一郎	內藏頭 杉琢磨
參與官	式部長官 伊藤博邦	法制局參事官 金森徳次郎
參與官	大藏次官 黒田英雄	內閣書記官 長谷川尠夫
參與官	主馬頭 西園寺八郎	宮内事務官 白根松介
參與官	內匠頭 東久世秀雄	長官官房

主任事務官	宮内書記官	武宮雄彦
同	同	長谷川尠夫
同	同	白根松介
勤務參與官	正四位勳一等	二上兵治
同	農林次官	阿部壽準
同	大膳頭	上野季三郎
同	帝室會計審査局長官	入江貫一
同	侍從次長	河井彌八
同	商工次官	四條隆英
同	外務次官	吉田茂
同	逓信次官	桑山鐵男
同	宗秩寮總裁	仙石政敬
同	司法次官	小原直
同	文部次官	栗屋謙
同	圖書頭	杉榮三郎
參與官	海軍次官	大角岑生
同	陸軍次官	阿部信行
同	宮内省參事官	大谷正男
同	京都府知事	大海原重義
同	帝室林野局長官	三矢宮松
同	警視總監	宮田光雄
同	內務次官	前田米藏
同	內務省民事局長官	潮惠之輔
事務官	內務省民事局長官	池田寅二郎
同	地方局長官	佐上信一
同	商工省鑛山局長官	三井米松
同	司法省刑事局長官	泉二新熊
同	內務省警保局長官	横山助成
同	內務省衛生局長官	山田準次郎
同	文部省普通學務局長官	武部欽一

事務官	商務局長	副島千八
同	電信局長	島山敏行
同	衆議院書記官長	中村藤兵衛
同	文部省局長	下村壽一
同	大藏省局長	平塚米次郎
同	逓信局長	宮崎通之助
同	内務省局長	成瀬
同	貴族院書記官長	石黒忠篤
同	農林省局長	黒崎定三
同	法制局局長	草間秀雄
同	朝鮮總督府財務局長	渡部信
同	宮内事務官	金森徳次郎
同	大藏省主税局長	藤井眞信
同	臺灣總督府財務局長	富田松彦
同	宮内事務官	海江田幸吉

事務官	關東廳長	西山左内
同	内閣拓殖局長	成毛基雄
同	福岡縣知事	齋藤守因
同	滋賀縣知事	堀内鼎
同	法務省局長	村瀬直養
同	参事官	木下道雄
同	宮内事務官	植松雅道
同	内務省局長	井口延次郎
同	總務大臣	加賀谷朝藏
同	皇室警察局長	池田清
同	京都府書記官	石田馨
同	京都府書記官	酒卷芳男
同	宮内省参事官	殖田俊吉
同	總務大臣	牛島省三
同	警視廳書記官	本多猶一郎
同	宮内事務官	

事務官	内閣總理大臣	金子武麿
同	秘書官	鈴木重孝
同	宮内事務官	高木三郎
同	宮内書記官	岡本愛祐
同	宮内書記官	相川勝六
同	皇宮警視	杉本是助
同	内閣書記官	横溝光輝
同	主膳監	來次六雄
兼勤		相馬孟胤
同		武井守成
同		三井篤
同		伊東太郎
勤務		伊藤博邦
部長		九條道實
典儀部		

事務官	農林省農務局長	松村眞一郎
同	式部官	渡邊直達
同	式部官	山邊知春
同	掌典次長	本多正復
同	内務省神社局長	吉田茂
同	式部官	坊城俊良
同	宮内事務官	松平慶民
同	式部官	相馬孟胤
同	陸軍歩兵大佐	梅津美治郎
同	式部官	山縣武夫
同	式部官	武井守成
同	宮内書記官	金田才平
同	宮内書記官	鹿兒島虎雄
同	海軍大佐	小楨和輔
同	宮内事務官	杉村愛仁

部長 參與官 大藏次官 黒田 英雄
 勤務 事務官 大藏省主計局長 河田 烈
 同 宮内事務官 淺田 惠一
 同 大藏書記官 佐野 正次
 同 宮内事務官 三浦 篤
 兼 勤 參與官 杉 琢磨
 事務官 村瀬 直養

警備係、新聞寫眞係員氏名

(昭和三年八月十五日現在)

警備係員
 大禮使事務官 横山 助成
 同 山田 準次郎
 同 加賀谷 朝藏
 同 池田 清
 同 牛島 省三

新聞寫眞係員

大禮使事務官 相川 勝六
 同 杉本 是助
 大禮使書記 河井 十吉
 同 半井 貞成
 同 若城 祐
 同 鎌田 幸雄
 同 加藤 一六
 大禮使參與官 三矢 宮松
 同 事務官 伊東 太郎
 同 渡部 信
 同 井口 延次郎
 同 殖田 俊吉
 同 本多 猶一郎
 同 金子 武麿

○大禮費及大禮施設費ノ支辨ニ屬スル内國旅費ノ

特例ニ關スル件

(昭和三年一月勅令第二號)

大禮使事務官 高木 三郎
 同 相川 勝六
 同 横溝 光暉
 大禮使書記 半井 貞成
 同 若城 祐

大禮使書記 吉澤 明義
 同 鈴木 増太郎
 同 吉村 豊三
 同 田中 庄次

第一條 大禮費及大禮施設費ノ支辨ニ屬スル内國旅費ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外内國旅費規則ニ依ル

第二條 大禮ニ關スル用務ニ依リ京都市ニ旅行スル者ニ支給スル其ノ地ニ於ケル日當及宿泊料ハ大藏大臣ノ定ムル期間内ニ限リ別表ニ定ムル定額トス

第三條 前條ニ規定スル日當及宿泊料ニ付テハ内國旅費規則第十七條ノ二ノ規定ハ之ヲ適用セス
 前條ノ期間前ヨリ其ノ期間經過後ニ亘リ滞在スル者ニ付テハ前後ノ滞在日數ヲ通算シテ内國旅費規

則第十七條ノ二ノ規定ヲ適用ス

第四條 大禮ノ諸儀ヲ行ハセラルルニ付勅使トシ旅行スル者ニハ其ノ用務地ノ屬スル府縣ニ到著ノ日ヨリ其ノ府縣ヲ離ルル日迄大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日當及宿泊料ノ十割以內ヲ増給スルコトヲ得
勅使ニ隨行シテ旅行スル者ニハ前項ニ規定スル期間、外國貴賓接待ノ爲旅行スル者ニハ貴賓ニ隨從スル期間大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日當及宿泊料ノ二割以內ヲ増給スルコトヲ得

第五條 大禮ニ關スル用務ニ依リ旅行スル官吏ニシテ兼官アル者ノ旅費ハ其ノ官ノ高キニ從フ

第六條 特ニ大禮ノ諸儀ニ參列ヲ命セラレ京都市ニ旅行スル者ニハ順路ニ依リ居住地ヨリ京都市ニ至ル往復旅費並ニ最初參列ノ前日ヨリ最終參列ノ日ニ至ル滯在中ノ日當及宿泊料ヲ支給ス

第七條 前條ノ旅費ハ昭和四年三月三十一日迄ニ請求セサル者ニハ之ヲ支給セス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別 表)

官	區	分	日當一日ニ付	宿泊料一夜ニ付
	階			
親任官	同	待	遇	十
				三
官	同	待	遇	二十
				二
親任官	同	待	遇	三十
				圓
官	同	待	遇	二十
				二
親任官	同	待	遇	三十
				圓

勅任官	同	待	遇	九	十	十五
				圓	圓	圓
奏任官	同	待	遇	五	七	十
				圓	圓	圓
同	待	遇	六	六	九	圓
判任官	同	待	遇	二	四	七
				圓	圓	圓
同	待	遇	三	三	五	十

備 考

- 一、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ニシテ官等等級ノ配當ナキモノハ奏任官待遇ニ在リテハ六等以下、判任官待遇ニ在リテハ三等以下トス
- 二、本表ニ掲ケサル者ノ定額ニ關シテハ大藏大臣之ヲ定ム

(參 照)

明治四十三年六月十八日勅令第二百七十四號内國旅費規則抄錄

第十七條ノ二 日當及宿泊料ハ同一地ニ滯在十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ一割、三十日以上ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ二割、六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ三割、百日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ四割ヲ減ス

同一地ニ滞在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

○大禮費及大禮施設費ノ支辨ニ屬スル内國旅費ノ

特例ニ關スル件(昭和三年一月十七日 大藏省令第一號)

第一條 大禮ニ關スル用務ニ依リ京都市ニ旅行スル者ニ對シ昭和三年勅令第二號第二條ノ規定ニ依リ日當及宿泊料ヲ支給スル期間ハ昭和三年十一月一日ヨリ同三十日迄トス

第二條 昭和三年勅令第二號第二條ノ規定ニ依リ同令別表備考ニ該當スル者ニ對シ支給スル日當及宿泊料ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ各號ニ依ル

- 一、囑託員ハ官吏及官吏ノ待遇ヲ受クル者竝宮内官及宮内官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ昭和三年勅令第二號別表ノ區分ニ準據シ各其ノ官又ハ待遇ノ相當額、其ノ他ノ者ニ在リテハ地方吏員ニハ所管大臣ノ定ムル額、大藏省所管旅費支給規則第七條第一項第五號ノ一乃至四ニ該當スル者ニハ同規定ノ定ムル區分ニ從ヒ當該官吏ニ付昭和三年勅令第二號別表ノ定ムル額、同第五號ノ五ニ該當スル者ニハ別表甲額

二、雇員ハ大藏省所管旅費支給規則第六條第一號及第二號ニ該當スル者ニ在リテハ同規定ノ定ムル

區分ニ從ヒ當該官吏ニ付昭和三年勅令第二號別表ノ定ムル額、同條第三號ニ該當スル者ニ在リテハ別表甲額

三、傭人ハ大藏省所管旅費支給規則第八條ニ該當スル者ニ在リテハ別表甲額、同第九條ニ該當スル者ニ在リテハ別表乙額但シ同條但書ノ規定ヲ準用スルモノトス

四、陸軍下士勤務諸兵卒及海軍一等兵ハ別表甲額、下士勤務以外ノ陸軍諸兵卒及海軍二等兵以下ハ別表乙額

特殊ノ事情アル者ニ付テハ其ノ身分及用務ノ性質ニ依リ其ノ都度之ヲ定ム

第三條 大禮ノ諸儀ヲ行ハセラルルニ付勅使トシテ旅行スル者及其ノ隨行者竝外國貴賓接待ノ爲旅行スル者ニハ昭和三年勅令第二號第四條ノ規定ニ依リ左ノ區分ニ依リ日當及宿泊料ノ定額ヲ増給ス

- 一、勅使ニハ十割、其ノ隨行者ニハ二割但シ官國幣社ニ發遣セラレタル勅使及其ノ隨行者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 二、外國貴賓接待ノ爲旅行スル者ニハ二割但シ官費ヲ以テ寢具等ヲ設備シタル場所ニ宿泊シタル場合ニ於ケル宿泊料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道哩表 (最短距離)

驛名	東京	横濱	静岡	名古屋	岐阜	大津	京都	大阪	奈良
津	281.5	263.3	162.3	46.9	65.7	87.7	81.6	85.4	55.6
奈良	317.9	299.7	198.7	83.3	99.0	32.1	26.0	29.8	
大阪	353.2	335.0	234.0	118.6	99.8	32.9	26.8		
京都	326.4	308.2	207.2	91.8	73.0	6.1			
大津	320.3	302.1	201.1	85.7	66.9				
岐阜	253.4	235.2	134.2	18.8					
名古屋	234.6	216.4	115.4						
静岡	119.2	101.0							
横濱	18.2								

津 — 宇治山田	26.1
京都 — 桃山	4.4
奈良 — 畝傍	15.2

津	宇治山田	京都	桃山	奈良	畝傍	岐阜	大津	京都	大阪	奈良	津
1.02											
	1.15										
		1.57									
			2.03								
			.17	2.20							
			.41	.58	3.01						
			1.43	1.26	1.43	3.46					
1.43	4.33	4.16	4.33	2.40	2.02	5.25	9.01	9.43			
時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分			

鐵道所要時間表 (普通急行利用)

(別表)

區分	日當一日ニ付	宿泊料一夜ニ付
甲額	二圓五十錢	四圓五十錢
乙額	二圓	三圓五十錢

○大禮ニ關スル工事等ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ル

ノ件 (昭和三年一月十三日勅令第三號)

大禮ニ關スル工事、製造又ハ物件ノ買入若ハ借入ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○神武天皇山陵並前帝四代ノ山陵所在地

御歴代	帝號	陵名	所在地
一	神武	畝傍山東北陵	奈良縣高市郡白檜村
二〇	仁孝	後月輪陵	京都市下京區今熊野町
二二	孝明	後日輪東北陵	京都市下京區今熊野町
二三	明治	伏見桃山陵	京都府紀伊郡堀内村
二三	大正	多摩陵	東京府南多摩郡横山村大字下長房字籠ヶ谷戸

驛名	東京	横濱	静岡	名古屋	岐阜	大津	京都	大阪	奈良
津	14.79 10.30	14.04 9.80	9.34 6.76	2.36 2.36	3.66 3.18	4.28 4.10	3.86 3.86	4.02 4.02	2.76 2.76
奈良	15.47 11.24	15.04 10.80	10.22 7.98	3.94 3.94	6.30 4.56	1.84 1.66	1.30 1.30	1.50 1.50	
大阪	18.15 12.10	17.46 11.64	13.44 8.96	7.89 5.26	6.90 4.60	2.49 1.66	2.04 1.36		
京都	17.19 11.46	16.53 11.02	12.36 8.24	6.42 4.28	5.22 3.48	.54 .36			
大津	16.98 11.32	16.32 10.88	12.09 8.06	6.03 4.02	4.83 3.22				
岐阜	14.28 9.52	13.53 9.62	8.70 5.80	1.44 .96					
名古屋	13.47 8.98	12.72 8.48	7.74 5.16						
静岡	7.92 5.28	6.96 4.64							
横濱	1.44 .96								

鐵道賃金表 (急行料ヲ含マス)

津	—宇治山田……………	1.36
京都	—桃山……………	.26
奈良	—畝傍……………	.80

備考
上記ハ一等
下記ハ二等
區間ハ二等
以テ計算シタリ

○警衛例規

五六

●行幸御道筋通行者敬禮方 (明治六年三月九日
太政官布告第九六號)

行幸ノ節其御道筋通行ノ者旗章ヲ見受ケ候ハ、車馬ヲ下リ笠竝帽等ヲ脱シ總テ路傍ニ立禮可致事

●行幸御途中直訴建言禁止諭達方 (明治九年二月八日
太政官達第一三號)

近來 行幸ノ節御途中ニ於テ突然儀仗内へ衝入シ訴狀建言書ノ類差出候者往々有之右ハ國律ニモ明載有之儀ニテ甚以不相濟次第ニ候得共小民共情事切迫ノ餘リ心得違ニ依リ終ニ罪科ニ相觸レ候様ニテハ
愍然ノ至ニ候條向後右様心得違ノ者無之様諭達可致此旨相達候事

但訴願建言等規則ニ依リ其筋へ差出候ハ取上ケ可相成旨ヲモ是又懇諭ニ可及置事

●拜觀人ニ對シ脱帽等ノ注意ヲ促スニ及ハス及高所拜觀ニ關ス

ル件訓令 (明治三十二年六月訓第
五八二號廳府縣長官宛)

行幸啓途上御警衛ニ關シテハ從來御旗ノ接近スルニ際シ取締巡查ニ於テ拜觀人ニ對シ帽子其ノ他冠物ヲ脱スル様敬禮ノ注意ヲ促シ來候處之等ハ今日ニ於テ一般人民ノ既已ニ辨知致シ居ルヘキ筈ニ付不心

得ノ輩ニ注意ヲ與フルハ格別一般拜觀人ニ對シ注意ヲ促スノ必要ナカルヘク又高所ニ在リテ御通輦ヲ拜スル如キモ其ノ御輦路ヨリ隔絶セル場所又ハ地形上拜觀者ノ位置自然高キニ居ル場合等ハ大抵之ヲ差止ムルニ及ハス右ハ素ヨリ各地狀況ヲ別ニシ都鄙其ノ習俗ヲ異ニシ必スシモ齊一ヲ期スル能ハサルヘキヲ以テ彼此斟酌シ寬嚴其ノ度ヲ誤ラサル様取締方注意セララルヘシ

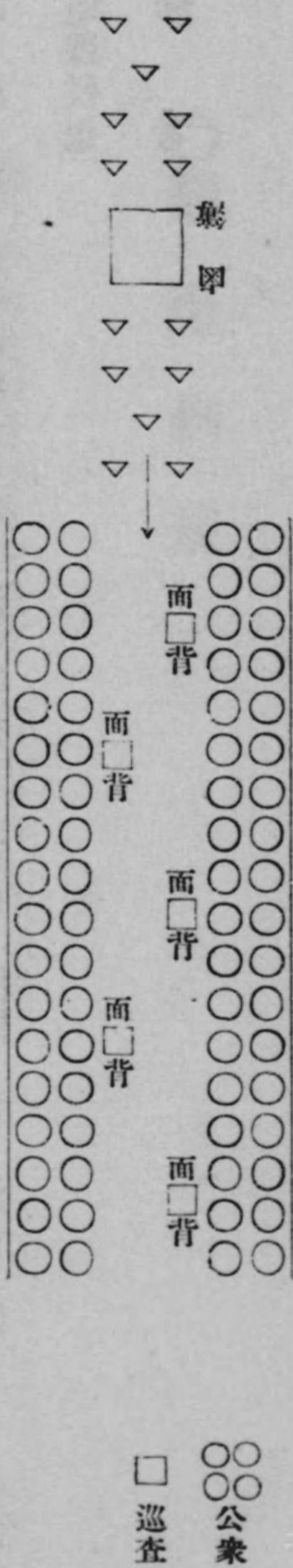
●警衛線ニ配置ノ警察官吏ハ禮式ヲ爲サス公衆ニ注目ノ件依命

通牒 (明治三十三年五月警甲第一八
號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

警察官ニシテ警衛ニ從事スルルハ瞬時ト雖モ警戒ヲ怠ルヘカラサルヲ以テ警察禮式第十四條(現行第十條)ニ特例ヲ設ケアル儀ニ候處實際ハ禮式ヲ行ヒ爲ニ本務ノ警戒ヲ全フセサル向モ有之警衛ノ趣旨ニ副ハサル儀ニ候間自今警衛線ニ配置シタル警察官ハ總テ禮式ヲ爲サシメス專ラ警戒ニ從事セシメラレ度而テ現場ニ於テハ警察官ハ公衆ノ前ニ於テ側面ノ方向ヲ取り風聲其他警衛ヲ要スル人ノ進行シ來ル方ニ向ヒ居リ主トシテ視線ヲ公衆ニ注キ通御又ハ通過ノ間際ニ於テ注意ヲ缺クコト無之様致度依命此段及通牒候也

參 考

五七



●御道筋ニ於ケル交通往來ノ阻止、拜觀人傘外套ノ使用異様又

ハ汚染ノ服装ニテ拜觀ヲ爲ス者ノ取扱方、汽車ノ車窓閉鎖等

ニ關スル件訓令 (明治三十六年六月訓第 三八五號廳府縣長官宛)

行幸啓ノ際ニ於ケル御警衛向ニ關シテハ從來再三訓令及置候得共猶ホ左記ノ事項十分注意ヲ加ヘ警衛上不都合ナキヲ期スルト共ニ公衆ノ便宜ヲ計リ兼テ拜觀人ヲシテ十分拜觀ノ榮ヲ得セシムル様取計ヲハルヘシ

- 一 御通過ノ御道筋ニ於テ往々長時間交通ヲ杜塞スル傾アリテ交通上不便ヲ與フルハ甚タ遺憾ノ義ニ付御通過ヲ妨ケサル限リ往來ヲ阻止スル等ノコトナキヲ期スヘシ
- 二 降雨ノ際ハ拜觀人ヲシテ傘ヲ翳サシムルモ差支ナキヲ以テ之ヲ制止スル等ノコトナカラシムヘク又外套ハ強テ之ヲ脱セシムルヲ要セス
- 三 拜觀人ニシテ異様ノ服装ヲ爲シ若ハ著シク汚染シタル服装セル者ヲ制止シ後方ヨリ拜觀セシメ又

ハ立去ラシムルハ格別眼鏡ヲ用ヒ下駄ヲ穿ツ等ハ制止スヘキ限リニ在ラス

四 通路ニ面セル貸座敷業者ニシテ外面ヨリ其ノ業體ヲ視見セラル、場合ハ格別其ノ他ノ二階屋ニ在テハ窓戸ヲ閉鎖セシムルヲ要セス

五 御召汽車停車行達列車車窓ヨリ首ヲ出シ又ハ其ノ他不體裁ノ行爲ナキ様鐵道理事者ト協議ノ上相當取締ヲ加ヘ靜肅ニ敬意ヲ表セシムル様取計フヘシ
但車窓ハ閉鎖セシムルヲ要セス

●行幸啓ノ節地方長官奉迎送ノ件内訓 (明治三十六年十月二十七日内訓廳府縣長官宛)

自今行幸啓ノ節地方長官ハ其ノ管轄界ニ奉迎シ更ニ管轄界迄奉送候様致サルヘシ
但御警衛向ニ付テハ從來ノ通ト心得ヘシ

●行幸啓ノ節地方長官奉迎送ニ關スル件通牒 (明治三十六年十月丙第 八四九號 内務總務長官ヨリ廳府縣長官宛)

行幸啓ノ節地方長官奉送迎ノ儀ニ關シ今回本省大臣ヨリ内訓相成候處右ハ行幸啓ノ節地方長官奉送迎ニ關スル心得方ハ其時々宮内大臣ヨリ達セラル、例ニシテ從來「地方官ハ便宜所在ノ停車場ニ於テ奉送迎スヘシ」ト定メラレ候處甲府縣ニ於テハ其管轄界迄奉送迎シ乙府縣ニ於テハ全ク宮内省令達ノ通遵奉シ單ニ府縣廳所在地ノ停車場ニ於テ奉送迎スルニ止マルアリ甲乙區々ニ涉リ體裁ヲ失スルノ嫌有之候ニ付今回宮内省へ協議ノ上内訓被相發候右様御心得相成度尙 皇太子殿下行啓ノ節特ニ御微行ノ

儀被仰出候場合ハ全ク内訓ノ外ト御承知相成度御心得迄此段及通牒候也

●皇太子殿下陸海軍演習ニ關シ御微行行啓ノ節奉送迎御警衛其

ノ他ノ件依命通牒 (明治四十五年六月内務省秘第六四
七號内務次官ヨリ廳府縣長官宛)

皇太子殿下陸海軍演習ニ關シ御微行ニテ行啓ノ節奉送迎其ノ他ノ件今後左之通御承知相成度依命此段及通牒候也

追テ本件ハ宮内省ト協議濟ニ付此段申添候也

- 一 地方長官ハ其ノ管下御着發地停車場又ハ御着發港ニ於テ奉送迎ヲ爲ス事
- 一 管下御滞在中ハ御機嫌伺ノ爲時機ヲ見計ヒ御旅館ニ伺候シ演習地ニハ常ニ扈從スルニ及ハサル事
- 一 陸海軍演習ヲ兼ネ管下ニモ行啓ノ節ハ演習御用ニテ管下御往復ノ場合ニ限り前項ニ據ル事
- 一 警察部長ハ御警衛ノ爲メ管下全般ニ涉リ常ニ扈從スルコト
- 一 事務官郡市長其ノ他御警衛ニ關係ナキ官吏ハ扈從スルニ及ハサル事
- 一 還御ノ後地方長官ハ御禮ノ爲特ニ上京スルニ及ハサル事

以上

●行幸啓ノ際學校生徒、在郷軍人團其ノ他各種團體ノ旗手團體

旗操縱敬禮ノ儀ニ付注意ノ件依命通牒 (大正二年十月内務省警第四〇三
號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

行幸啓ノ際學校生徒、在郷軍人團其ノ他各種團體ニ於テ旗手ヲシテ校旗等ヲ握持セシメ拜觀致居候處御通過ノ際旗手ニ於テ旗ヲ操縱シ若ハ敬禮ヲ行フニ當リ體ノ上部ヲ前方ニ屈曲候爲團體旗等ノ衛騎ニ觸レテ馬匹ヲ驚逸セシメ萬一鹵簿ニ支障ヲ及ホス様ノコト有之候テハ恐懼之至ニ不堪次第ニ有之就テハ右諸學校團體等ノ旗手ハ御通過ノ際旗ヲ操縱スルコトナク直立不動ノ姿勢ヲ嚴守シテ敬禮ヲ行ヒ體ヲ前方ニ傾ケ候コト無之様致度候間此旨關係ノ向ハ勿論直接取締ニ從事候警察官吏ニ對シ周到御注意ノ上將來此ノ習慣ヲ馴致候様特ニ御配慮相煩度候

●行幸啓ノ際在郷軍人團體ノ旗手團體旗操縱敬禮ノ儀ニ付陸軍

大臣ヨリ帝國在郷軍人會々長ニ對シ通牒ノ件 (大正四年九月内務省陸警第二〇
號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

行幸啓ノ際學校生徒在郷軍人團其ノ他各種團體旗操縱敬禮ノ件ニ付テハ去ル大正二年十月警發第四〇三〇號ヲ以テ及通牒置候處今般在郷軍人會分會旗敬禮ノ件ニ關シ陸軍大臣ヨリ帝國在郷軍人會々長ニ對シ別紙ノ通牒相成候趣陸軍省軍務局長ヨリ通知有之候間行幸啓等ノ際途上警衛ニ從事候向ハ右ニ依リ周到注意候様御配慮相煩度候

(別紙)

軍步第一六五號 (大正四年九月二十一日軍
務局長ヨリ警保局長宛)

帝國在郷軍人會分會旗敬禮ノ件ニ關シ御通牒ノ趣了承右ハ今回更ニ帝國在郷軍人會長ニ對シ陸軍大

臣ヨリ別紙ノ通通牒相成候條御承知相成度候也

(別紙)

天皇皇后兩陛下皇族殿下幸行啓等ノ際會旗ヲ樹立シテ奉迎送スル場合ニ於テ會旗ノ行フ敬禮往々
鹵簿ノ近接シタルトキ急ニ傾倒スルモノアリテ諸種ノ不都合ヲ生スル様聞及候條將來會旗ノ敬禮ハ
前驅先頭ノ到達前之ヲ傾倒シ後驅後尾ノ通過後之ヲ復舊スルコトニ特ニ注意シ尙場所道路等ノ廣狹
ヲ顧慮シ傾倒ノ度及緩急又ハ其ノ方向ヲ斟酌シ要スレハ會旗ヲ傾倒セスシテ敬意ヲ表スル等苟モ鹵
簿ニ支障ヲ及ホサル様注意相成度候也

●行幸啓ノ節學生々徒敬禮方文部省訓令 (明治四十三年八月訓令第十八號)

行幸啓ノ節學生々徒敬禮方

一 武裝携銃ノ場合

學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各中隊ノ右翼ニ位置シ豫メ劔ヲ銃ニ裝セシメ前驅ノ見エタル
時「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車カ中隊ノ右翼約十歩ニ近キタルトキ「捧
銃」ノ號令ニテ一齊ニ捧銃ヲナサシメ御車カ中隊ノ左翼約十歩ヲ過キタルトキ元ノ姿勢ニ復セシム
御車カ中隊ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

二 武裝セサル場合(女生徒ヲ含ム)

學校長及職員ハ全列ノ右翼ニ指揮者ハ各組ノ右翼ニ位置シ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ
下シ一齊ニ脱帽セシメ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車カ指揮者ノ前ニ達シタルトキ「禮」ノ號令ニテ
敬禮セシメ(體ノ上部ヲ約三十度前方ニ屈シ御車ニ注目セシム)「直レ」ノ號令ニテ元ノ姿勢ニ復セ
シム

御車カ組ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

●行幸啓ノ節行在所其ノ他ニ出入シ得ル者ニ關スル件依命通牒

(大正二年十一月秘第一六六三號
警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

行幸啓ノ際大本營、行在所其ノ他御在所ノ諸門ヲ出入シ得ル者ハ鹵簿内ノ諸員、宮内省ニ於テ相定メ
候供奉員徽章、關係員徽章ヲ附着スル者、同省、特別大演習統監部及府縣廳ニ於テ發行ノ門鑑ヲ所持
スル者、陸海軍將校同相當官及警察官警部補以上ノ者ニシテ職服ヲ着用スル者ニ限り又御野立場御休所等ノ附
近ニ出入シ得ル者ハ御警衛其ノ他直接用務ニ關係スル陸海軍々人及警察官ノ外前記徽章ヲ附着スル者
ニ限レル義ニ有之候間右以外ノ者ハ當該行幸啓主務官ヨリ特ニ指示シタル者ノ外身分服裝ノ如何ニ拘
ラス出入拒絶相成ルヘキモノニ付取締ニ從事候向ニ對シ御注意置相成度尤停車場ニ奉送迎ノ場合ハ從
來ノ通御取計相成度可然義ニ有之候間御承知相成度候

●行幸啓ノ節路傍ニ跪座拜觀ニ關スル件通牒 (大正四年十一月五日發警第一一七號
警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

行幸啓ノ節一般拜觀人ニ對シテハ明治六年太政官布告第九十六號ノ趣旨モ有之從來高齡者ヲ除クノ外
總テ路上ニ起立セシムルコトニ相成居候處拜觀人ノ多數ナル場合ニ於テ跪座セシムルモ差支ナキコト
、セハ拜觀上好都合ナルノミナラス取締上雜沓ヲ制止シ得ル等官民相互ノ利便不少趣旨ヲ以テ宮内省
ニ及協議候處跪座拜觀セシムルモ異存無之旨回答有之候間今後行幸啓ノ場合ニ於テハ右ニ依リ御措置
相成度候

●御警衛ニ從事スル警察官吏ハ御通過後右回轉ヲ爲サ、ル件依

命通牒 (大正四年十二月二十四日發警第一
三八號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

行幸啓ノ節警衛ニ從事スル警察官吏ニシテ鐵道沿線ニ於テ公衆ノ集合セサル場所ニ位置スル者ハ御通
過後直ニ右回轉ヲ爲スノ件ニ付テハ本年八月十四日秘第一六二五號(大禮ニ關スル警察取締事項ノ件)
中ニ記載シ及通牒置候處其ノ後ニ於ケル實行ノ狀況ニ徵スルニ動作往々區々ニ涉リ又之アルカ爲市街
地ニ於テ警衛ニ從事スル者ニシテ仍ホ右回轉ヲ爲ス者アル等却テ統一ヲ缺クノ嫌有之候間自今場所ノ
如何ヲ問ハス總テ回轉セシメサルコトニ致度候

●途上警衛ニ從事スル警察官吏ノ心得ニ關スル件訓令 (大正五年七月二十五日訓
第六四八號廳府縣長官宛)

行幸啓ノ際途上警衛ニ從事スル警察官吏ハ最モ周到ナル注意ヲ以テ一般公衆ノ行動ニ視線ヲ注キ警戒
上毫モ間隙アルヲ容サス警察禮式第十條ニ於テ警衛ノ任ニ當レル警察官吏ニ敬禮ヲ行ハシメサルハ全

ク此ノ趣旨ニ出テタルモノニシテ其ノ之ヲ行フカ爲重大ナル任務ヲ忽ニスルハ却テ警衛ノ本旨ニ副ハ
サル所アレハナリ實況ニ徵スルニ警察官吏ノ一タヒ警衛線ニ配置セラル、ヤ態度或ハ畏縮ニ過キ或ハ
形式ニ流ル、ノ嫌アリ若シ夫レ事ニ臨ミ機宜ノ措置ヲ講スルコト能ハサルカ如キコトアルニ於テハ事
態寔ニ容易ナラス自今一層深ク意ヲ此ニ致シ行幸啓ノ際ニ當リテハ其ノ警衛ニ從事スル警察官吏ニ對
シ配置前必ラス懇篤周到ニ訓授ヲ與ヘテ職任ノ重大ナルヲ自覺セシメ更ニ應問ヲ發シテ訓授ノ徹底セ
ルヤ否ヤ又警衛警備ニ必須ノ事項ヲ熟知セルヤ否ヤヲ試ミ尙配置後ニ於テハ嚴格ニ各自ノ擔任區域ヲ
定メテ責任ヲ明確ナラシメ通御ノ際ハ鹵簿ノ進行ニ相對シテ正シク側面ニ方向ヲ取リテ直立シ通御後
ニ於テモ回轉スルコトナク同一ノ方向及姿勢ヲ維持シテ公衆ニ注目シ嚴密警戒ノ任ニ當ラシメ警衛上
遺憾ナキヲ期スヘシ

●行在所及御泊所警衛規程宮内大臣ヨリ制定通牒ニ付依命通牒

(大正六年十一月内務省内警第三
九號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

行在所及御泊所警衛規程別紙ノ通制定ノ旨宮内大臣ヨリ通知有之候條御了知相成度候

追テ大正二年十一月七日附當省秘第一六六三號依命通牒ニ依レハ宮内職員ト雖モ鹵簿内ノ諸員又ハ
供奉員徽章若ハ關係員徽章ヲ附着スルモノヲ除クノ外行在所諸門ヲ出入シ得サリシ義ニ有之候處今
回本規程ニ依リ宮内職員ニシテ制服着用ノ者ハ右行在所ノ諸門ヲ通行シ得ルコト、相成候次第ニ付

爲念

(別紙)

宮内大臣訓令 (大正六年十月二十
九日訓令第一六號)

行在所及御泊所警衛規程左ノ通定ム

第一條 行在所^{皇后宮御泊所亦同}以下之^ニ警衛ハ御著輦ノ日ニ始マリ御發輦ノ日ニ終ル

第二條 行在所ノ諸門ニハ衛兵ノ步哨及皇宮警察官又ハ警察官ヲ置ク

第三條 行在所ノ内部ノ警衛ハ衛兵及皇宮警察官^{場合ニ依リ之ヲ缺ク}之ニ當ル但シ必要ニ依リ尙憲兵警察官ヲ

配置スルコトアルヘシ

行在所ノ外部ノ警衛ハ憲兵及警察官之ニ當ル

第四條 近衛兵行在所ノ守衛勤務ニ服セサル場合ニ於テハ當該所管ノ師團兵其ノ勤務ニ服ス前項ノ

場合ニ於テハ御車寄ニ供奉近衛騎兵ノ步哨ヲ置ク

第五條 行在所ノ諸門ノ警衛ニ從事スル者ノ心得左ノ如シ

第一 行在所ノ諸門ハ左ニ掲ケタルモノニ限り通行セシムヘシ但シ各門ニ就キ通行者ノ資格ヲ制限スルコトアルヘシ

甲 宮内職員、陸海軍將校同相當官及憲兵警察官ニシテ制服ヲ着用スル者

乙 宮内省ヨリ交附シタル供奉員徽章又ハ關係員徽章ヲ附着スル者

丙 宮内省、特別大演習統監部及地方廳ニ於テ發行シタル通行鑑ヲ所持スル者

第二 第一ニ掲ケタル者車馬ニ依リタルトキ之ニ附隨スル車夫馬丁等ハ通行鑑ヲ有セサルモ通行セシムルコトヲ得

第三 行在所ノ諸門ヲ通行スルコトヲ得ル者ト雖舉動及攜帶品等ニ於テ疑アリト認メタルトキハ一時其ノ通行ヲ停メ名刺ヲ徴シ指揮官ノ指示ヲ承クヘシ

第六條 配置其ノ他ノ警衛ニ關スル事項ハ總テ各指揮官ニ於テ行幸主務官又ハ行啓主務官ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第七條 東宮御泊所ノ警衛ハ衛兵^{場合ニ依リ之ヲ缺ク}及皇宮警察官又ハ警察官之ニ當ル但シ必要ニ依リ尙憲兵ヲ配置スルコトアルヘシ

第八條 第一條、第五條及第六條ノ規定ハ東宮御泊所ノ警衛ニ之ヲ準用ス

附 則

明治四十四年訓令第十六號ハ之ヲ廢止ス

●行幸啓ノ節供奉員及關係員徽章附着ノ件通牒 (大正六年十一月内警第三八號)
(警保局長ヨリ廳府縣長官宛)
行幸啓ノ節供奉員徽章及關係員徽章附着ノ件別紙ノ通ニ有之候條爲御參考及送付候也

(別紙)

行幸啓ノ節供奉員徽章及關係員徽章附著ノ件

(大正二年十一月六日宮内大臣訓令第二七號) 改正大正六年第十五號同十五年第八號昭和三年第七號

第一條 地方行幸啓ノ節供奉員ハ特ニ指示シタル場合ヲ除クノ外供奉員徽章ヲ附著スヘシ但シ皇宮警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

供奉員ニ非スシテ行幸啓ニ關係アル者ニハ必要ニ應シ關係員徽章ヲ附著セシム

第二條 供奉員徽章ハ甲乙丙三種ニ區別シ其ノ製式左ノ如ク定ム

甲種 高等官及之ニ準スル者之ヲ用ウ

製式

二條ノ線ヲ以テ周邊ヲ圍ミタル楕圓形中高ノ

銀色金屬臺ノ中央ニ七寶燒ニテ紫地ニ銀色ノ

宮字ヲ顯ハシタルモノヲ花心トシタル白地銀

色線ノ菊花章ヲ附ス



寸法形狀圖ノ如シ

乙種 判任官及之ニ準スル者之ヲ用ウ

製式 甲種ニ同シ但シ花心ハ綠地ニ銀色ノ宮字ヲ顯ハシタルモノトス

丙種 甲乙兩種以外ノ者之ヲ用ウ

製式

二條ノ線ヲ以テ周邊ヲ圍ミタル楕圓形中高ノ

銀色金屬臺ノ中央ニ金色ノ宮字ヲ浮出シタル

モノトス



寸法形狀圖ノ如シ

第三條 關係員徽章ハ甲乙兩種ニ區別シ其ノ製式左ノ如ク定ム

甲種 高等官、判任官及之ニ準スル者之ヲ用ウ

製式

線ニテ周邊ヲ圍ミタル圓形銀色金屬臺ノ中央

ニ七寶燒ニテ紫地ニ銀色ノ宮字ヲ顯ハシタル

モノヲ花心トシタル白地銀色線ノ菊花章ヲ附

ス



寸法形狀圖ノ如シ

乙種 甲種以外ノ者之ヲ用ウ

製式

線ニテ周邊ヲ圍ミタル圓形銀色金屬臺ノ中央
ニ金色ノ宮子ヲ浮出シタルモノトス



寸法形狀圖ノ如シ

第四條 供奉員徽章ハ上衣ノ右胸部ニ之ヲ附着ス外套ヲ着用シタルトキ亦同シ

關係員徽章ハ上衣ノ左胸部見易キ箇所ニ附着ス外套ヲ着用シタルトキ亦同シ

第五條 供奉員徽章及關係員徽章ハ行幸啓ノ都度當該行幸啓主務官ニ於テ之ヲ各自ニ交付スヘシ必
要止ミタルトキハ之ヲ回收スヘシ

附 則

本令ハ大正二年十一月十二日ヨリ之ヲ施行ス

●皇族警衛ニ付努メテ一般ニ迷惑ヲ感セシメサル様措置方ノ件

通牒 (大正八年八月内警第三九號
内務次官ヨリ廳府縣長官宛)

皇族地方御旅行ノ際警衛方其ノ他ノ事項ニ關シテハ平素ニ於テ慎重御注意相成居候儀ニ有之候處今般
一般民衆ニ對シ努メテ迷惑ヲ感セシメサル様措置相成度趣旨ヲ以テ更ニ左記事項宮内次官ヨリ申越有
之候間本件ノ次第貴部下ニ周到御訓達ノ上右趣旨ノ徹底ヲ期セラレ候様御配慮相成度候
追テ本件ハ皇子殿下御成ノ場合ニ於テモ本通牒ニ依ル儀ト御承知相成度尙鐵道院ヘモ本件通牒濟ノ

由ニ有之爲念申添候

(別 紙)

- 一、皇族御發着ノ際停車場構内ニ於ケル旅客營業人等ノ取扱方ハ特ニ別段ノ取扱ヲ爲ス場合ノ外總
テ平常通りタルヘキコト
從來往々旅客又ハ物品販賣人ヲ退避セシメ若ハ其ノ通行ヲ制抑スルカ如キ取扱ヲ爲シタルコト
アリ是等ハ將來特別ノ場合ノ外ハ一切無之様注意セラレ度コト
- 二、皇族御乗車又ハ御乗繼ノ停車場ニ貴賓用待合室ノ設ケナキトキハ皇族御休所トシテ驛長室ヲ使
用シ之ヲ使用シ難キトキハ待合室ヲ使用シ又ハ他ニ御椅子ヲ用意スル等臨機ノ方法ヲ執ラレ度コ
ト而シテ待合室ヲ使用スル場合ニハ一般旅客ヲ退避セシメサルハ勿論タルヘキコト
- 三、皇族御着驛ノトキ皇族御下車迄一般乗客ノ下車ヲ一時差止ムルコトハ今尙ホ實行シ居ルカ如シ
ト雖第一項ノ趣旨ニ依リ皇族御下車前又ハ同時ニ下車セシムルハ毫モ妨ナキコト
- 四、奉送迎ノ多數ナラムコトヲ努ムルカ如キ等ノコトナキコト又夜間ノ奉送迎ニ付テハ一層斟酌セ
ラレ度コト
- 五、小學校生徒ノ奉送迎ハ可成授業時間ヲ妨ケサル様注意セラレ度コト
- 六、途中ノ御警衛ヲ必要トスル場合ニ在リテハ其ノ員數ハ可成少數ナルヘク且特ニ目立たサルヘキ

コト

- 七、途中ノ交通遮斷ハ絶對ニ之ヲ爲サ、ルコト
- 八、皇族管下御通過ノ際又ハ御途次其ノ管下御巡歴等ノ場合ニ於テ從來知事内務部長等各地ニ隨行スルノ例アリシモ右隨行ハ今後見合ハサレ度コト
- 九、御旅館其ノ他御觀覽ノ場所ニ關スル設備ハ官附職員ヨリ別段ノ申出アル場合ノ外現狀ノ儘ニ差置カレ度コト

●御召列車へ乗車スル警察官吏ノ注意ニ關スル件依命通牒

(大正九年十一月三日内務省警第
一號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

御召列車運轉ノ場合之ニ乗務スル警察官吏其ノ他ニハ別紙各項承知セシメ置カレ度旨鐵道次官ヨリ照會有之候條可然御指示相成度候也

(別紙)

- 一、車輛ノデツキニハ可成佇立セサルコト
- 註 デツキニ佇立シテ列車ノ前後ヲ監視スルコトハ自然身體ノ一部ヲ比較的多ク列車ノ側外ニ突出セシムルノ傾向トナリ不測ノ事故ヲ發生セシメサルコト保シ難シ殊ニ近來製作ノ車輛ハ大型ノモノナレハ隣接線路ヲ運轉スル列車トノ間隔及線路ノ建造物トノ間隔極メテ狹隘トナ

- リタルヲ以テ危險尠カラス現ニ鐵道係員ニアリテモ負傷セル事例ニ乏シカラス
- 二、列車ノ前部及後部ノ車輛ニシテ鐵道係員ノ乗務スル個所ニハ可成乗車セサルコト
- 註 地方警察官吏並隨行員等カ列車ノ前部又ハ後部ノ鐵道係員乗務ノ車室ニ乗込ムコト不尠此場合鐵道係員ノ執務上ノ妨害トナルコトアリ例ヘハ係員ノ座席ヲ占據シ又ハ隨時車外ノ展望ヲ妨ケ若クハ同一ノ乗降口ヨリ乗降スル爲メ鐵道係員ト同時トナリ競合ノ狀ヲ呈スルコトアリ

- 三、御召列車停車場ニ停車中ハ乗降場擁壁面ヨリ相當隔離セル地點ニ佇立シ列車ト乗降場上屋ノ柱トノ間ヲ透カシ置クコト
- 註 列車ニ接近シテ佇立スルハ常時之アルコトナルカ之カ爲鐵道係員ノ列車前後ノ觀望ヲ妨ケ往々發車前合圖ノ交換ニ支障アルコトアリ因ニ乗降場擁壁面ト乗降場柱トノ規定最少間隔ハ三呎六吋ナリ

- 四、乗車ノ場合ハ列車出發合圖ヲ爲ス前鐵道係員ニ先シ乗車スルコト
- 註 列車ノ出發合圖ハ確定ノ時刻ニ於テ出發準備完成シタルトキ驛長ヨリ車掌ニ車掌ヨリ機關手ニ向ヒ順位一定ノ方式ヲ以テ命令スルモノニシテ其ノ出發準備成リタルコトハ實際ノ場合當時ノ狀況ニ依リ鐵道係員ナラストモ察知シ得ラル、モノナリ然ルニ出發合圖完了シテモ尙ホ乗降場ニ佇立シ居リテ列車カ運轉開始スルニ及テ始テ飛乗ヲ爲スコトアルカ之等ノ行爲ハ

危険ニ類シ且鐵道係員ノ職務執行上支障ヲ及ホスコト尠カラス

五、降車ノ場合ハ列車カ停車シタル後鐵道係員ノ降車ヲ俟テ降車スルコト

註 列車到着ノ際未タ停止状態トナラサルニ飛ヒ降り又降車口ニテ鐵道係員ト前後ヲ競フ如キ状態トナルコトアルカ之等ハ危険ニ類シ且鐵道係員ノ職務執行上支障ヲ及ホスコト尠カラス

●行幸啓又ハ御成ノ際停車場構内ニ於ケル撮影奉送迎者ノ資格等ニ關スル件通牒 (大正十年九月鐵警第一號警 保局長ヨリ廳府縣長官宛)

行幸啓ノ場合停車場構内ニ於ケル撮影並奉送迎者ノ資格選定及警護ニ關スル取扱方別紙ノ通改定致候旨今般鐵道次官ヨリ通牒有之候條御承知相成度候

(別紙)

行幸啓又ハ御成ノ際ニ於ケル取扱方 (大正十年八月三十日達第七〇九號)

第一條 行幸啓ノ節(演習地臨御ノ場合ヲ除ク)停車場(御乗降御停車御通過驛)ニ於ケル奉送迎者ノ

入場資格ハ地方官廳ニ於テ選定スルモノトス

前項入場者ノ員數ハ鐵道局長ニ於テ豫メ地方官廳ニ通報スルモノトス

第二條 奉送迎者ノ整列順位ニ付テハ地方官廳ト協定スルモノトス

前項ノ奉送迎者ヲ整列セシムルニハ御召列車ノ停止スル線路ノ乗降場御召車ノ當面ヲ避ケシメ御

乗降停車場本屋内外ノ御道筋ニ整列セシムル場合ハ御通御ノ幅員九尺以上ニ間隔ヲ存スルコトヲ要ス

要ス

第三條 行幸啓ノ御道筋カ鐵道線路ヲ横斷スル場合ハ公式鹵簿ノトキニ限り踏切通御ノ時刻ヲ豫測シ列車ノ進行ヲ停止セシムルモノトス

御道筋ト鐵道線路トカ上下ニ交叉スル場合ニハ御馬車ノ場合ニ限り列車ノ進行ヲ停止セシムルモノトス

第四條 行幸啓並皇族御成ノ節停車場構内ニ於テ撮影(活動寫眞ヲ含ム)ヲ爲サシムルコトヲ得但シ天皇陛下ニ對シ奉リテハ御靜養中ニ被爲在ヲ以テ差控ヘシムヘシ

第五條 前條ニ依リ撮影ヲ請フ者ニ對シ鐵道局長ハ警護上支障ナシト認メタル場合ハ之カ許可ヲ與フルモノトス

前項ノ場合撮影者ニ對シ撮影スヘキ一定ノ場所ヲ指示シ撮影者ヲシテ御身邊ニ突然接近シ若ハ追隨スル等ノ不法ナル行爲ナカラシムヘシ撮影ニ際シテハ「マグネシウム」ヲ使用セシムヘカラス

第六條 皇族王族(以下皇族ト稱ス)通常列車ニ御乗車ノ場合所定編成ノ車輛ヲ御乗用ニ充テ一般旅客ヲ同乗セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ一般旅客ヲ皇族御下車前若ハ同時ニ下車セシメ又ハ御乗用車ノ前面ヲ通行セシムルコトヲ得

特ニ御乗用車ヲ増結シタル場合亦同シ

第七條 皇族御乗用車カ跨線橋下ニ停車シタル場合ニ於テ一般旅客ヲ渡橋セシムルコトヲ得

第八條 皇族御乗車又ハ御乘繼ノ停車場ニ於テ貴賓用待合室ノ設ナキ場合ハ御休憩所トシテ驛長室又ハ待合室ヲ使用スルモノトス但シ待合室使用ノ場合ニ於テ一般旅客ヲ退避セシムルヲ要セス

第九條 皇族御發着ノ節停車場構内ニ於ケル職員ノ作業並營業者ノ從業ハ平常ノ通取扱ヲ爲スモノトス

附 則

第十條 本達施行ノ日ヨリ左ノ達ハ之ヲ廢止ス

大正六年十一月達第一一一一號地方行幸啓ノ節關係各驛ニ於ケル奉送迎ニ關スル件

大正七年三月達第二〇五號行幸啓又ハ御成ノ際ニ於ケル取扱方

●鹵簿撮影其ノ他ノ件依命通牒 (大正十年八月二十七日秘第一五〇) (二號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

行幸啓又ハ御成ノ節鹵簿撮影其ノ他ノ件今後左記ニ據リ御處理相成様致度右申進候也
追而本件ハ宮内省ト協議濟ニ有之候間此義申添候

記

一、行幸啓ノ場合普通寫真ニ付テハ其ノ方法不敬ニ涉ラス且取締上支障ナキ限り御乘馬又ハ御徒步ノ場合等ニ於テモ撮影差支ナキコト

二、同上活動寫真ノ撮影ニ付テハ豫メ貴廳若ハ便宜當該警察官署ノ許可ヲ受ケシメ撮影場所其ノ他必要ト認ムル事項ヲ指示シ其ノ條件ヲ遵守セシムルニ於テハ差支ナキコト

三、天皇陛下ニ對シ奉リテハ目下御靜養中ノコトニ付行幸ノ節前記ノ條件遵守ノ上鹵簿ヲ撮影スルコトハ差支ナキモ鹵簿以外ノ場合ニ於テハ仍從前ノ如ク普通寫真活動寫真トモ撮影ヲ許サ、ルコト

四、前各項ノ場合ニ於テ取締上必要アリト認メタルトキハ寫真班ノ數ヲ制限シ又ハ撮影場所ヲ指定スル等適宜取締方法ヲ講セラレ度又特ニ指示スル場合ニハ撮影ヲ許サレサルコトニ致度コト

五、皇子殿下始メ各皇族王族御成ノ場合ニ於テハ特ニ指示スル場合ヲ除クノ外ハ普通寫真活動寫真トモ不敬ニ涉ラス且取上支障ナキ限り差支ナキコト但シ御身邊ニ追隨若ハ接近スル等不謹慎ノ舉措ニ出ツルコトナキ様注意セラレタキコト

六、二階其ノ他ノ高所ヨリ撮影申上クルモ差支ナシト雖モ此ノ場合ニ於テハ取締上充分ナル注意ヲ拂ヒ撮影者ニ於テ不敬ノ舉措ニ出ツルコトナカラシメ若シ必要アル場合ニハ撮影ヲ差止ヲムル等便宜適當ノ措置ニ出テラレタキコト

七、以上撮影申上ケタルモノヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載スルハ支障ナキコト

●皇子殿下地方御成ノ節奉送迎及御警衛ニ關スル件依命通牒

(大正十二年一月二十七日内警第五) (九號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

三皇子殿下地方御成ノ節御警衛向ノ件ニ關シテハ大正五年十月十二日附内務省發警第五六號ノ内ヲ以テ依命及通牒候處今後左記ノ通り御取計相成度候

追テ本件ハ宮内省ト協議濟ニ有之候間爲念申添候

記

- 一、東京御發着ノ際警視廳警務部長ノ停車場ニ於ケル奉送迎ハ省略スルコト
- 二、御旅行先及汽車沿道府縣警察部長ノ當該府縣廳所在地停車場ニ於ケル奉送迎モ右ニ準スルコト
- 三、御旅行先府縣ニ在リテハ當該府縣界ヨリ御下車停車場マテ及御乗車停車場ヨリ府縣界迄警部又ハ警部補一名ヲ御召列車ニ便乗セシメ御警衛申上クルコト
- 停車場御旅館及目的地間ニ於テハ警部又ハ警部補警衛申上クルコト
- 四、汽車沿道府縣ニ在リテハ當該府縣界ヨリ府縣界迄警部又ハ警部補一名ヲ御召列車ニ便乗セシメ御警衛申上クルコト
- 五、前二項ノ警部警部補ノ服裝ハ禮裝ノコト但シ御旅行ノ性質ニ依リテハ常裝(略帽)又ハ制服ニ依ラ

サルコトヲ得ルコト

- 六、沿道停車場ニ於ケル警察官吏ノ配置ハ特別ノ事情ナキ限り常態ノコト
- 七、停車場以外鐵道沿線ニ於ケル警察官吏ノ配置ハ特別ノ事情ナキ限り之ヲ要セサルコト
- 八、軍務又ハ修學ノ爲團體ニ加ハリ御旅行中ハ御旅館ニ單獨御宿泊ノ場合ヲ除クノ外特別ノ注意ヲ要セサルコト

●御召列車運轉ノ場合鐵道ノ警備區域内ニ於ケル警備方ニ關スル件通牒 (大正十三年三月十一日警發乙第三) (六號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

御召列車運轉ノ場合ノ警備方ニ關シテハ停車場ヲ除キ鐵道ノ警備區域内ニハ私服ノ警察官吏ヲ立入ラシメサルコトニ致度旨鐵道省運輸局長ヨリ通牒有之候ニ付テハ之カ實行上ニ付テハ所管鐵道局長ト打合施行相成様致度候

●皇子殿下御發着割ニ關スル件通牒 (大正十三年九月四日警發甲第八) (七號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

皇子殿下御警衛ニ關シ從來電報通牒ノ場合御召列車御發着トモ其時刻ヲ通報致居候處今後普通列車ニテ御旅行ノ際ハ御乗換ノ場合ヲ除クノ外御着車ノ時刻ヲ省略シ御發車時刻ノミヲ通報スルコト、可致候條御了知置相成度候也

●行幸啓ノ際停車場構内ニ於ケル御寫眞撮影ニ關スル件依命通牒

(大正十三年九月十六日發警第七) (二號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

行幸啓ノ際停車場構内(改札口以内)ニ於ケル御寫真ノ撮影ニ關シテハ從來鐵道當局ニ於テ入場人員數並撮影者ニ關スル許可ノ決定ヲ爲シ居候處今回同省ノ希望モ有之臨時列車ニ依ル行幸啓ノ場合ニ限リ撮影場所及人員數ハ鐵道當局ト警察當局ト打合セノ上豫メ之ヲ定メ右人員内ニ於ケル撮影者ノ許否及取締ハ警察當局ニ於テ擔當スルコトニ相成候間今後右ニ依リ御處理相成様致度候

●御召列車警護其ノ他ニ關スル件通牒

(大正十三年十月十五日警保局發警甲第
一一二號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

行幸啓ノ際停車場構内ニ於ケル御寫真撮影ニ關シテハ客月十六日付發警第七二號ヲ以テ通牒ノ次第モ有之候處今般鐵道省ニ於テ本件並其ノ他御召列車警護事項ニ關シ別紙ノ通り各鐵道局長ニ通牒候旨同省運輸局長ヨリ申越有之候條御了知相成度候

(別紙)

記

- 一、御召列車ト行違ヒ又ハ之ヲ待避スル列車ノ種別、豫定區間、豫定時分ハ確定次第關係鐵道局長ヨリ關係地方警察部長ニ通知スルコト(新ニ定メラレタル事項)
- 二、御召列車ト行違ヒ又ハ之ヲ待避スル列車ハ乗客ヲシテ御召列車側ニ對シ顔手足等ヲ車外ニ出サシメサル意味ヲ以テ御召列車ト相對スル時間内ニ限り御召列車ニ面スル側ノ窓硝子ヲ閉鎖スルコト

ト(達第十三號第三十八條參照)

三、御召列車運轉ノ際停車場構内ニ於ケル寫真並ニ活動寫真撮影ニ關シテハ次ノ各號ニ依ルコト(達第七〇九號第五條參照)

- イ、撮影希望者ニ對シテハ關係警察官署ニ於テ人選許可ノ上撮影班ヲ組織シ警察官附添ヒ入場シ一切ノ監督ニ任スル筈

演習地臨御ノ場合ニ於テハ參謀本部ニ於テ前段ノ取扱ヲ爲スモノトス

ロ、前號寫真班ニ對シ其案内幹旋等雜務處辨ノ爲メ一名ノ鐵道職員ヲ附添ヘシムルコト

ハ、入場セシムヘキ撮影者員數、撮影位置等ニ就テハ豫メ鐵道局ト警察官署トノ間ニ於テ協議決定スルコト

演習地臨御ノ場合ニ於テハ鐵道局ト參謀本部トノ間ニ於テ前段ノ協議決定ヲ爲スモノトス

ニ、撮影位置ハ御通路ニ對シ約五間ノ間隔ヲ保タシムルコト

ホ、撮影ニ際シテハ絕對ニ「マグネシウム」ヲ使用セシメサルコトニ警察官署若クハ參謀本部ニ於テ取扱フ筈

四、停車場内外ノ警護ニ就テハ次ノ各項ニ依ルモノトス(從來ノ慣例ニ依ル警護區域ヲ明ニスルコト)

イ、構内改札口ヨリ内部宮廷専用御通路ヲ有シ又ハ通路ヲ御専用ニ供シ得ヘキ驛ニ在リテハ其ノ表入口以内ノ警護ニ付テハ(除第三項)鐵道局ニ於テ之ニ任シ若シ外部ヨリノ侵入者等ニ對シ警衛上萬全ヲ期シ難キ虞アル場合ハ警察官署ニ助力ヲ求ムルコト

ロ、改札口ヨリ外部ノ警護ニ付テハ警察官署ニ於テ之ニ任スル筈ナルモ鐵道局ニ於テモ出來得ル限リ細心ノ注意ヲ拂フコト

ハ、前號ノ警護ニ關シ待合室内ノ待合旅客ニ對スル取扱ニ就テハ出來得ル限リ不便ヲ及ホサシメサル様豫メ關係警察官署ト打合フ爲スコト

五、線路其ノ他ノ警護振ニ付テハ鐵道局ハ關係警察官署ト協調スヘキコト(達第一三號第五十二條及第五十三條ノ補足)

●鐵道沿線警戒ニ關スル件通牒 (大正十四年六月十五日警秘第三四一號警保局長ヨリ廳府縣長官(東京府ヲ除ク)宛)

近時御警衛ニ從事スル警察官吏ニシテ鐵道線路ノ警戒中列車ニ觸レ爲ニ不慮ノ死ヲ見ルニ至リ候事例往々有之候ハ最モ遺憾トスル處ニ有之本件鐵道沿線ノ警戒ニ付テハ鐵道當局ト相當協商ノ上御措置相成候義ニ可有之候得共直接線路ノ警戒ハ鐵道側ニ於テ之ニ當リ警察ニ於テハ線路直近ノ場所ヲ警戒スルニ止メ可然義ニ有之候間沿線警戒ニ從事スル警察官吏ニ對シテハ配置前特ニ御注意ノ上不測ノ慘禍ヲ生シ候様ノコト無之様御配慮相煩度爲念右申進候也

●警察禮式中改正ニ關スル件通牒 (昭和二年一月八日内務省一五發警第九四號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

本日當省訓令第一號ヲ以テ警察禮式第十條中改正相成候處從來途上警衛ニ從事スル警察官吏ハ敬禮ヲ行フコトナク鹵簿ノ進行ニ相對シ側面ノ方向ヲ取り直立シテ視線ヲ奉拜ノ公衆ニ注キ鹵簿ノ通過ニ至ル迄同一ノ方向及姿勢ヲ保持シ警衛ニ從事スヘキコト、相成居リ固ヨリ原則トシテハ可然モノト存候ヘ共街角奉拜者ノ集團セル場所其ノ他警衛上特ニ必要アリト認メラル、場所ニ於テハ必スシモ鹵簿ノ進行ニ對シ側面ノ方向ヲ取ルヲ要セス最モ有效ニ自己ノ擔當セル區域内ノ警衛ヲ爲シ得ル方向ヲ保タシメ時宜ニ依リテハ奉拜者ニ正面セシムルモ妨ケナキノ趣旨ニ依リ同條中警衛方法ニ關スル事項ヲ削除相成タル儀ニ有之候條此ノ點御含ミノ上警衛上遺憾ナキヲ期セラル、様致度右申進候也

追テ最近本通牒ノ趣旨ニ依リ警衛ヲ爲セル地方ニシテ左マテノ必要ナキニ奉拜者ニ正面セシムル配置ヲ爲シ不體裁ニ涉レルノ事例モ有之候條實施ニ當リテハ特ニ御注意相煩度

●鹵簿撮影其ノ他ノ件通牒 (昭和二年五月廿七日警發甲第九三號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

首題ノ件ニ關シテハ大正十年八月二十七日附秘第一五〇二號ヲ以テ依命通牒ノ次第モ有之候處同通牒中第三號ハ大正天皇御靜養中ニ在ラセラレ候故ヲ以テ特ニ定メラレタル趣旨ニ有之 今上陛下ニ對シ奉リテハ同號ニ依ル制限ハ自然消滅シ同通牒第一號第二號ニ依リ普通寫眞活動寫眞共撮影ヲ許シ差支ナキ儀ニ有之候條爲念右申進候也

●警衛警察官吏ノ姿勢方向等ニ關スル件 (昭和三年九月四日警發甲第一三三) (號警保局長ヨリ各廳府縣長官宛)

行幸啓ノ際ニ於ケル途上警衛配置員心得方ニ關シテハ大正五年七月二十五日訓第六四八號及昭和二年一月八日發警第九四號ヲ以テ訓令通牒ノ次第モ有之候處最近警衛ノ實際ニ鑑ミ相當考慮ヲ要スヘキ點モ有之様被存候ニ付テハ爾今警衛ノ際ニ於ケル警衛配置員ノ位置方向、動作等ニ付テハ左記各項ニ依リ實相成様致度右申進候也

記

位置方向及動作

第一、途上配置員

- イ、一般配置員ハ鹵簿ノ進行シ來ル方向ニ向ヒ奉拜者堵列線ニ對シテ約四十五度ノ角度ヲ以テ斜面シ鹵簿通御後ニ至ル迄同一方向ヲ保持スルコト
- 但シ街角、奉拜者密集セル場所其ノ他警衛上必要ナル場所ニ於テハ奉拜者ニ對シ正面又ハ側面シ鹵簿通御後ニ至ル迄同一方向ヲ持スルコトヲ得
- ロ、監督者ハ自己ノ擔當區域ノ略中間ニ位置シ鹵簿ノ進行シ來ル方向ニ向ヒ奉拜者堵列線ニ對シテ側面ノ方向ヲ取り鹵簿ノ進行ニ連レ擔當區域奉拜者堵列線ニ着目シツ、漸次反對方向迄右回轉又ハ左回轉スルコト

但シ街角、路地等ニシテ特ニ必要ナル場所アルトキハ本項ニ依ラサルコトヲ得

第二、鐵道沿線配置員

- イ、一般配置員ハ御召列車ノ進行シ來ル方向ニ向ヒ奉拜者堵列線ニ對シテ、側面ノ方向ヲ取り御召列車通御後ハ奉拜者堵列線ニ着目シツ、漸次右回轉又ハ左回轉ヲ爲スコト
- 但シ沿線奉拜者密集セル場所其他警衛上必要ナル場所ニ於テハ之ニ正面若クハ斜面シ又ハ回轉ヲ爲サ、ルコトヲ得
- ロ、監督者ハ停車場又ハ重要踏切等ニ位置シ其ノ方向、動作ハ一般配置員ニ準スルコト

第三、停車場配置員

- イ、停車場ホーム内配置員ハ御召列車ノ進行シ來ル方向ニ向ヒ奉拜者線ニ側面ノ方向ヲトリ御召列車通御後ハ奉拜者線ニ面シツ、漸次右回轉又ハ左回轉ヲ爲スコト
- 但シ御乗降停車場御停車停車場ニ於ケル動作ハ各場合ニ就キ之ヲ定ムルコト
- ロ、ホーム以外ニ於ル停車場構内配置員ノ方向及動作ハ各場合ニ就キ之ヲ定ムルコト

警衛配置員ノ姿勢

途上及鐵道沿線警衛配置員ノ姿勢ハ兩足ヲ僅カニ開キ手ハ自然ニ垂レ奉拜者又ハ警戒スヘキ事物ニ注目スル等必要ニ應シ最モ迅速ニ行動ヲ起シ得ル姿勢タルコト

警衛配置員責任區域

途上鐵道沿線及停車場配置員ニ對シテハ各地點ノ實狀ニ應シテ其擔當區域ヲ具體的ニ指示シ萬一區域内ニ於テ事故發生シタル時ニ際シテハ敏速急ニ應シ而カモ之ニ當面セル以外其ノ附近ニ於ケル配置員亂シ警衛上間隙ヲ生スルカ如キコトナキ様豫メ連絡協助方法ニ關シ充分習熟セシメオクコト

●大禮警衛ニ從事スル警察官吏ノ「ゲートル」及手套ノ使用齊一方ニ關

スル件 (昭和三年九月四日警保局警發甲第一三七號警保局ヨリ警視廳、
神奈川、静岡、愛知、岐阜、滋賀、京都、奈良、三重各府縣知事宛)

大禮ニ關シ直接警衛ニ從事スヘキ警察官吏ハ他府縣ヨリ多數應援員ヲ受クル關係モ有之其ノ「ゲートル」及手套ノ使用ニ付テハ左記ニヨリ之カ齊一ヲ期スルコト、致度候條御了知相成度候

追テ各府縣長官ニ對シテハ本件ノ趣旨通牒シ應援警察官吏ハ夫々携帶スルコト、致置候條爲念

記

一、「ゲートル」ノ使用ニ付テハ左記ニ依ル但シ各場合共警部補以上ハ長靴ヲ用ヒ「ゲートル」ヲ使用セサルコトヲ得

A 鐵道沿線配置員ハ晴雨ニ拘ラス之ヲ使用ス

B 停車場配置員ハ晴雨ニ拘ラス之ヲ使用セス但ホーム其他場屋内以外ニ於ケル配置員ニ付テハ鐵道配置員ノ例ニ依ル

C 途上配置員ハ之ヲ使用セス

但雨雪又ハ道路泥濘ノ場合ニハ之ヲ使用ス此ノ場合ハ其ノ使用ニ付テハ其ノ地指揮者ニ於テ一定シ齋一ヲ計ルコト

一、手套ハ各場合共白色ノモノヲ使用スルコト
以 上

○警衛ニ關スル注意事項

一、警衛ニ從事スル警察官吏ニ對シテハ任務ノ極メテ重大ニシテ又之カ任ニ當ルノ頗ル光榮ナル旨ヲ懇篤訓授シ奉公ノ至誠ヲ捧ケテ職任ヲ竭シ警衛上遺憾ナキヲ期セシムルコト

二、行幸啓其ノ他警衛ノ際ニ於ケル事故ノ發生ハ概ネ警戒警備中間隙ニ乗セラルルニ在リ實況ニ徴スルニ途上警衛ニ從事スル警察官吏中鹵簿ノ近按スルヤ恐懼ノ念ニ驅ラレテ畏縮シ公衆ニ對スル注意ハ殆ト之ヲ困却スルニアラサルカヲ疑ハシムルモノ少カラサルカ如シ斯ノ如クニシテ極メテ重大ナル警衛ノ任務ヲ遂行セムトス眞ニ難シト云フヘシ警衛ニ從事スル警察官吏ニ對シテハ豫メ訓練ヲ加ヘ其ノ配置線ニ就クヤ冷靜ノ態度ヲ以テ臨ミ現場ニ於ケル擔當區域ヲ明瞭ニシ御通過前ニ於テハ配

置地點ニ定着スルコトナク其ノ區域内ヲ巡察シ公衆ニ對シテハ充分ナル責任ト周到ナル注意トヲ以テ警戒ニ當リ苟モ空隙ニ乗セラルル如キコトナカラシムルコト

配置及交通遮斷ノ時間等ハ地方ノ狀況ニ應シテ爲スコト

三、警衛ニ従事スル監督者ニ對シテハ特別ニ訓授又ハ訓練ヲ爲シ警衛員ノ配置及執行務ニ關シテ機械的ニ流レテ臨機必要ナル措置ヲ講セシムルコト

本項ハ監督者ニ對シ警察官吏ノ配置方法部下ニ對シテ與フル警衛上必須ナル注意事項等ヲ訓授シ訓練スルノ必要アルヲ認メタルト一面警衛員ノ配置等ニ付テモ公衆ノ密集セル箇所ト稀薄ナル箇所トヲ問ハス一様ニ配置ヲ爲スカ如キ形式ニ拘泥スルコトナク監督者ヲシテ實際ニ臨ミ彼此按排スルコトヲ得シムルノ趣旨ニ出テタルモノトス

監督者ノ位置ハ從來ノ例ニ依レハ或ハ先頭ニ位置スルアリ中央ニ位置スルアリ公衆ノ最も多キ場所ニ位置スルアリ或ハ最後ニ位置シテ全體ヲ見透シ得ル場所ニ位置スル等種々アルモ場所及時ノ狀況ニ應シテ適當ト認ムル場所ニ位置セシムルヲ可トス而シテ監督者ノ位置ハ何レニ在ルヲ問ハス必ス部下ニ知ラシメ置クヲ要ス

四、奉拜者中危險物ヲ携帯スルノ疑ヒアリ又舉止動作ノ容疑スヘキ者アリト認メタルトキハ警衛員ハ穩ニ同行ヲ求メテ當該監督者ニ引渡シ監督者附近ニ在ラサルトキハ便宜適當ナル處置ヲ講セシムヘ

キコト

奉拜者中危險物ヲ携帯スルノ疑アリト認メタル場合ニ於テハ銃砲火藥類ニ付テハ銃砲火藥類取締

法第十條ニ依リ銃砲火藥類ニ非ラサル他ノ戎器及爆發質物品ニ付テハ銃砲火藥類取締法施行規則

第四十八條ニ依ル法第十條ノ準用ニ依リ取締上措置ヲ爲シ得ルモノトス

五、途上警衛ニ従事スル警察官吏ハ敬禮ヲ行フコトナク鹵簿ノ進行ニ相對シ側面ノ方向ヲ取り直立シテ視線ヲ公衆ニ注キ鹵簿通過ニ至ル迄同一ノ姿勢ヲ保持シ警衛ニ従事スヘキハ警察禮式第十條ノ規定スル所ナリト雖警衛上實際ノ必要ニ鑑ミ同條ノ活用ニ依リ鹵簿進行ニ對シ必スシモ側面ノ方向ヲ取ルヲ要セス自己ノ擔當區域若ハ受持區域内ノ奉拜者ヲ最も嚴密ニ監視シ得ル方向ヲ保タシメ街角奉拜者ノ集團セル場所其ノ他警衛上特ニ注意ヲ要スト認メラルル場所ニ在リテハ奉拜者ニ正面セシムルモ妨ケナキコト

鹵簿ノ通過ニ當リ直立シテ警衛ニ従事スル場合警衛員ハ必スシモ不動ノ姿勢ヲ取ルコトヲ要セス見苦シカラサル姿勢ニテ可ナリ要ハ突發事件ニ際シ直ニ急ニ應シ得ルニ最モ便ナル姿勢ニ依ラシムルノ趣旨ヲ徹底セシムルコト但シ著シク脚ヲ開ク等不體裁ニ流レサラシムル點ニハ注意スルノ要アルコト

六、交通整理又ハ交通遮斷ニ従事スル者ト直接警衛ニ従事スル者トハ成ルヘク其ノ擔任ヲ區別シテ直

接警衛員ニハ絶ヘス奉拜者其ノ他ニ注意セシムルコト

七、警察部ニ於テ豫メ一般ニ通スル訓授ノ要綱ヲ定メ各署ニ通達シ置クコト

八、私服警衛員ニ對シテハ其ノ任務ニ關シ特別ニ訓授ヲ行フコト

九、私服警衛員中「インパネス」ヲ着シ下駄ヲ穿テ居ル等一朝事故ノ發生シタル際ニ於テ其ノ行動敏捷ヲ欠キ遺憾ナキニアラサルヲ以テ服裝等ニ付相當考究セラレタキコト

十、奉拜者ニ關シテハ左記ノ事項ヲ參酌シ適當ニ措置スルコト

(一) 道路其ノ他ノ關係ヨリ奉拜ニ制限ヲ附シタル場合ハ豫メ之カ周知方法ヲ講スルコト

(二) 多衆奉拜者來集スルコトアルヘキ場所ニ付テハ危險豫防並救護上相當措置スルコト

(三) 高齢者ニ對シテハ一定ノ場所ニ跪座奉拜セシムル等成ルヘク便宜ヲ與フルコト

(四) 小學校生徒殊ニ女生徒ヲ御通過前長時間佇立セシムル時ハ卒倒者等ヲ生スルコトアルヘキヲ以テ豫メ學校長ト協議シ適應ノ措置ヲ講スルコト

(五) 階上其ノ他ノ高所ヨリノ奉拜ハ取締上支障アルヲ以テ之ヲ許容セサルコト但シ地勢ニ依ル自然高所ノ場合ハ從前ノ通りタルコト

自然高所ト雖御通過ヲ直下ニ瞰下スルノ場所ノ如キ取締上支障アル場合ハ特ニ注意セラレタキコト

(六) 雨中ニ雨具ヲ用ヒシテ佇立スル奉拜者ヲ見ルコトアルモ降雨ノ際ハ雨具ヲ使用スルモ支障ナキ儀ニ付警察官ニ於テ脱セシムルカ如キコトナキハ勿論場合ニ依リテハ注意シテ之ヲ用ヒシムルコト

コト

十一、奉拜心得等ニ就キ町村長ニ注意スル場合ニ於テハ御警衛ノコトタル取締官憲ニ於テ十分ニ之ニ當ルハ勿論ナルモ一般民衆ニ於テモ忠誠ノ心ヲ以テ御警衛申上クルノ覺悟ヲ持シ苟モ不敬ニ涉ルモノヲ出ス如キコトナキ様各自警戒ノ念ヲ有セシムルノ趣旨ヲ明ニスルコト

十二、停車場ノ乗降者及宿屋、飲食店等ノ出入者ニ注意シ容疑者ノ發見ニ努ムルコト

十三、上書建白又ハ直訴ヲ企ツル虞アル精神病者ニシテ巧ニ警察ノ視線ヲ脱シテ所在ヲ晦シ爲ニ搜索上多大ノ苦心ヲ重ネタルコトアルヲ以テ是等ノ者ニ對シテハ其ノ所在ニ失ハサル様注意ヲ拂ヒ萬一所在ヲ失ヒタル場合ニ於テ本人ノ相貌ヲ熟知セル警察官吏ヲ急派シ關係地警察官吏ト相俟テ搜索發見ニ努ムル等適當ノ措置ヲ講スルコト

十四、奉迎ノ至情ヲ表スル爲提燈行列旗行列等ノ催ヲ爲ス際ニ於テ甚シキ雜沓ヲ生シ死傷者ヲ出シタルカ如キ事例スラアルヲ以テ交通ノ整理及事故ノ防止ニ付豫メ必要ナル計畫ヲ爲スコト

十五、奉拜其ノ他ノ用務ヲ帶ヒ行啓關係地方ニ來集スル者多數ニ上ルヘキヲ以テ劇場、興行場其ノ他多衆ヲ收容スル場所、渡船場及橋梁等ニ對シテハ豫メ検査ヲ爲ス等危險豫防上充分ノ措置ヲ講スル

コト

十六、行啓ノ期日前後獵期間内ナルトキハ當日汽車沿道又ハ御道筋附近ニ於テ誤テ事故ヲ惹起スルカ如キコトナカラシムルコト

十七、行啓ノ期日前後火災多キ季節ニ屬スルトキハ御駐泊地ニ於テハ火氣使用ノ營業者其ノ他ニ注意ヲ與ヘテ自警ノ途ヲ講セシムルコト

十八、鹵簿中ニ騎馬ノ加ハルヘキ場合ニ於テハ大正二年十月警第四〇三〇號通牒ノ趣旨ニ依リ奉拜ノ各學校其ノ他各種團體ノ團體旗ヲ操縦セシメサル様注意スルコト

十九、鹵簿ノ御通過ニ當リ奉拜者中萬歳ノ發聲ヲ爲ス者アルモ警察官ニ於テ大聲ヲ以テ制止スルカ如キコトナカラシムルコト

御道筋ニ於テ萬歳ノ發聲ハ奉迎ノ至誠ヲ捧クルモノナリト雖モ鹵簿ノ馬匹驚奔スルカ如キコトアルニ於テハ却テ恐懼ニ堪ヘサルヲ以テ靜肅ニ敬意ヲ表スルコトト爲シタキ旨ヲ一般ニ周知セシムルコト但シ偲々萬歳ノ發聲ヲ爲スモノアルモ大聲ヲ以テ之ヲ制止スルカ如キコトナカラシムルコト

尙御召列車ニ對シテ萬歳ノ發聲ハ毫モ妨ケナキモノトス

二十、供奉員等ノ旅館ニ對シテハ盜難及火災ノ豫防警戒上注意ヲ爲スノ必要アルモ常時警察官ヲ詰切

ラジムル等ノ必要ナキコト

二十一、鐵道線路ニ木石ノ類ヲ横ヘ又ハ標識ヲ損壞シテ交通ニ妨害ヲ與ヘタルノ事故各地其ノ例ニ乏シカラス豫防警戒上注意ヲ要ス又列車通過ノ際之ニ向テ投石ノ行爲ヲ敢テシタルノ事例從來往々ニシテ之レナキニアラス以上ハ共ニ兒童ノ惡戯ニ出ツルモノ多キヲ占ムルカ如シ豫メ鐵道沿線附近住民ニ對シ懇切ニ警告ヲ與ヘ又小學校長等ニ注意シ警察ノ取締ト相俟テ警戒上遺算ナキヲ期スルコト

尙鐵道線路(軌條並其ノ外側公衆ノ自由ニ交通シ得ヘカラサル場所ヲ含ム)自體ハ鐵道當局ニ於テ保線工夫ヲ配置シ專ラ警戒ニ當ラシムル所ナルヲ以テ沿線配置ノ警察官吏ハ主トシテ左ノ諸點ニ注意スルコト

一、線路ニ跨ル橋梁、踏切、暗渠等ノ注意警戒

二、線路外ヨリ線路内ニ侵入セントスル者ノ阻止

三、線路外ヨリ線路内ニ向ケ不逞行爲ヲ爲サントスル者ノ計畫並其ノ實行ノ發見阻止

二十二、行啓前夜鐵道線路ヲ警戒スルカ爲警察官吏ヲシテ線路上ヲ巡行セシメ列車ニ觸レテ死亡シタルカ如キ事例最近數件アリ線路附近ノ部落等ヲ警戒スルハ格別特ニ必要ナキ限リ線路上ヲ巡行セシムルコトハ之ヲ避ケ特ニ之ヲ爲ス場合ニハ危險豫防上十分ノ注意ヲ與フルコト

二十三、新聞及通信社ノ普通寫眞撮影ニ關シテハ撮影者ニ對シ豫メ證明書ヲ交付スル等ノ方法ヲ講シ且係員ヲ定メ場所ヲ指定シ不都合ノ所爲ナカラシムルコト但シ大演習ノ際參謀本部ニ於テ演習陪觀ノ許可ヲ與ヘタル者ニ對シテハ證明書ノ交付ヲ要セサルコト

證明書交付ノ必要アル場合ニハ豫メ關係廳府縣ニ通牒ノ上別記方法ニ依ルコト

二十四、鹵簿ノ普通寫眞撮影ハ不敬ニ涉ラス且取締上支障ナキニ於テハ之ヲ差止ムヘキ限ニ在ラスト雖活動寫眞ノ撮影ニ付テハ豫メ警察部又ハ警察官署ノ許可ヲ受ケシメ撮影場所其ノ他必要ナル事項ヲ指示シ其ノ條件ヲ遵守セシムル等大正十年八月二十七日秘第一五〇二號鹵簿撮影其ノ他ノ件依命通牒ノ趣旨ニ依リ之カ取締上遺策ナカラシムヘキコト

二十五、御寫眞撮影場所(列車及鹵簿ノ場合ヲ除ク)ヲ定ムル場合通御又ハ臨御ノ地點ニ對スル撮影者ノ距離ハ場所ノ狀況ニ依リ一律ニ定メ得サルモ約五間ノ距離ヲ以テ標準トスルコト

二十六、他府縣ヨリノ應援警察官吏ニ對シテハ管内ノ地理、人情及風俗等ノ大體ヲ了得セシメ又途上警衛ニ從事セシムル場合等ニ於テハ應援ヲ求メタル地方ニ於ケル警察官吏ノ間ニ介在配置シ應援府縣警察官吏ノミヲ集團的ニ配置スルカ如キコトナカラシムルコト

二十七、大演習ノ際演習地ニ於ケル警衛ハ陸軍側ト特ニ密接ノ關係アルヲ以テ豫メ之ト充分ナル交渉ヲ遂ケ警衛地域ノ區分ヲ可出來文明確ニ爲シ置ク必要アルヘク又軍隊堵列人員箇所憲兵配置數及其

ノ箇所等ニ就キテモ調査ヲ遂ケ警察官吏ノ配置上適應ニ按排スルコト

二十八、警衛ニ關シ團體員ノ希望ニ依リ之カ補助ニ當ラシムルハ妨ケナシト雖モ此ノ場合ニ於テハ消防組員在郷軍人等紀律節制アルモノヲ選ミ之ニ對シテハ服務中恰モ警察權ヲ有スルカ如ク誤解シ不遜ノ態度ニ出テ地方民ノ感情ヲ害スルカ如キコトナカラシムル様豫メ注意ヲ與ヘ置クコト

二十九、花火ノ打揚ヲ許可スルニ當リテハ御道筋ニ著シク接近シタルカ如キ場所ヲ避クルコト

三十、行幸啓ノ際御立寄地點ニ於テ鹵簿及列外車輛ノ轉換ヲ必要トスル場合ニ在リテハ豫メ其ノ方法ヲ定メ主任者現場ニ在リテ指揮スル等相當注意スルコト

三十一、警衛警察官吏ニ對スル給與及其ノ休養ノ如何ハ任務ノ遂行上ニ及ホスノ影響少カラサルヲ以テ宿舍ノ選定、食事及寢具ノ供給、濕潤シタル衣服ノ乾燥方法並ニ休養時間殊ニ御泊所警衛員ノ如ク數日連續勤務スル者ニ對シテハ其ノ睡眠時間ノ割當等ニ關シテハ計畫ノ際充分ノ考慮ヲ拂フヘキコト

○自明治四十五年 直訴其ノ他不敬事件調
至昭和二年

一、種 類 直 願

日 時 明治四十五年五月十八日午前十一時三十五分

場 所 東京市四谷區鹽町一丁目一番地

住所氏名 長野縣北佐久郡川邊村百九十一番地

平民 戸 主

掛 川 六 之 助

明治三年六月八日生

事實及措置

天皇陛下陸軍經理學校卒業式ヨリ還幸ノ途次鹵簿ノ前記箇所ニ差蒐ルヤ突然奉拜者線ヲ突破シ鹵簿ノ右方約一間ノ位置ニ於テ直訴文ヲ朗讀セントシタル際警察官ニ依リ取押ヘタリ直訴文ノ内容ハ日露戰役論功不公平云々ト稱スルモノナリ精神病者ナルヲ以テ巢鴨病院ニ送院シタリ

二、種 類 直願未遂

日 時 大正三年十二月

場 所 德島縣下
住所氏名 德島縣名東郡新居村高崎百八十番地

吉 田 磯 吉

弘化二年十二月 生

事實及措置

同人ハ家畜市場設立不許可ニ對スル不滿者ニシテ從來直願ヲ爲サントシテ阻止セラレ或ハ直願ノ爲メ上京シ二重橋附近ヲ徘徊中取押ヘ送還セラレタル等ノコトアル者ナルカ大正三年陸軍大演習ノ大阪府下ニ施行セラレ 聖上御統監ノ爲行幸在セラル、ヲ知ルヤ再ヒ直願ヲ決意シ十二月十四日夜視察巡查ノ隙ヲ窺ヒ逃走シタルヲ德島縣下撫養警察署ニ於テ發見取押ヘ嚴重説諭ヲ加ヘ直願ヲ斷念セシメタリ

三、種 類 直願未遂

日 時 大正三年十一月

場 所 愛知縣名古屋市

住所氏名 長野縣北佐久郡川邊村百九十一番地

平民古物商 論功行賞不滿者

事實及措置

(手配)

特別大演習御統監ノ爲 大元帥陛下愛知縣名古屋市ニ行幸ノ際ニ於テ十一月十日午後十一時
論功行賞不滿者ニテ直願ノ虞アル前記掛川六之助所在不明ノ電報ニ接シタルヲ以テ管内各警
察署ニ對シ嚴密精細ノ手配ヲ爲スト同時ニ長野縣ニ打電シ本人ニ面識アル巡查ノ派遣方ヲ請
求シタル處十二日午前九時同縣ヨリ巡查二名派遣アリタルヲ以テ直ニ名古屋、千谷驛ニ配置
シ乗降者ニ就キ專ラ視察ニ從事セシメ尙午後ヨリ老練ナル刑事巡查二名ヲ増加シ前記兩巡查
ト協力以テ發見ニ努メタリ而シテ管内各署長ニ對シテハ數葉ノ寫眞ヲ配付シ特ニ同日午後十
時ヨリ一齊ニ受持管内各旅舎ニ就キ嚴重ナル檢索ヲ行ハシメ且警衛線ニハ特ニ巡查ノ配置ヲ
二時間前トナシ尙沿道飲食店、酒店等ヲモ隈ナク注意シ必ス其發見ヲ期スヘキ旨ヲ嚴命セリ

(發見狀況)

十二日午後十一時四分名古屋驛ニ張込中ノ大關巡查ハ名古屋驛着中央線列車ノ下車客中豫テ
手配人相着衣ニ最適ト認ムヘキ者二名ノ旅客ト共ニ改札口ヲ出ツルヲ發見シタルヲ以テ當時
恰モ待合室ニ在リタル長野縣派遣ノ金井巡查ニ急報シ共ニ之ヲ追尾シタルニ名古屋市西區笹

島町旅舎ます屋へ投宿シタリ未タ本人タルヤ否ヤ的確ニ斷定スル能ハス依テ旅舎ノ主人ヲシ
テ制規ノ住所氏名ヲ宿泊人名簿ニ記帳セシメタルニ群馬縣高崎市朝日町十七番地平民仲買商
田島信一當四十四年ト自稱シタルモ疑フヘキ點充分ナリト認メラル、ヲ以テ更ニ警部以下四
名ノ警察官ヲ派遣シ長野縣ヨリ出張セル最モ面識アル巡查ヲシテ陰ニ本人ヲ透見セシメシニ
彼ニ相違ナキ旨確答ヲ得タルニ依リ更ニ本人ニ就キ取調ヲ行ハシメタルニ始メハ名ヲ製絲場
視察ニ藉リ言ヲ左右ニ託シ容易ニ實ヲ吐カサリシモ所持品ヲ開被スルニ及ヒ遂ニ掛川六之助
ナル旨ヲ自供セリ

(取調狀況)

本人ヲ所轄笹島警察署ニ同行シ取調ヘタル所ニ據レハ本月十日午前三時頃自宅ヲ出テ驛其ノ
他警察官張込ヲ虞レ徒歩ニテ長野縣南佐久郡野澤町ニ出テ内上峠ヲ越ヘ群馬縣北甘樂郡下仁
田町ヨリ高崎行輕便鐵道ニ乗り途中山名ニ下車シタルモ宿屋ナキ爲メ同縣倉賀野ニ到リ一泊
シ翌午前八時頃同所ヲ出發シ更ニ新町ニ出テ新町驛ヨリ上野行列車ニ乗シテ田端ニ下車シ夫
ヨリ電車ニテ東京府下新宿ニ到リ一泊翌十二日午前五時五十五分新宿發中央線列車ニテ來名
シタルモノナリト云フ而シテ所持ノ鞆ヲ開被スルニ諏訪郡⊕郡御中ト表記シタルモノ並ニ⊕
組ヲ組秘密用ト記シタルモノトノ二通ノ封書ヲ藏セリ然レトモ本人ハ商用上ノ秘密書類ナリ

トテ容易ニ開被ヲ肯セサリシモ漸ク承諾セシメ開被シタルニ直奏文其ノ他ノ書類數通ヲ發見シ直願ノ爲來名シタルコト明瞭トナレリ

「備考」本人ハ明治四十五年五月十八日東京市四谷區ニ於テ 天皇陛下行幸ノ際直願ヲ爲サントシタルコトアルモノナリ(參照一)

四、種 類 物品ヲ獻上セントシタルモノ

大正四年八月
大正七年七月四日

日 時 青森市及同市ヘノ途中

場所 青森縣東津輕郡一本木村二百五十三番地

住所氏名 青森縣東津輕郡一本木村二百五十三番地

平民無職精神病者

田 中 フ ヨ

嘉永元年一月 生

事實及措置

同人ハ生來迷信家ニシテ神佛ニ金品獻上ヲ好ミ之ヲ無上ノ樂トスル癖アルモノナルカ

(一)大正四年九月青森縣下ニ行ハレタル陸軍特別大演習ニ際シ 大元帥陛下行幸ノ砌 陛下ニ金品ヲ獻上セントシテ家出シ青森市ヘ向フ途中所轄警察署ニ於テ之ヲ發見說諭ヲ加ヘ歸宅セシメタリ

(二)大正七年七月四日第一艦隊青森港ヘ入港ノ際 皇太子殿下御上陸青森市ニ行啓ノ際ニ於テ自己所持ニ係ル貧弱ナル刀劍ニ僅少ノ金品ヲ添ヘ獻上セン目的ヲ以テ一般奉拜人ニ混シ青森市ニ入りタルヲ御道筋配置ノ巡查ニ於テ之ヲ發見シ一時檢束ヲ加ヘ御警衛終了後放還セリ

五、種 類 直 願

日 時 大正五年七月十日午前十一時

場所 東京市本郷區春日町二十五番地

住所氏名 鹿兒島縣人
年齢職業

小林 源 次 郎

當 三 十 八 年

事實及措置

行幸ノ途次鹵簿ノ前記箇所ニ差蒐リタル際右小林源次郎ハ突然奉拜線ヲ突破シ鹵簿ニ近付キ御召車中ニ直訴文ヲ投入シタリ

直訴文ノ内容ハ狐ニ因ル符呪ニ妄想ヲ云々シタルモノニシテ本人ハ直ニ配置警察官ニ依リ取押ヘラレタリ

精神病者ナルヲ以テ巢鴨病院ニ送院シタリ

六、種 類 短刀ヲ獻上セントスルノ虞アリタル者

日 時 大正六年八月一日

住所氏名 栃木縣宇都宮市大寛町七十三番地

年齢職業 金網製造業

山 内 政 明

明治二十一年二月十五日生

事實及措置

本人ハ非監置精神病者トシテ視察中所在不明トナリ注意中ノ處八月一日午前十一時二十五分
兩陛下行幸啓同所附近御通過ノ約二十分前奉拜者中ニ入り込ミ居リタルヲ配置巡查ニ於テ
發見取押ヘ事故ナキヲ得タリ

同日本人ハ家寶ト稱スル長サ五寸ノ短刀ヲ所持シ居リ之ヲ宮様ニ獻上セント妄想シ居レリ
實父徳太郎ニ引渡シ看護セシメタルモ病勢昂進シ自他ノ危險尠カラサリシ狀況ニアリ其ノ後
間モナク監置セリ

七、種 類 菊御紋章打出金爛布片等ヲ獻上セントシタルモノ

日 時 大正六年十一月十二日

住所氏名 長野縣東筑摩郡芳川村

中 村 兵 一

事實及措置

皇太子殿下ニハ同日陸軍機動演習御見學ノ爲メ埼玉縣下ニ行啓御歸途北足立郡大宮町氷川神
社ニ御參拜在ラセラレタルカ當時同地方ハ警察方ヲ集中嚴重警戒中ノ處偶々同日大宮警察署
ニ宛前記兵一弟茂作ナル者ヨリ精神病者兄兵一大宮驛ニ向ヒタル旨ヲ以テ之カ取押方依頼ノ
電報アリ依テ嚴重手配ヲ爲シ其ノ發見ニ努メタル處同日午後九時四十分其人相着衣ニ該當ス
ル男大宮驛ニ下車シタルヲ以テ直ニ大宮警察署ニ同行シ取調ヘタルニ長野縣東筑摩郡芳川村
大字村井百四十八番地中村兵一當二十七年ト申立テ取押方依頼ノ人物ニ相違ナク且懷中ニ天
照皇大神歷代御尊影軸應需ノ趣意書及菊御紋章打出金爛布片等ヲ携帯シ居リテ敬神狂ト認メ
ラル、ニ付同署ニ保護シ此旨依頼者茂作ニ打電セリ

同月十四日茂作ハ本人引取ノ爲大宮警察署ニ出頭シタルヲ以テ無事引渡ヲ了シタリ

八、種 類 直願未遂

日 時 大正八年八月

場 所 北海道札幌郡江別町十戶通

住所氏名 北海道札幌郡江別町十戶通

宮 本 九 平

事實及措置

東伏見宮殿下御成ノ際御道筋ニ於テ戸籍謄本用紙改正ニ關スル請願書ヲ奉呈セムトシタルヲ
事前ニ發見取押ヘタリ

九、種 類 直願未遂

日 時	大正十年八月
場 所	秋田縣土崎港町新町
住 所	秋田縣土崎港町新町
年 齡	
職 業	

精神病者

日 高 末 吉

事實及措置

大正十年八月 淳宮高松宮兩殿下秋田縣御成ノ際土崎驛ヨリ大濱製油所へ自動車ニテ向ハセ
ラル、御途中同人ハ上願書ト表記シタル不得要領ノ書面ヲ竹棒ノ先ニ插ミ御召自動車ニ投セ
ント近寄りタルモ時既ニ御通過後ニシテ本人ハ直ニ警衛警察官ニ於テ取押ヘタリ

一〇、種 類 直願未遂

日 時	大正十年九月二十一日
-----	------------

住 所	新潟縣古志郡上鹽谷村大字上鹽二、〇一九
年 齡	
職 業	

御 嶽 行 者

和 田 井 ヲ カ

當 五 十 一 年

事實及措置

同日午前七時三十分頃 澄宮殿下日光停車場へ向ハセラル、御途中警衛ノ爲供奉セル警務課
長ノ自動車カ通過セントシタル際奉拜者中ヨリ前進シ二通ノ封書ヲ差シ出サムトシタルヲ警
衛巡查ニ於テ取押ヘタルモノナリ書面ノ表ニハ大君様ト記シ内容ハ意味不明瞭ナルモ御病氣
御見舞トモ見ルヘキモノヲ御料ノ自動車ト思ヒ差シ出シタルモノナリ
本人ハ敬神狂トモ認ムヘキモノニシテ同日日光町木賃宿ニ宿泊シ居リタルモノナリ而シテ其
不心得ヲ諭シタルニ前非ヲ悔悟シタルニヨリ原籍地ニ送還シタリ

一一、種 類 直願未遂

日 時	大正十年十一月十六日午後零時二十分
場 所	東京市芝區三田同朋町十七番地
住 所	大分縣人
年 齡	
職 業	

竹 田 津 六 二

明 治 二 十 六 年 生

事實及措置

皇太子殿下宮城ヨリ高輪御所へ還啓ノ途次鹵簿ノ前記ノ箇所ニ差ル蒐ルヤ突然奉拜線ヲ突破セントシタル際配置警察官ニ依リ取押ヘタリ
所持ノ直願文ハ「世界ノ日本論」ト題スルモノニシテ賣名方法ト認メラル
請願令違反トシテ檢事局へ送付シタルモ不起訴トナル

一二、種 類 英國皇太子殿下ニ伺候セントシタルモノ

日 時 大正十一年二月二十日

場 所 滋賀縣米原驛

住所氏名 福井縣今立郡河和田村小坂十七號

年齢職業 戸主 農業

牧田嘉吉

明治三十四年一月 生

事實及措置

同人ハ痴呆性非監置精神病者ニシテ平素自宅ニ蟄居シ時々附近村部落ヲ徘徊セルモノナルカ
大正十一年二月二十日所在不明トナリタルヲ以テ手配中同日滋賀縣米原驛ニ於テ取締巡查ニ
取押ヘラレタルカ同人ハ當時御來訪中ノ英國皇太子殿下ニ對シ邦語ヲ教ヘン爲メニ上京ノ途

次ナリト語り居リタリ

一三、種 類 皇后陛下ニ物品ヲ献上セントシタルモノ

日 時 大正十一年三月

場 所 福岡市

住所氏名 佐賀縣小城郡北山村字下津呂(原籍)

年齢職業 福岡縣筑紫郡住吉町春吉二番地滞在

精神病者

藤瀬ワカ

當五十八年

事實及措置

同人ハ大正十一年三月 皇后陛下御西下當時福岡市黒田侯別邸御駐泊ノ砌リ同月二十日午後
六時頃小學校女生徒旗行列ノ一行カ同邸門内ニ入りタル雑踏ニ紛レ風呂敷包ヲ攜帶同門内ニ
侵入シタルヲ以テ舉動不審ノ爲メ取調ヘタルニ該風呂敷包ニハ干柿一提ケ及蕎麥重箱入二個
ヲ包ミ居リテ同物品ハ佐賀縣ノ名産ニ付 陛下ニ献上ノ爲メ攜帶シ來リタル事實判明シタリ

一四、種 類 天氣易書ナル書面ヲ差出サントシタルモノ

日 時 大正十一年三月二十六日

場所 埼玉縣北足立郡神根村大字赤山
住所氏名 同縣同郡同村大字西新井宿一、二六三番地
年齢職業名 非監置精神病者 農

高津幸三郎
當四十六年

事實及措置

同日 皇太子殿下埼玉鴨場へ行啓ノ砌リ午前八時五十分頃御道筋ナル前記赤山地内ニ並列セ
ル拜觀者中ニ一人ノ舉動不審者アルヲ發見シ取調ヘノ結果右高津幸三郎ナルコト發見シ且ツ
懷中ニ天氣易書ナル書面ヲ所持シ居リタルヲ以テ之ヲ領置シ即時私服警察官ヲシテ同行歸途
ニ就カシメタリ

一五、種類 直願未遂

日時 大正十一年七月

場所 青森市

住所氏名 青森市外瀧内村大字古川字千刈四十七番地
年齢職業名 油類行商

中村辰五郎

安政三年八月 生

事實及措置

同人ハ平常ハ常人ト異ラサルモ時々發作スルコトアル精神病者ナルカ大正十一年七月 皇太
子殿下北海道へ行啓ノ途次同月七日青森縣御通過ニ際シ 殿下青森驛御着前「御報知訴盡」
ト記シタル不得要領ノ上奏文ヲ認メ之ヲ捧呈セント携帶シ居ルヲ青森警察署員ニ於テ發見御
通過後迄檢束ヲ加ヘタリ

一六、種類 御前ニ伺候スル虞アリシ者

日時 大正十一年十一月二十六日

場所 (一) 埼玉縣下秩父停車場前

(二) 同 秩父町市街地

住所氏名 (一) 東京市麴町區麴町五丁目番地不詳
年齢職業名 (二) 同

高木惠三郎

當四十三年

(二) 埼玉縣秩父郡上吉田村大字太田部四十五番地

新井邦次

當五十五年

事實及措置

同日 秩父宮殿下埼玉縣秩父町ニ御旅行在ラセラレタルニ當リ秩父停車場前ニ群集セル奉拜中及秩父町市街地ニ並列セル奉拜者中ニ各一名ノ舉動不審者アルヲ發見シ取調ヘタルニ前者ハ東京市麴町區麴町五丁目番地不詳無職高木惠三郎當四十二年ト自稱シ「フロックコート」ヲ着シ 殿下ノ御着ヲ待チ親シク拜謁ヲ賜ヒ自己年來ノ希望ヲ申上ケン目的ナル旨申立テ、後者ハ埼玉縣秩父郡上吉田村大字太田部四十五番地新井邦次當五十五年ト稱スル非監置精神病者ナルコト判明シ且ツ其ノ懷中ニ行啓奉祝ノ短冊數葉ヲ所持シ 殿下ノ御通過ニ際シテ之ヲ献上セントノ目的ナル旨ヲ申立タルヲ以テ何レモ直ニ秩父警察署ニ同行シ檢束ヲ加ヘタリ

一七、種 類 皇太子殿下ニ伺候セントシタルモノ

日 時 大正十一年十一月二日

場 所 和歌山縣紀三井寺

住所氏名 和歌山縣和歌山市元金屋町在住

生駒毛八郎

事實及措置

同人ハ 攝政殿下和歌山縣海草郡紀三井寺ヘ行啓在ラセラレタルヲ記念スヘキ赤誠ノ下ニ紀

三井寺村内有志ヨリ寄附金ヲ募集シ同寺表庭ニ記念碑ヲ建立シ當日 殿下ニ建立ノ趣旨ヲ言上シ又一面本名ノ二男義薰ハ曩ニ東京美術學校ヲ卒業シ虎ノ繪ヲ好クスルヲ以テ同人筆ノ軸ヲ御台覽ニ供シ若シ御意ニ召サハ献上セントテ數日來同寺奥ノ間ニ立籠リ居ルヲ警戒員ニ於テ發見シ目的ノ達成ヲ未然ニ阻止セリ

一八、種 類 秩父宮殿下ニ伺候セントシタルモノ

日 時 大正十二年五月二十六日

場 所 和歌山縣和歌浦町新和歌浦

住所氏名 和歌山市南桶屋町十六番地

内田ともしも

當五十七年

事實及措置

秩父宮殿下ニハ五月二十六日高野山及和歌山市ニ御旅行在ラセラレ新和歌浦旅館望海樓ニ御滞在同日午後三時半頃御泊所裏手海邊ヨリ御乗船間際ニ於テ數間ノ間近迄詰寄セタル奉拜者中ヨリ風采賤シカラサル一老婦身ニ紋服ヲ着用シ左手ニ風呂敷包ヲ抱キ何事カヲ呟キツ、殿下ノ御身邊ニ近寄ラントセルヲ以テ警衛私服警察官ニ於テ阻止ノ上取調ヘタルニ前記とも

ナルコト判明シタリ同人ハ「先帝陛下ニ奉仕シ又久邇宮家ニ於テ御養育掛ヲ勤メ近ク陛下ヨリ拜領品ノ御下賜ト共ニ勳位ヲ拜受ノ筈ナリ本日殿下ノ行啓ヲ機會ニ御機嫌奉伺ノ爲メ御泊所望海樓ヲ訪レタルモ只今海上御遊覽ノ趣キナリシヲ以テ暫時御面接ヲ乞ヒ持參ノ羊羹一罐ヲ献上セント申立テタリ」同人ハ前年來ヒステリ一性病質ノ處攝政殿下ノ御恩澤ノ深キヲ日々新聞紙ニ掲載サ、ルヲ耽讀シ一時的的精神ノ發作ヲ來シタルモノト認メラル

一九、種類 刑法第七十三條ノ罪

日 時 大正十二年十二月二十七日午前十時四十五分

場所 東京市芝區琴平町一番地先

住所氏名 山口縣熊毛郡周防村二百五十七番屋敷

無職

難波大助

明治三十二年十一月七日生

事實

攝政殿下帝國議會開院式行啓ノ御途次午前十時四十五分鹵簿虎ノ門通御ニ際シ芝區琴平町一番地先西洋家具商あめりか屋前ニ在リタル大助ハ御召自動車カ本人ヲ去ル六間前後ノ距離ニ差蒐ラレタル際突然前列ニ佇立セル兒童ヲ突キ除ケ左方ニ警察官右方ニ憲兵ノ警戒セル中間ヲ左手ヲ以テ「ステッキ」銃ノ銃身ヲ把持シ右手ヲ以テ銃柄ヲ把握シ引金ニ指ヲ付シ射撃ノ構

ヲ爲シタル儘御召車ニ向ツテ逃走シ畏クモ攝政殿下ニ咫尺シテ之ヲ發射シ發射後革命萬歳ヲ連呼シツ、御召自動車ニ追從シテ驅走セルヲ警察官並憲兵ノ手ニ依リ逮捕セラレタルモノナリ

措置

大助カ本件犯罪ノ決意ヲ爲スニ至リタル動機ハ「皇室ト共產主義トハ相兩立セスト思惟シ言論ノ壓迫ト戰ヒ反動團體ノ反省ヲ促スト同時ニ權力階級及資本家ノ壓迫ヲ除キ無產者ノ懷ケル皇室中心主義ヲ放擲セシメントヲ目的トシテ此等ノ者ノ奉戴スル皇族ニ危害ヲ加ヘントスルニ在リ」(判決文抄)タルモノニシテ本件ノ裁判ハ大審院ノ特別權限ニ屬スルヲ以テ大審院檢事々務取扱南谷東京地方裁判所檢事正ニ於テ被告ノ取調ヲ爲シ爾來同院第一特別刑事部ニ於テ繼續審理ノ結果大正十三年九月及十月兩回ノ公判ヲ經テ同年十一月十三日第三回公判ニ於テ死刑ノ判決アリ同月十五日午前九時三分東京刑務所ニ於テ其ノ刑ヲ執行セラル

二〇、種類 直訴未遂

日 時 大正十四年八月十七日

場所 神奈川縣橫須賀市橫須賀停車場前

住所氏名 熊本縣上益城郡豐福村宇兩仲間九百七十番地

戶主平民政喜長男 農

緒方勝 生

明治二十九年五月

事實

同人ハ近時思想界ノ惡化ヲ痛感シ皇室中心主義ノ宣揚、左傾分子ノ根絶ヲ期センコトニ熱狂ノ結果遙カニ郷里熊本縣ヨリ上京直奏セント企畫シ八月十三日出發上京ノ途次列車内ニ於テ新聞紙ニ依リ當日 皇太子殿下樺太ヨリ横須賀ニ御上陸還啓在ラセラル、ヲ知リ大船驛ヨリ旅程ヲ變更シ横須賀市ニ到リ十六日同地ニ一泊翌十七日横須賀驛前奉拜者中ニ徘徊機ヲ待チツ、アリシヲ舉動不審者トシテ警衛警察官ニ於テ取調ヘタル結果事前ニ之ヲ發見シタルモノナリ

尙同人ハ直奏決行後自殺ノ決心ニテ殺鼠劑ヲ用意携帯シ居レリ

措置

嚴重説諭ヲ加ヘタルニ同人モ其ノ舉ヲ悔ヒ歸郷ノ上農事ニ從事スヘキ旨申立タルヲ以テ放還歸郷セシメタリ

二一、種類 鹵簿横斷

日 時 大正十五年九月九日

場 所 東京市赤坂區青山北町三丁目四番地先

住所氏名 東京府荏原郡大井町

帝 大 生

中 川 守 久

明治三十六年二月十日生

事實

同日 皇太子同妃兩殿下成子内親王殿下栃木縣那須ヨリ還啓ノ御途次上記ノ場所ニ於テ鹵簿ニ相對シ進行シ來リタル市内電車後部昇降口ヨリ突如飛降リヲ爲シ御召車前(前驅ト御召車トノ中間)ヲ横斷シタルヲ直ニ取押フ

措置

取調ヘノ結果全然惡意ノ認ムヘキモノナク單ニ行先ヲ急クノ餘リ不用意ニ飛降リヲ爲シ鹵簿ヲ横斷スルニ至リタルコト判明シタルヲ以テ嚴重説諭ノ上即日放還シタリ

二二、種類 直訴

日 時 大正十五年十一月二十九日午前十時十六分

場 所 東京市赤坂區東宮假御所前

住所氏名 島根縣瀨摩郡宅野村百四十二番地

無職

金 筑 菅 臣

事實

同人ハ上記時刻 攝政殿下宮城參内ニ際シ東宮假御所前濠端ニ沿フ電車通（鹵簿通御線ヨリ約十二間ヲ隔テタル地點）ニ在ル一般奉拜者中ヨリ主トシテ朴烈問題ニ關シ慷慨スル直訴文及遺書短刀等ヲ懷中シ御召車ニ向ヒ飛出シタルヲ警衛配置員ニ於テ直チニ追跡シ將ニ植込ヨリ正門前御道筋ニ出テントスル地點ニ於テ取押ヘタリ

措置

取調ノ結果森直次其ノ他ノ共犯者アルコト判明請願令違反トシテ檢事局ニ送致ス

○皇太子殿下御渡歐中各國ニ於ケル警衛狀況

皇太子殿下御滯英中御警衛ノ概要（林大使報告）

一、御警衛ハ内務省及蘇格蘭省ニ於テ指示シ監督セルモ實際ノ御警衛ハ地方警察官廳ニ一任シ本省ヨリ官吏ヲ派遣シテ警衛セシムルコトトナシ、常時警衛トシテ殿下御到着ヨリ御出發マテ警視廳高等

警察部勤務ノ警部及巡查部長各一人ヲ私服ニテ附ス、殿下御外出ノ際ハ一人ハ御召自動車ノ運轉手ト同乗シ他ノ一人ハ次ノ自動車ニ乗ル右二名ハ特定ノ者ニシテ途中更代セシムルコトトナシ

二、御到着停車場ノ構内ニハ特ニ發行セル入場券所持者ノ外入場セシメス

停車場前ヨリ御旅館タル王宮マテノ警衛ハ皇帝ノ正式行幸ノ際ニ於ケルト同様ニシテ群衆ヲ入ル、個所ニハ約五歩ニ巡查一人、巡查二人ニ對シ部長一人、部長二人ニ對シ警部一人ヲ配置シ街路交叉點ニシテ群衆多キ場所ハ殆ト一列ニ近キマテ密集配置セリ、徒歩巡查ノ外主要ナル地點ニハ、騎馬巡查ヲ立ツ騎馬巡查ノ一部ハ沿道ヲ絶ヘス、巡邏シ居リタリ、群衆中ニ相當ノ私服巡查ヲ配置セルコト勿論ナルヘシ當日ニ於ケル私服巡查ノ員數ハ不明ナルモ皇帝ノ議會行幸ノ場合ニ於テハ二百人乃至三百人ナル由ニ付當日ニ於テモ略同數ナルヘシ

御通路ニ於ケル車馬ノ交通遮斷ハ約二十分前ニ行ヘリ之カ爲兩側背面ノ道路ニ一段又ハ二段ノ遮斷線ヲ作リテ小數ノ巡查ヲ配置セルヲ見タリ

警察官ノ先乘、前驅後驅ハ日本ト同様ナリ

右ノ御警衛ハ御入京ノ際トロンドン市廳御訪問ノ際ニ止マリ所謂警衛ノ外儀仗ノ意義ノ含マルルモノナシ

三、前項以外ノ場合（御退去ノ場合ヲ含ム）ニ於テハ御通路附近ニ在ル巡查ニ注意セシムルニ止マリ

格段ノ配置ヲナサス、只御降車ノ場所、停車場前等群衆ノ集マルヘキ場所ニ數名乃至數十名ノ巡查ヲ配置警衛及交通整理ニ當ラシム前後驅ヲ付シ及交通ヲ遮斷スルカ如キコトナシ
 夜會御觀劇等ノ爲夜間行啓ノ場合ニ於テモ亦右ト同様ナリ、御觀劇ノ場合ニ於テモ警衛ハ劇場前ニ限リ場内ニ制服警察官ヲ配置スルカ如キコトナシ

四、御旅館前ニハ正門ニ制服巡查ヲ立テ、出入ヲ警戒セシム御旅館周圍ハ普通巡回ノ巡查ヲシテ警戒セシムルニ止マレリ

前記常時警衛ノ警部及巡查ハ早朝ヨリ夜間マテ在邸警衛セリ

五、地方御旅行中ハ前記ノ二名カ常時隨伴警衛セルノ外凡テ地方警察官憲ノ裁量ニ依リタルモノノ如ク各地一定セサルモ大都會ニ於テハ略ロンドンニ於ケルト大差ナシ、御到着ノ際ニ於テハ通例警部長自動車ニテ先驅ス、各所御巡覽ノ場合ニ於テハ地方警察官私服ニテ警察用自動車ニ乘シ警衛ス警部長常時警衛セル事例モナキニ非ス
 御旅館ハ巡查ヲ立ツルコトロンドント同シ

以上

(在蘭 田付公使來信寫)

皇太子殿下御滯蘭中御警戒ニ關スル報告

皇太子殿下歐洲御漫遊ノ報ニ接スルヤ御序ヲ以テ蘭國皇室御訪問可被在哉モ不被計ト存セラレタルニ付萬一右様ノ場合ヲ慮リ豫メ御警戒方ニ關シ蘭國外務大臣ニ内々依頼シ置キタル次第有之タル處愈々右御訪問ノ件御決定ノ報ニ接スルヤ公然外務大臣ニ御警戒方ニ關シ更ニ遺漏ナキ様注意方依頼シタル處同大臣ハ蘭國警察制度ノ相當完備シ居ルコト及今日迄左程憂フルニ足ルヘキ情報ニ接シ居ラサル旨ヲ述ヘ然シナカラ御警戒方ニ關シテハ主任大臣タル司法大臣ニ移牒シ萬遺憾ナキヲ期スヘキ旨ヲ保證セリ

其ノ後在佛石井大使ヨリ通報ノ次第モアリ本官ハ佛國出張歸任後更ニ外務大臣ヲ通シテ改メテ司法大臣ニ面會協議スルカ又ハ同大臣ヨリ相當探偵當局者ヲ公使館ニ派シ常ニ連絡ヲ保タシムル様致度旨希望ヲ述ヘタルニ司法大臣ハ海牙警察署長 Van Sant ヲ特派シ協議セシメタリ。本官面接種々打合ハセノ結果秘密探偵一名ヲ巴里ニ派遣シ同地ニ於テ豫テヨリ特派シアル蘭國秘密探偵當局ト協議シ且ツ巴里警察ノ警戒振リヲモ參考シ兼テ在佛我大使館共連絡ヲ取ラシメタリ。同人著ノ際ハ當方ヨリ豫メ巴里ヘ電報シ置キタルニ拘ラス大使館警戒主任者タル越田書記官ハ既ニ白、蘭兩國出張後ニテ同書記官ニ面會スルヲ得ス白都「ブラツセル」ニテ初メテ面會スルコトヲ得タル由ナリ一方脱船日本人支那人、鮮人及無賴外國人ノ巢窟タル「ロツテルダム」ハ帝國名譽領事ヲ通シテ其ノ知人タル市長及警察署長(ロツテルダム市及アムステルダム市ニ於テハ市長警察權ヲ有ス)ニ充分警戒方ヲ依頼シ尙ホ

ロ市在學島田留學生ニ内密探偵方ヲ命シ又隨時水田書記生ヲ同地ニ派シテ之ヲ幫助セシメタル結果朝鮮人金成太ナル者上海ヨリ流レ來リ常職ナク常ニ露國人ト交際シ且ツ言動不穩ノ廉アリ甚タ注意スヘキ人物ノ様認メラレタルニ付二名ノ角袖ヲ附隨セシムルコト、爲セルモ殿下御著間際ニ至リ露人ヨリ蘭貨數百夫窃取ノ罪跡露ハレタルニ依リ入牢セラレタリ、尙ホ一名不審ノ日本人アリタル處是亦無旅券ニテ入國シ流浪シ居タル廉ニ依リ一時拘留外出ヲ禁セラレタリ其ノ他ニハ別ニ不審ノ者ナカリシモ殿下同港御台臨ノ當日ハ勿論前後ノ警戒ハ頗ル嚴重ナリシ由ニテ當日御道筋ノ如キハ警察署長自動車ニテ先驅シ尙御行列ノ前後脇道等ニハ「モーター・カー」ノ平服巡查數名ニテ御警護セリ

「アムステルダム」ニ於テハ矢張り帝國名譽領事 Bekker 氏ニ依リ市長及警察署長ニ依頼スル處アリ Bekker 氏ハ熱心ノ度ロ市ノ名譽領事 de Tingh 氏及副領事 Van Flic 氏ニ及ハサルモノアルカ如ク見ヘ而カモ「ロツテルダム」市ニ於ケル島田留學生ノ如キモノアリテ間接ニ當局官憲等ノ舉動ヲ監視スルモノナシ但シ「アムステルダム」市ニハ日本人又ハ鮮人等ノ居ルヲ聞カサルモ爲念本官ハ殿下御入國前三日同市ニ行キ親シク署長ニ面會打合ヲ爲シタル處御警戒ノ部署等地圖ニ依リ詳示安心スヘキ旨ヲ告ケラレタルニ依リ尙ホ御着當日驛内ニ出入スル東洋人ニハ本官ノ名刺持參者ノ外入ルヘカラス等充分注意方ヲ依頼シ引取りタリ

海牙ニ於テハ公式中ハ勿論御微行ニ入ラセラレテモ警察ハ毫モ警戒ノ手ヲ緩メス御召自動車ニハ私

服巡查運轉手ノ側ニ御陪乘シ御散歩等ノ御途筋ハ豫メ公使館ヨリ内報シ其ノ沿道ニ正服又ハ私服巡查ヲ配置又ハ尾行セシメタリ尙留學生等ヲシテ公衆中ニ交ハリ夫レトナク御警護ノ任ニ當ラシメタリ其ノ他全國ニ亘リ入國者ノ検査嚴重ニ行ハレ東洋人ニ對シ特ニ然リトス現ニ殿下御入國數日前入國セル日本人ハ列車中及旅館ニ於テ鄭重ニ而モ頗ル嚴重ニ旅券等ノ取調ヲ受ケタル由ニテ其ノ他一般ヲ推知スルニ至ルコト、察セラル

(在白耳義國安達特命全權大使報告)

大正十年十二月十日付
外務大臣 宛

攝政宮殿下先般御來白ノ際ニ於ケル當國警戒狀況報告ノ件

本件ニ關シ貴大臣發林在英大使宛第五百九十二號御電訓ノ趣敬承右警戒ノ儀ハ殿下御來白御治定前ヨリ當方ニ於テモ最モ關心シ居タル處ニモ有之白國司法省警保局長ト連絡ヲトリ一般警戒朝鮮人ノ行動監視等夫々手配致シ置候上愈々御來白ノ儀確定後ハ更ニ前掲警保局長及檢事總長ノ來館ヲ乞ヒ慎重周到ナル警戒ヲナス様申入レタルカ其ノ後ノ取締方法ハ大要左ノ如クニ有之候

(一) 警保局側

全國ニ亘リ探偵等ヲ使用シ何等危惧スヘキ事態ナキヤ殊ニ朝鮮人ノ在任者若ハ外

國ヨリ渡來スルモノナキヤ等ヲ嚴查セシメ御滯白中ハ左記檢事局側ノ殿下御身邊警衛ト相應シ百

方方法ヲ講シテ不穩行動者ナキ様ニ努メタリ

(二) 檢事局側 各國境殊ニ佛國等ニ於テ不穩行動者ヲ獨又ハ「ルクサンブルク」邊ノ國境外ニ追放スル例多キニ鑑ミ之等ニ隣接セル國境ノ取締ヲ嚴ニシタルカ佛人其ノ他ノ當國入國ニ付近來旅券ニ關スル查證ヲ不要トスルコトナリタルト三方ハ出入自由ナル平地陸境ナル爲單ニ鐵道等ニヨル國境通過ヲ取締ル位ニテハ無意味ナルヲ以テ檢事總長ハ右手續ノ他國內ニ於ケル諸般ノ事情ヲ極力内査セシメ且高級檢事ヲ巴里ニ特派シ警戒實況ヲ訊ネ且諸種ノ連絡ヲ取ラシメタリ尙殿下御滯白中ハ刑事巡查八名ヲシテ不絶御旅館内ノ警戒ニ當ラシメ御旅館出入者ヲ一々取調ヘ御外出ノ際ハ自動車汽車何レモ相當高級刑事ヲ陪乘セシメ居タリ

(三) 右ノ他殿下武府宮城御滯在中ハ王宮警視(同長官ハ陸軍中將)ニ於テ御警衛申上ケ宮城御立退ノ上「ホテル」へ御引移後御外出ノ際ニ於ケル沿道ノ警戒ハ武市廳附屬警官ニ於テ堵列シテ之ヲ勵行シ又武府御發着等ニハ軍隊ノ堵列モアリ警保局檢事局ノ御警衛ト響應シテ充分ニ手ヲ盡シタリ尙秘密私立探偵等ノ使用ハ實際ニ於テ却テ有害ナリシ經驗モアリ且ツ當國ノ如キ小地域内ノ警戒ニハ自然官憲側ノ熱心ナル行動ニ對シ不信任ナルカ如キ感觸ヲ惹起スル惧アリ面白カラサル影響アリト認メ全然手控エタリ

安府、「リエージュ」「ルーヴン」等御巡遊ノ際モ右中央官廳ト夫々ノ地方警察トノ協同ニヨク取締リ居リタリ右報告申進候 敬 具

(在伊太利 諸井大使外務大臣宛通報) (大正十年十二月九日付)

攝政殿下御來伊ニ際シ伊國警戒狀況報告ノ件

本件ニ關シ在英大使宛電第五九二號ヲ以テ御申越ノ趣了承曩ニ皇太子殿下伊國御訪問ノ御儀有ルヘシト決定セラルルヤ御警戒ニ關シ本省ヨリノ御訓令モ有之將又不逞鮮人ノ動靜ニ付キ在英佛兩大使ヨリノ情報ニモ鑑ミ落合大使ハ豫メ當國內務大臣及警保局長ヲ往訪シ殿下ノ御身邊十分御警護アリタキ旨懇請シ尙館員ヲ當地警察署及ナポリ警察署ニ派シ萬遺算無キ警戒方配慮アリタキ旨申込マシメ置キタリ

伊國當局モ當館ノ請求ヲ諒トシ尙右請求ノ有無ニ關セス國賓御接待上十分ナル御警衛申上ルハ當然ノ義務ナリトナシ殆ト空前ノ大規模ヲ以テ其ノ任ニ當レリ、殿下ニハ七月十一日早朝ナポリニ御入港遊ハサレタルカ同地警察署ハ其ノ約壹週間前ヨリ同地ニ滯在スル東洋人ニ就キ一々身元調査ヲ行ヒ多少疑惑ノ感アル支那人四名ヲ拉致シ檢束ヲ加ヘタリ又當時伊國ニアリテハ人心ノ動搖最モ激シキ時期ナリシカハ警察當局ハ此ノ方面ニモ留意シ無政府黨員、社會黨員等ニ對シ嚴重ナル監視ヲ怠ラサリキ、愈々十一日殿下御入港遊ハサルヤ海上ノ警備ハ勿論海軍當局ニテ之カ手配ヲ爲ストトモニ御微行御上陸ノ際ハ特ニ目立タヌ様私服巡查ヲ御道筋ニ配シ又自轉車巡查(私服)十數名ヲ以テ御召自動車ノ前後(但シ相當長キ距離ヲ置キタリ)ヲ御警護申上ケタリ

十二日午前殿下ニハ公式ニテ鎮守府棧橋ヨリ御上陸アラセラレタルカ當時鎮守府構内ニハ許可證無キ者ハ何人ト雖モ入場セシメス各入口ヲ嚴重監視セシメ御召宮廷列車ヲ構内迄廻送シ列車内ニハ警保局附警部二名(フロツクコート、絹帽)乗込ミ居タリ

又鎮守府ナホリ停車場ハ鐵道沿線兩側ニ軍隊ヲ堵列セシメ殿下ニ敬禮セシメタルト同時ニ御警護ノ任ニ當リ更ニ停車場構内ニハ一般公衆ヲ入レス私服警官ヲ配置シタリ、宮廷列車ノナホリ發車前十五分先行警戒列車ハ羅馬ニ向ケテ出發シ線路上ノ警戒ヲ爲シタルカナホリ羅馬間沿線二百五十基米ノ長途ニハ約五丁ニ二人宛ノ憲兵ヲ配置シタリ

當時ナホリ警察署ハ軍當局ト協力シ巡查ノ總動員ヲ行ヒタルトナホリ羅馬間ノ沿線全部ヲ警衛セシメタルトハ殆ト空前ノ手配ナリトノ由ナリ

羅馬ニ於テハ殿下ノ御入京當日ハ中央停車場ヨリ御宿所「クイリナール」王宮迄ノ御道筋ニハ約一ケ師團ノ歩騎兩兵ヲ堵列セシメ更ニ御道筋ニ近接スル裏通り迄憲兵及警官ヲ以テ警戒シ即チ二重警戒ノ實ヲ示セリ

殿下羅馬御滞在中ハ特ニ留意シテ私服警官ヲ以テ御警衛ノ任ニ當ラシメ御微行ニテ市内御巡遊ノ際ハ或ハ先驅トシ警察自動車ヲ以テシ或ハ自轉車巡查ヲ配置セリ一方伊國々境各地警察署ハ殿下御來伊前ヨリ旅券ノ檢閲ヲ勵行シ特ニ東洋人ノ入國ニ際シテハ嚴重ナル調査ヲ遂ケ電報ニテ一々警保局ニ報

告シ同局又其ノ都度「要監視者」ノ有無ヲ大使館ニ通報シ來レリ、殿下御退京ニ當リテハ再ヒ先行列車ヲ附シタル宮廷列車ヲ以テナホリ迄奉送シタルカ同地ニ於テハ約一ケ師團ノ兵ヲ御道筋ノ兩側ニ配シ其ノ他前回同様海陸ノ御警衛ヲ嚴ニシ特ニ鎮守府司令長官ノ御招宴ニ行啓アラセラレタル當時ハ夜間ノ事ニモアリ萬全ヲ期スル御警衛ヲ行ヒ場内ハ勿論香取ニ御歸艦遊ハサル迄軍隊及警官ヲ以テ嚴戒セリ

要スルニ伊國當局ノ御警戒振リハ萬全ヲ期シテ大規模ニ行ヒタルカ右ハ當時自國內人心騷然タルモノアリシニ顧ミタルト一ハ友邦ノ皇儲殿下ノ御安全ヲ祈ルノ至誠ニ出タル結果ト云ハサルヘカラス

皇太子殿下御渡歐中各國警衛概況

(在伯林高橋雄毅氏ヨリ河原田書記官宛報告ノ分)

一、佛 蘭 西

佛國へ御到着ノ際ハ御警衛ハ小生在英中ニテ承知致ナスモ非公式ノ事ナカラ隨分嚴重ニ致シ居リ巴里御滞在中ハ同地ノ警視廳ノ直接警衛ニ致サレタルモ警視廳管轄外へ行啓ノ際ハ内務省ヨリ一名宛附隨シ居タル様記憶セリ

二、白 耳 義

御到着ノ際ハ騎兵ノ前衛後衛及側面警衛ノ外警察官ハ先驅自動自轉車二臺前驅自動車一臺（多分警察長官警衛セルモノナルヘシ）後驅ニ自動自轉車一臺アリタリ當日ハ割馬車ナリシヲ以テ鹵簿ハ騎馬ト自動車ト馬車ト混同シ居リタリ

其ノ他各地へ御巡遊ノ際ハ前驅ニ自動自轉車二臺（巡查又ハ巡查部長）ト自動車一臺（上級ノ警察官）ヲ附シ後驅ヲ附セス、「アントワープ」ニ於テハ大略右ノ外殿下御召車ノ側面ニ自轉車二臺宛巡查四人ヲ附セリ

白國ハ自動自轉車ヲ使用スルコト頗ル多キカ如ク、殿下御出迎ノ爲メ同國陛下停車場へ行幸ノ際ニ於テモ前驅自動自轉車二臺、後驅一臺、御召自動車ノ外供奉員自動車一臺ノ極メテ簡易ナル鹵簿ナリキ

三、和 蘭

先乘自轉車警察官、騎馬警察官、馬車警察官、後驅ハ自轉車警察官（御召馬車ノ前後ニ騎馬アルコト勿論ナリ）ノ簡易ナル御警衛ナリ

四、伊 太 利

御到着ノ際ハ警衛極メテ嚴重ニテ沿道殆ト全線ニ亘リ軍隊ヲ堵列セシメタルノ外憲兵及警察官ヲ配置シ交通遮斷ノ如キ三四十分以前ニ於テ行ヒ居リタリ

其ノ他御巡覽ノ場合ニ於テハ警察官及係員一臺ノ自動車ニテ先行スルノ外警察官三人又ハ四人自轉車ニテ前後ニ警衛セリ

五、御旅館ノ御警衛ハ各國一樣ナラサルモ通例二人位ノ警察官ヲ常時詰切ラセ居タリ制服ノ場合モアリタルモ私服ノ場合多シ

御旅館出入ノ日本人ニ對シテハ豫メ大公使館ニテ通券（通例大公使館ノ印章ヲ押シタル厚紙ニ氏名ヲ書キタルモノ）ヲ發行シ之ヲ所持セサル者ハ出入セシメサル方法ヲトレリ此ノ検査ハ第一ニ警察官又ハ守衛ニテ行ヒ更ニ内部ニ日本人アルトキハ之ヲ注意スルコトニ協定セルモ事實ハ形式ニ流レ居タルカ如シ、右通券ハ供奉員ニ對シテモ發行セリ

六、何レノ地ニ於テモ正式ノ御到着ノ場合ト公式ノ待遇御辭退後トハ警衛殆ト一變シ沿道一面ニ警察官ヲ配置シテ警戒スルハ單ニ御到着其ノ他特別ノ儀式ノ際ニ限り御見物等ノ場合ニ於テハ御身邊警衛ノ爲メ一二名ノ警察官ヲ付スルノ外特ニ群衆多キ場所ニ交通整理ヲ爲ス巡查ヲ配置スルニ止マリ多數ノ巡查ヲ配置スルコトナシ、此ノ點ハ各國ノ皇室貴賓ノ平常ノ御警衛ニ於テモ亦同様ニシテ日本ト全然趣キヲ異ニス

御微行ニテ御買物御見物等ノ際ハ全ク警衛員ナカリシ筈ナリ

七、英國皇太子殿下ノ御一行中ニハ特ニ警衛ノ爲メ警視廳特別高等部ヨリ警視一人隨行セル筈ナリ

以上ハ小生ノ記憶及日記其ノ他ヨリ拔書ニヨルモノナリ、御警衛ハ日本ノ如ク嚴重ナル處殆ト無之シテ外國貴賓等ノ場合餘リ嚴重過キテ御旅情ヲ妨クル事ナキヤト懸念セラル、御警衛ノ問題ヲ別トシ小生ノ殿下御一行ニ附隨中ノ感想ニテハ日本ノ國旗ノ多少カ頗ル眼ニ付ケリ故ニ英國ノ國旗ヲ成ル可ク澤山出サセル工夫ヲ必要ト思料ス (以上)

○英國警察法典(Police Code)中ニ記述セラレタル

警衛要諦

左記ハ英國警察法典中ヨリ警衛上參考トナルヘキ數項ヲ譯出シタルモノナリ

- 一、無政府主義ナル項ノ下ニ
 1. 無政府或ハ無制度ヲ大綱トスル政治上ノ主義ニ左視スル者ニシテ著述又ハ演說ニ依リテ此ノ主義ノ宣傳ヲ職トスル者、此ノ種ニ屬スル者ト雖モ其ノ發表スル危險思想ヲ除外スルトキハ無害ノ者ナルコト多シ
 2. 急進無政府主義者トハ前記ノ主義ヲ實行スルニ必要ナルトキハ武力ニ訴フル者ニシテ王室、國

務大臣其ノ他高官ニ對シテ陰謀ヲ企テ且其ノ暗殺ニ與ミスル者ヲ包含ス

- 二、然レトモ斯ノ如キ暴舉ハ通常著名ノ人士ヨリモ寧ロ無秩序ナル思想ヲ有スル青年輩ノ手ニ依リテ實行セラレタルコト多シ、此等ノ青年ハ事前ニ於テハ官憲ノ注意人物タラサリシ者ニシテ他人ヨリ學ヒ得タル思想ニ感染セシ者ナリ
- 三、警察ハ其ノ職務上此ノ種ノ人物カ常ニ出入スル俱樂部ヲ熟知シ其ノ人物ノ住所氏名並ニ暴舉ニ際シ如何ナル任務ヲ引受クルカヲ知ランカ爲ニ其ノ性質ヲ知ルコトヲ要ス、若シ又無政府主義者カ歐洲大陸ニ出發スヘキ確報ヲ得タル場合ニハ之ヲ警視總監ニ報告スヘキモノトス、此ノ場合ニ於テ警視總監ハ必要ナリト認ムルトキハ直ニ之ヲ外國ノ警察ニ通知スヘケレハナリ

四、(略)

- 五、近時武器及爆發物カ公共ノ行列等ニ際シテ暴舉ヲ遂行スルニ方リ非常ニ利便ヲ與フルニ至リタルニ鑑ミ、此等ノ場合ニ於テハ特ニ出來得ル限リノ警戒ヲ爲スヲ要ス、而シテ之ニ關シテハ決シテ平素ノ豫防ト警戒トモ怠ルコトヲ許サス之レ單ニ一國ノ元首又ハ權勢アル者ノ生命ニ對シテ危險アルノミナラス、無辜ノ一般傍觀者ノ生命ニ對シテ危險ヲ生スル虞アレハナリ、特ニ必要アル場合ハ群衆ヲ制止シ、行列ヲ自由ニ通行セシメ、街路ヨリ群衆ノ突進スルヲ防止スルノ外多數ノ私服巡查ヲシテ攻撃ノ目的物タルヘキ虞アル著名ノ人ヲ乗載セル馬車ニ隨從シテ車道ノ兩側ヲ行カシメ又ハ

道路ニ沿ヒテ多數ノ私服巡查ヲ配置スルカ如キ手段ヲ採ルヘシ、此等ノ私服巡查ノ權限ハ左ノ事項ニ限ル

1. 出來得ル限リノ警戒ヲ爲シテ凡テノ人物ニ視線ヲ注キ傍觀者ノ列ヨリ急ニ飛出ス者ヲ防クヘキ用意ヲ爲シテ暴舉ノ豫防ヲ爲スヘキコト
2. 犯人ヲ逮捕スルコト、爆彈、爆發器カ投セラレタル場合ニ於テ私服巡查ハ被害者ニ對スル應急ノ手當又ハ秩序ノ保持ヲ制服巡查ニ委シ一意兇漢ノ捕縛ニノミ全力ヲ注ク様特ニ訓授ヲ與ヘ置カサルヘカラス又嫌疑アル家屋ハ直ニ之ヲ包圍シ、上官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ何人ト雖モ戶外ニ出テシムヘカラス

六、停車場、波止場及駐在所ニ勤務セル巡查全體ニ對シテハ時ヲ移サス電報、電話、自動車及騎馬ノ急使ヲ派シテ警戒セシメ且地方及大陸ノ警察署ニモ急報スルノ手段ヲ講セサルヘカラス

七、左ノ事項ニ對シテハ特ニ注意ヲ要ス

1. 豫メ警察官吏ノ人物ヲ調査シ置クコト、暴舉ノ場合ニ際シテハ暴徒ハ激昂シテ兇暴トナリ或ハ嫌疑者ヲ私刑ニ處セントカムヘケレハナリ
2. 嫌疑者ノ武器ヲ奪ヒテ速ニ拘束シ爆彈ヲ懷中セサルヤヲ調査スヘキコト
3. 嫌疑者ノ自殺セントスルヲ防止スヘキコト

八、著名ノ人物ノ馭者、馬丁、護衛及侍從ハ行列ノ俄ニ停止シタル場合、汽車ノ發着ニ際シ停車場ニ止リタル場合或ハ儀式ノ場所ニ到着シ又ハ之ヲ出發スル場合ニ於テハ萬一暴舉ノ企テアランコトヲ顧慮シ人目ヲ惹起セサル様出來得ル限リノ保護及注意ヲ爲スノ方法ヲ講スヘシ、彼等ハ其ノ地位上護衛セラルヘキ人物ニ接近スルヲ以テ容易ニ近ツク能ハサル巡查ニ比シテ一層其ノ任ヲ盡シ得ヘキコトヲ記憶スヘシ又無政府主義者ハ權勢アル人物ヲ倒サント注目スルモノナルヲ以テ人望アル人ノ如キハ却テ危険ナリト思ハサル可カラス

九、新聞紙ハ無政府主義者ノ行動及該犯人ニ關スル廣告、記事ハ可成之ヲ掲載セサルヲ可トス

二、行列ナル項ノ下ニ

王室又ハ其ノ他ノ組織アル行列ノ場合ニ道路ノ整理ヲ爲スニ當リテハ多數ノ警察官吏ヲ其ノ場所ニ配置シ且街路ノ兩側ヲ柵若クハ騎馬ノ警察官吏ニ依リテ警戒シ以テ行列ノ進行ニ妨害ヲ與フヘキ者ヲ防止スル様注意セサルヘカラス、萬一狼籍ヲ爲ス者アルトキハ警察官吏ハ行列ニ面スルヨリモ群衆ノ方ニ面シテ一般公衆ノ行動ニ視線ヲ注キ警戒ヲ嚴ニスヘシ、嫌疑者判明シタルトキハ一定ノ間隔ヲ置キテ配置シタル私服巡查ニ信號其ノ他ノ方法ニ依リ其ノ者ヲ指摘スヘシ、最モ危険ナル瞬間ハ主要ナル人ノ通行セムトスル時ナルヲ以テ警察官吏ハ特ニ其ノ際注意ヲ爲サ、ルヘカラス、警察官吏ハ之等ノ人ニ敬禮ヲ爲スニ及ハス、其ノ職務ハ敬禮ヲ爲スニ在ラスシテ群衆ニ注目シ道路ノ整理ヲ爲スニ

在リ

三、敬禮ナル項ノ下ニ

(前略)

八、國王、外國君主、王族、國務大臣ノ出席スル特別ノ場合、警察官吏勤務ハ其ノ通行ニ際シテ敬禮ヲ爲サス單ニ「氣ヲ付ケ」ノ姿勢ヲ取リテ此ノ機會ヲ利用スル拘摸、列ヲ辭スル者、無政府主義者ノ暴舉若ハ王ノ馬車ニ接近セムトスル者等ノ有無ヲ能ク監視スヘキモノトス、此ノ目的ノ爲メニハ群衆ニ背ヲ向ケス之ニ面シテ能ク注視スルヲ可トス

○御大禮ニ關スル應援警察官吏數表

府 縣 區 分	十一月廿八日着		十一月廿八日發		三十二日間應援		(京 都)	
	警 部	警 部 補	巡 査 部 長	甲 巡	乙 査	合 計	合 計	
北 海 道	1	1	2	4	4	21	21	
大 阪 府	2	2	8	9	7	58	58	
神 奈 川 縣	1	1	4	7	26	39	39	
兵 庫 市	2	2	8	9	7	58	58	
長 崎 縣	1	1	4	7	2	36	36	
新 潟 縣	1	1	4	7	2	36	36	
埼 玉 縣	1	1	4	7	2	36	36	
群 馬 縣	1	1	4	7	2	36	36	
千 葉 縣	1	1	4	7	2	36	36	
茨 城 縣	1	1	4	7	2	36	36	
栃 木 縣	1	1	4	7	2	36	36	
合 計	13	13	42	54	44	332	332	

廳府縣區分	十一月廿九日發着				廳府縣區分	十一月廿五日發着			
	警部	警部補	巡查部長	甲巡		警部	警部補	巡查部長	甲巡
警視廳	一二	二〇	三三	一六七	警視廳	一二	二〇	三三	一六七
大阪府	一四	一六	二四	七一	大阪府	一四	一六	二四	七一
兵庫縣	八	一〇	二〇	二五	兵庫縣	八	一〇	二〇	二五
合計	三四	四六	七七	二六三	合計	三四	四六	七七	二六三
(京 都)					(京 都)				
合計	一、一六				合計	四七〇			

廳府縣區分	十一月廿七日發着				廳府縣區分	十一月廿七日發着			
	警部	警部補	巡查部長	甲巡		警部	警部補	巡查部長	甲巡
三重縣	六	六	二四	三八	三重縣	六	六	二四	三八
岡山縣	三	三	一二	一八	岡山縣	三	三	一二	一八
和歌山縣	一	一	四	六	和歌山縣	一	一	四	六
合計	五九	七六	一七六	四一七	合計	五九	七六	一七六	四一七
(京 都)					(京 都)				
合計	二、一七一				合計	一、四四三			

廳府縣區分	十一月八日發着				廳府縣區分	十一月八日發着			
	警部	警部補	巡查部長	甲巡		警部	警部補	巡查部長	甲巡
警視廳	一八	二七	二八	一二〇	警視廳	一八	二七	二八	一二〇
大阪府	一五	二三	六二	一三八	大阪府	一五	二三	六二	一三八
兵庫縣	一三	一三	三二	七八	兵庫縣	一三	一三	三二	七八
奈良縣	三	三	一四	一九	奈良縣	三	三	一四	一九
合計	三三	五三	一四	一九	合計	三三	五三	一四	一九
(京 都)					(京 都)				
合計	四九四				合計	四三九			

廳府縣區分	十一月八日發着				廳府縣區分	十一月八日發着			
	警部	警部補	巡查部長	甲巡		警部	警部補	巡查部長	甲巡
千葉縣	—	—	—	—	千葉縣	—	—	—	—
長野縣	—	—	—	—	長野縣	—	—	—	—
廣島縣	—	—	—	—	廣島縣	—	—	—	—
德島縣	—	—	—	—	德島縣	—	—	—	—
香川縣	—	—	—	—	香川縣	—	—	—	—
愛媛縣	—	—	—	—	愛媛縣	—	—	—	—
高知縣	—	—	—	—	高知縣	—	—	—	—
福岡縣	—	—	—	—	福岡縣	—	—	—	—
合計	一〇	一〇	四〇	七〇	合計	一〇	一〇	四〇	七〇
(京 都)					(京 都)				
合計	三七四				合計	三六			

神奈川	大坂	警視廳	廳府區分		警部	警部補	巡查部長	甲巡		乙查		合計
			特	京				甲	乙			
*2	*2		特	京	一八	二〇	八〇	一六〇	三七六	六五四		
四五	四六		高	刑	一四	一五	二四	四〇	一七七	二六		
			事	交	二二	二二	一〇	一八	二五	五〇		
			都	通	四	四	二四	六〇	一五〇	二四四		
			特	奈	一	一	一三	二〇	五八	一〇〇		
			高	刑								
			事	良								
			特	三								
			高	刑								
			事	重								

特殊技能者應援

十一月十九日發着
六日間應援

(奈良)

合計	富山	石川	福井	長野	岐阜	静岡県	愛知県	神奈川県	警視廳	廳府區分		警部	警部補	巡查部長	甲巡		乙查		合計
										特	京				甲	乙			
四七	三三	三三	三三	三三	三三	六六	二二	六六	八八	特	京	一五	二〇	五九	一一八	四六九	六一〇	四〇一	
										高	刑	二二	二二	一〇	一八	七一	一七〇	一七〇	
										事	交	二二	二二	二四	二〇	二七	二七	二七	
										都	通	二二	二二	二四	二〇	二七	二七	二七	
										特	奈	二二	二二	二四	二〇	二七	二七	二七	
										高	刑								
										事	良								
										特	三								
										高	刑								
										事	重								

十一月廿三日發着
九日間應援

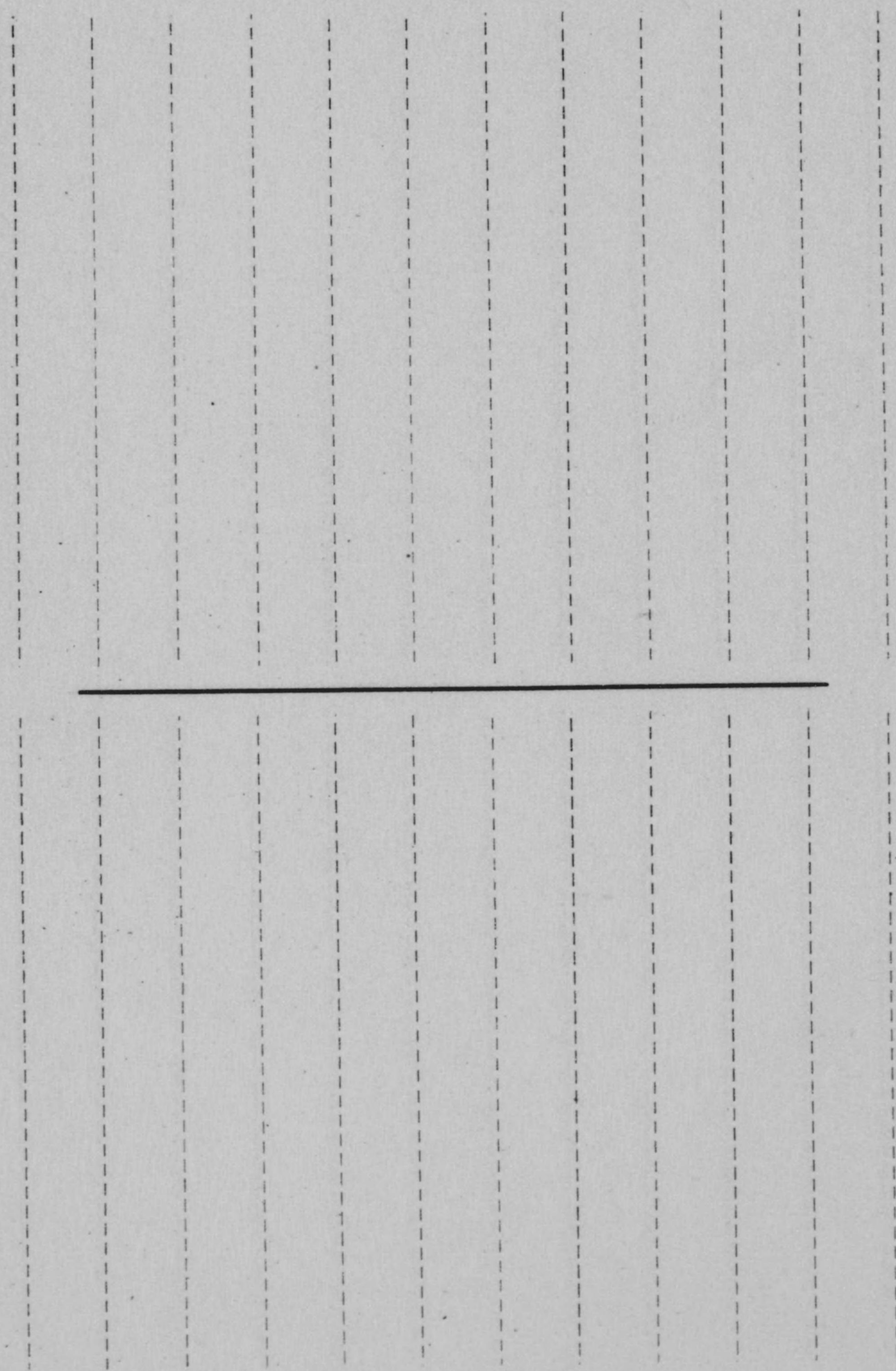
(三重)

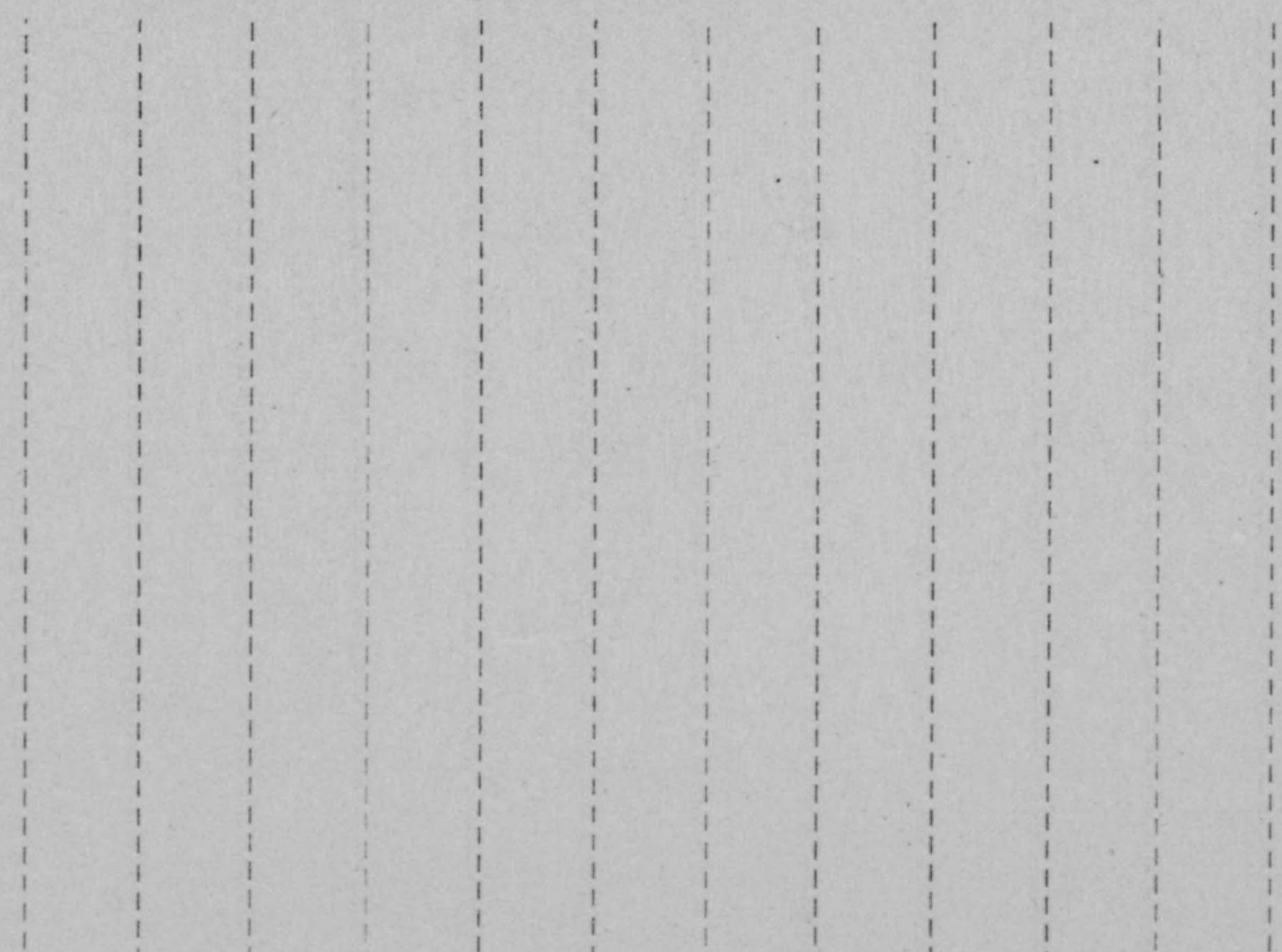
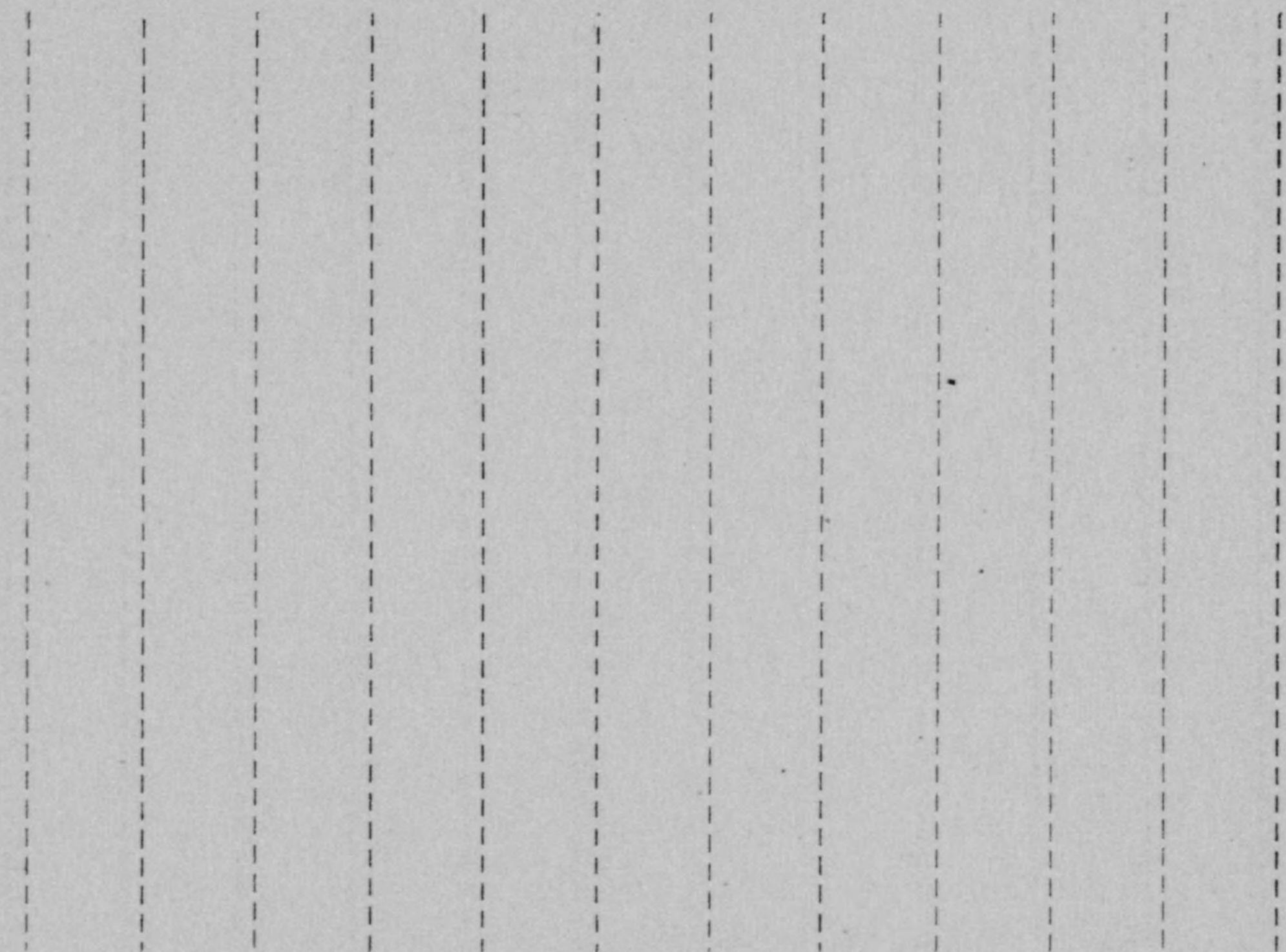
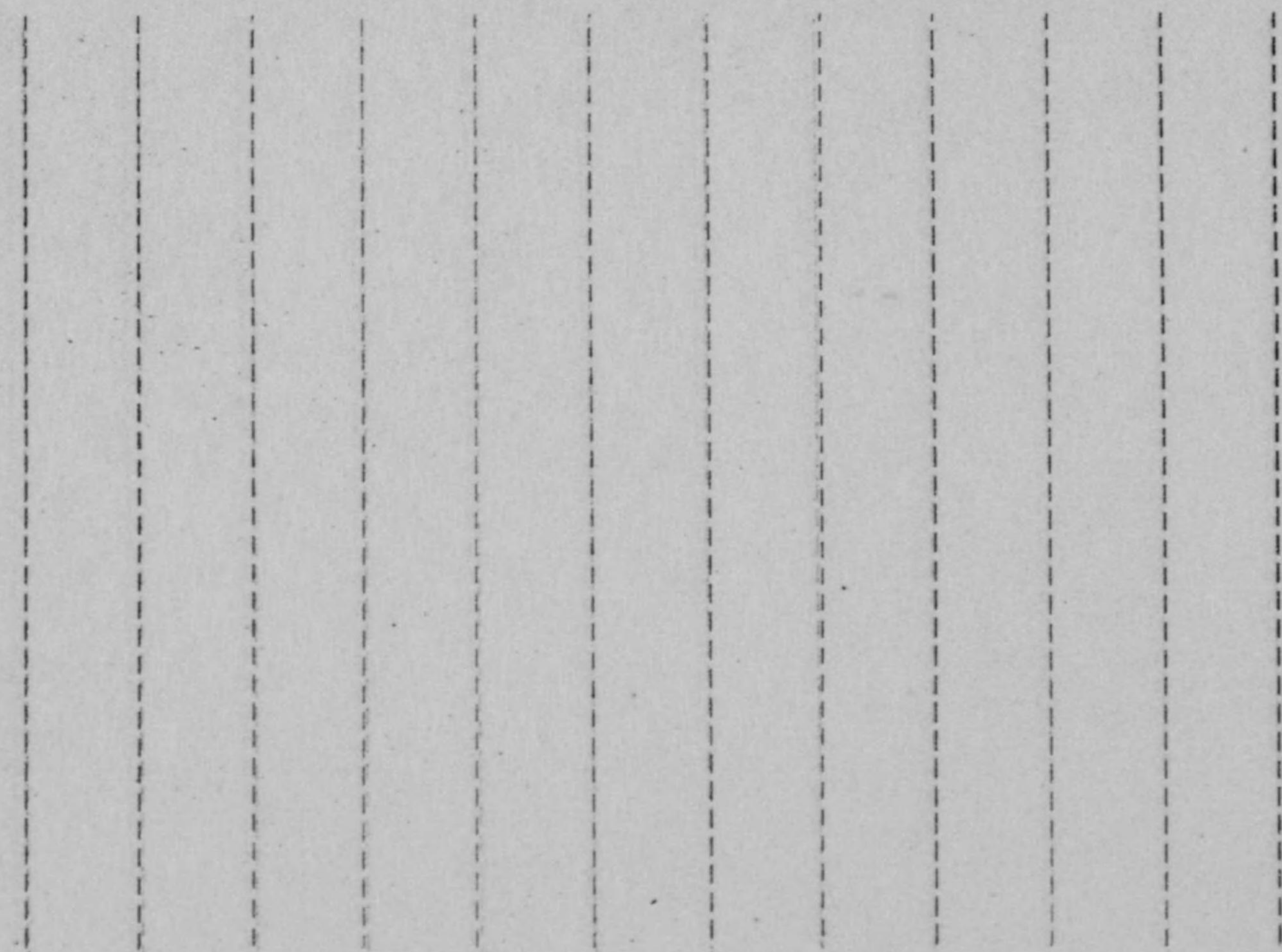
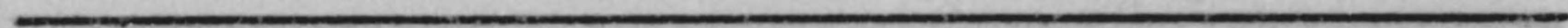
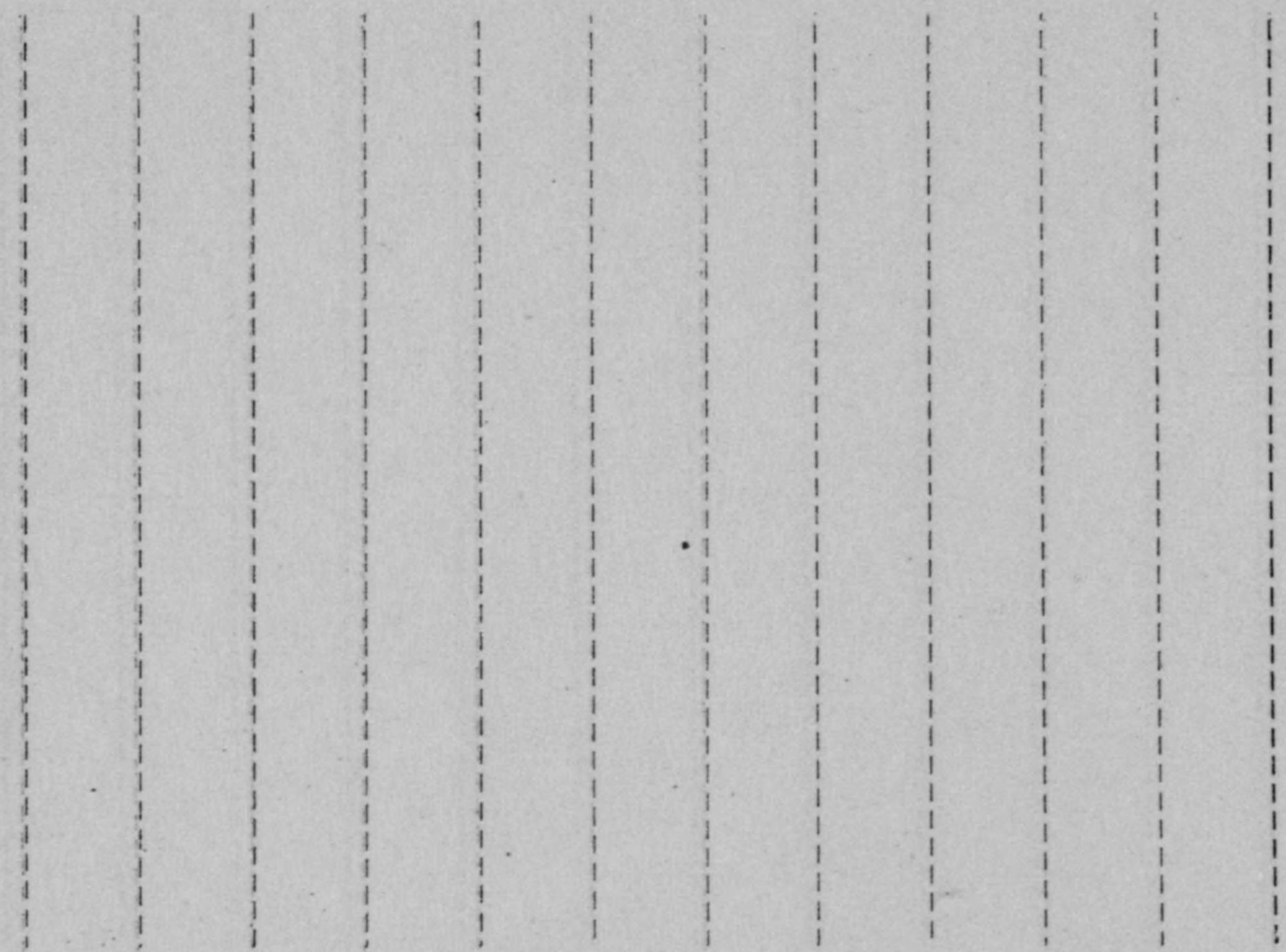
合	朝	福	高	愛	香	德	和	山
						歌		
計	鮮	岡	知	媛	川	島	山	口
* 8		*						
二二八	八	八			三	三	二	四
* 5								
五三							五	
三五								
四〇		三	二	五	二	三	五	
二〇					二	三	二	
五五								
三〇						三		

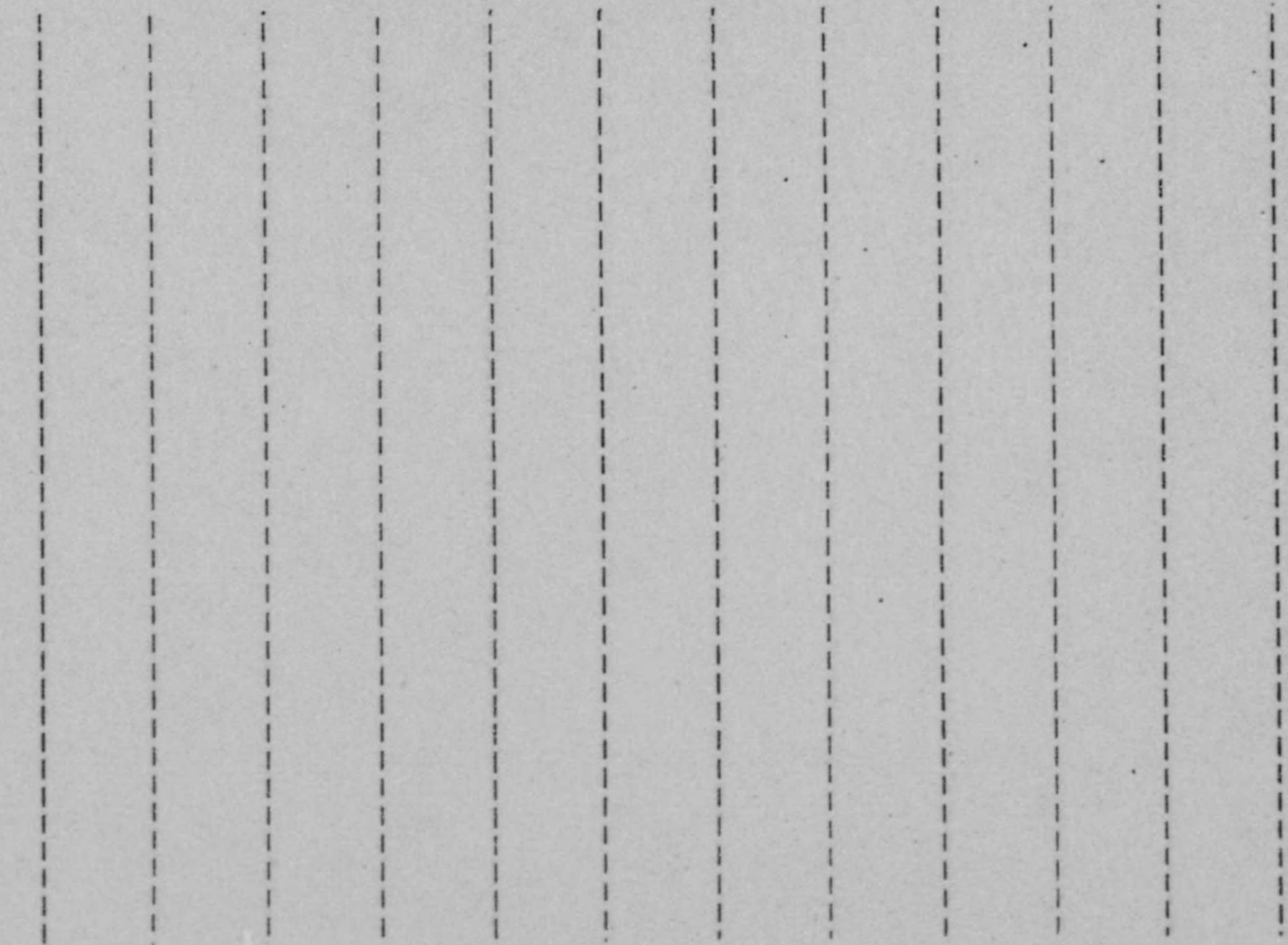
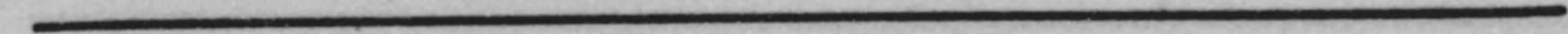
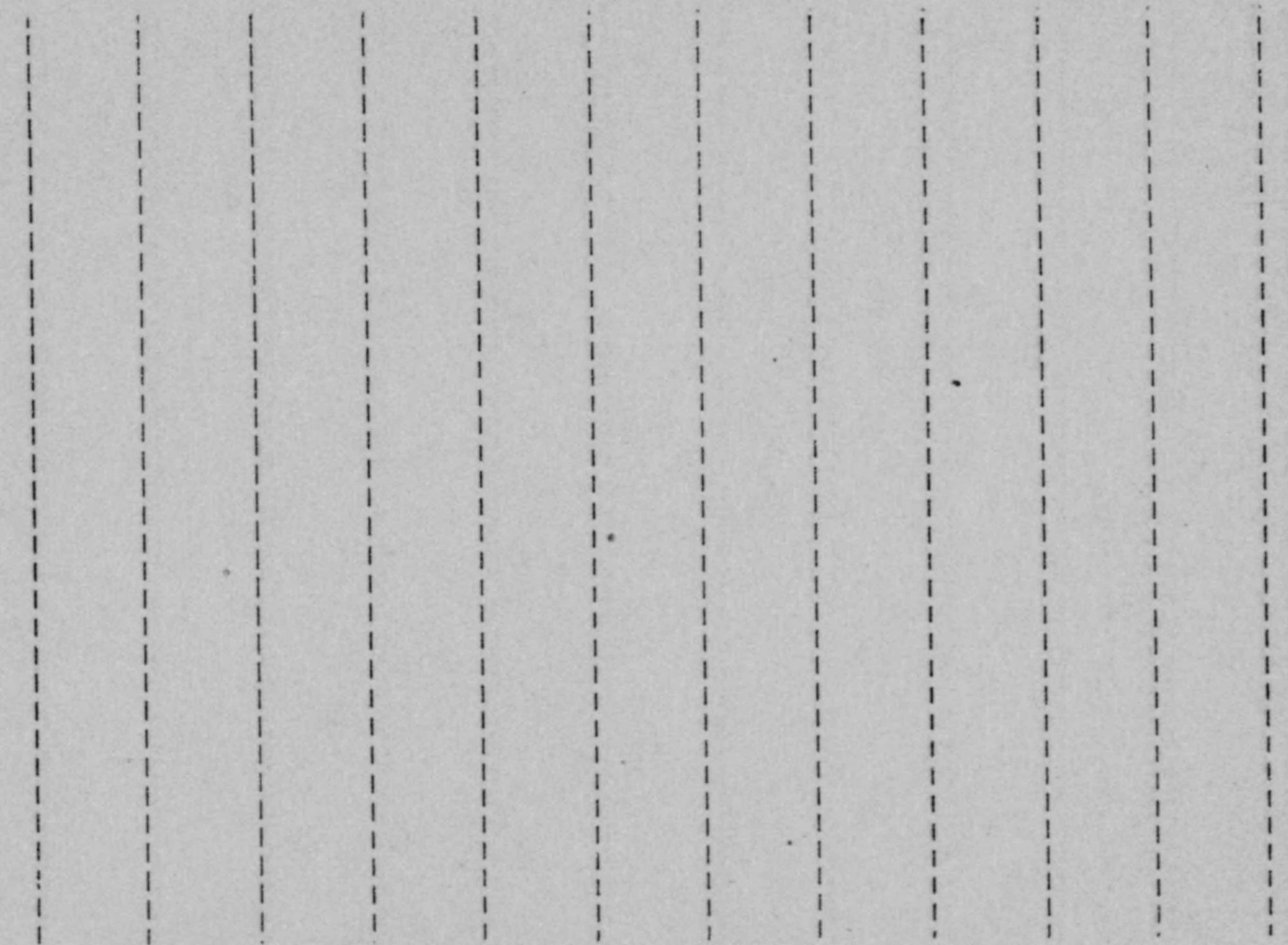
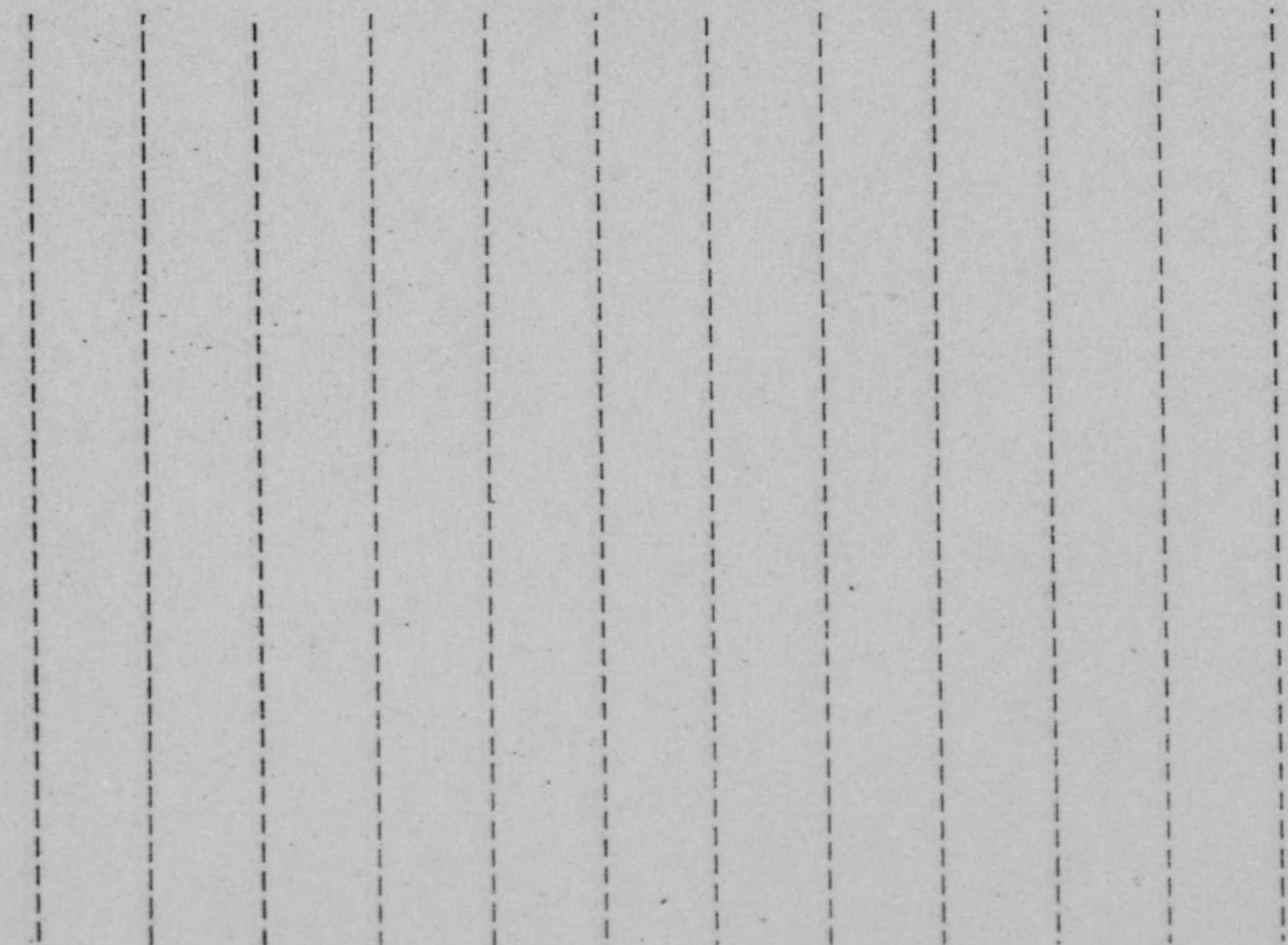
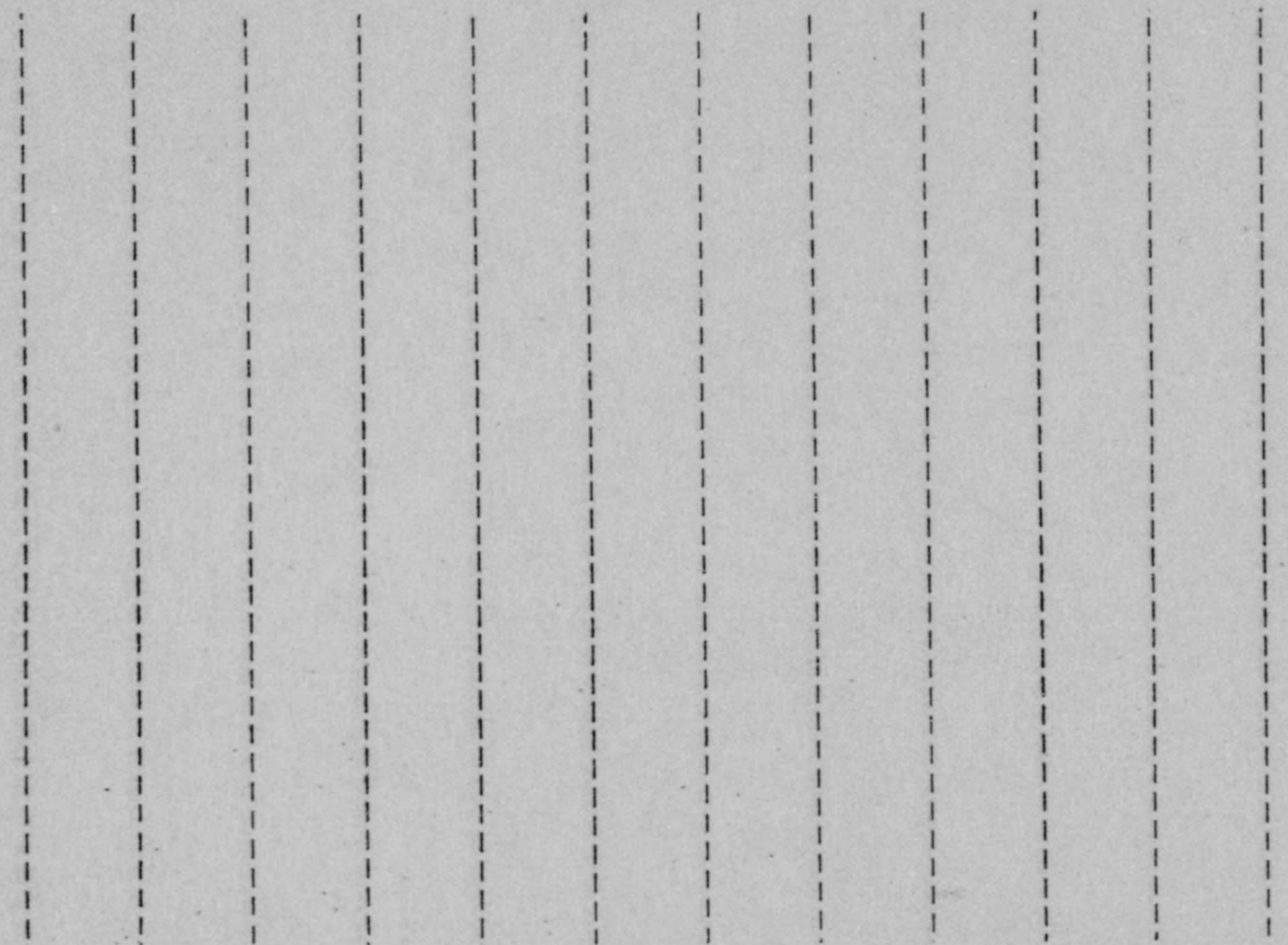
備考

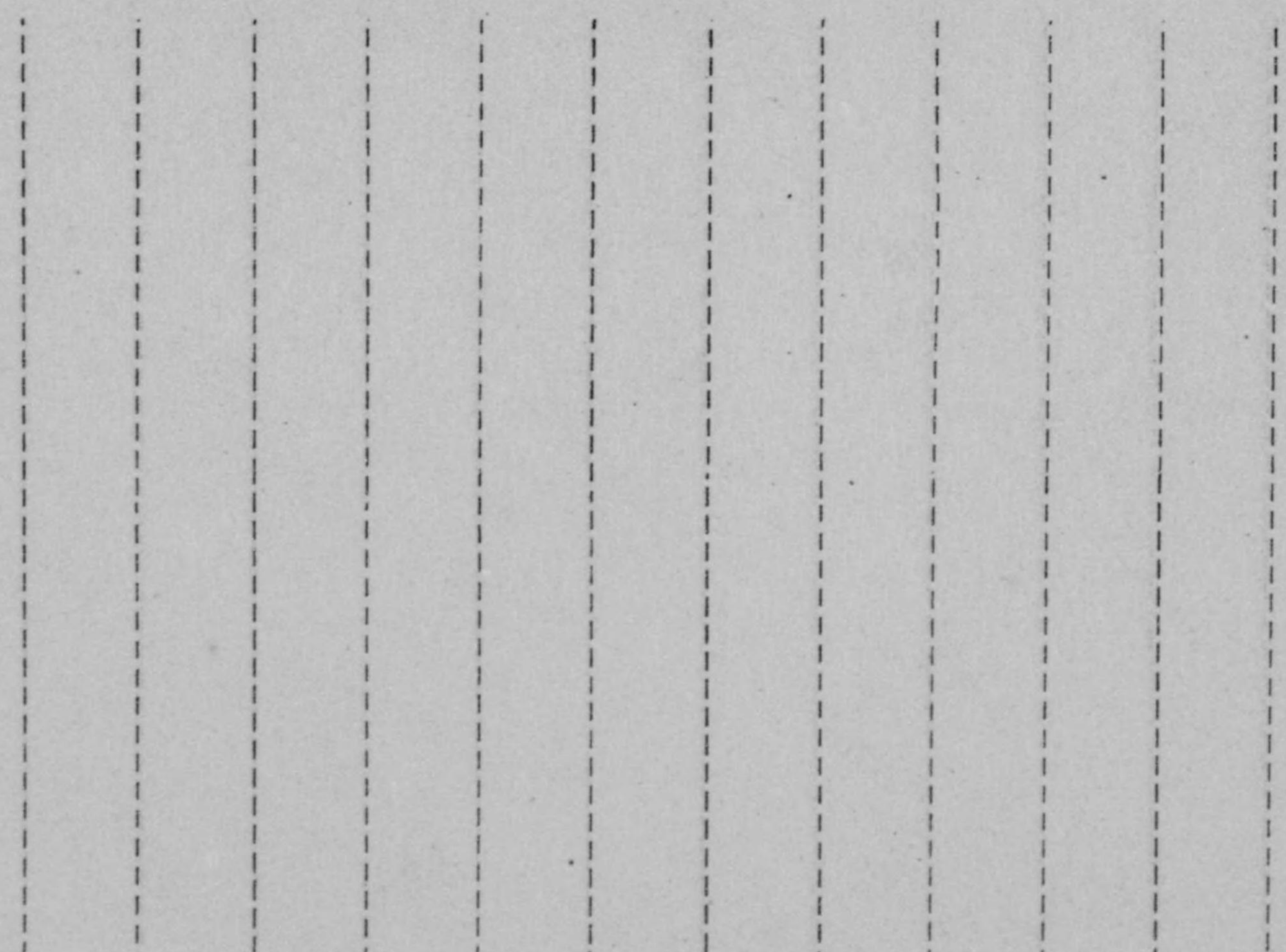
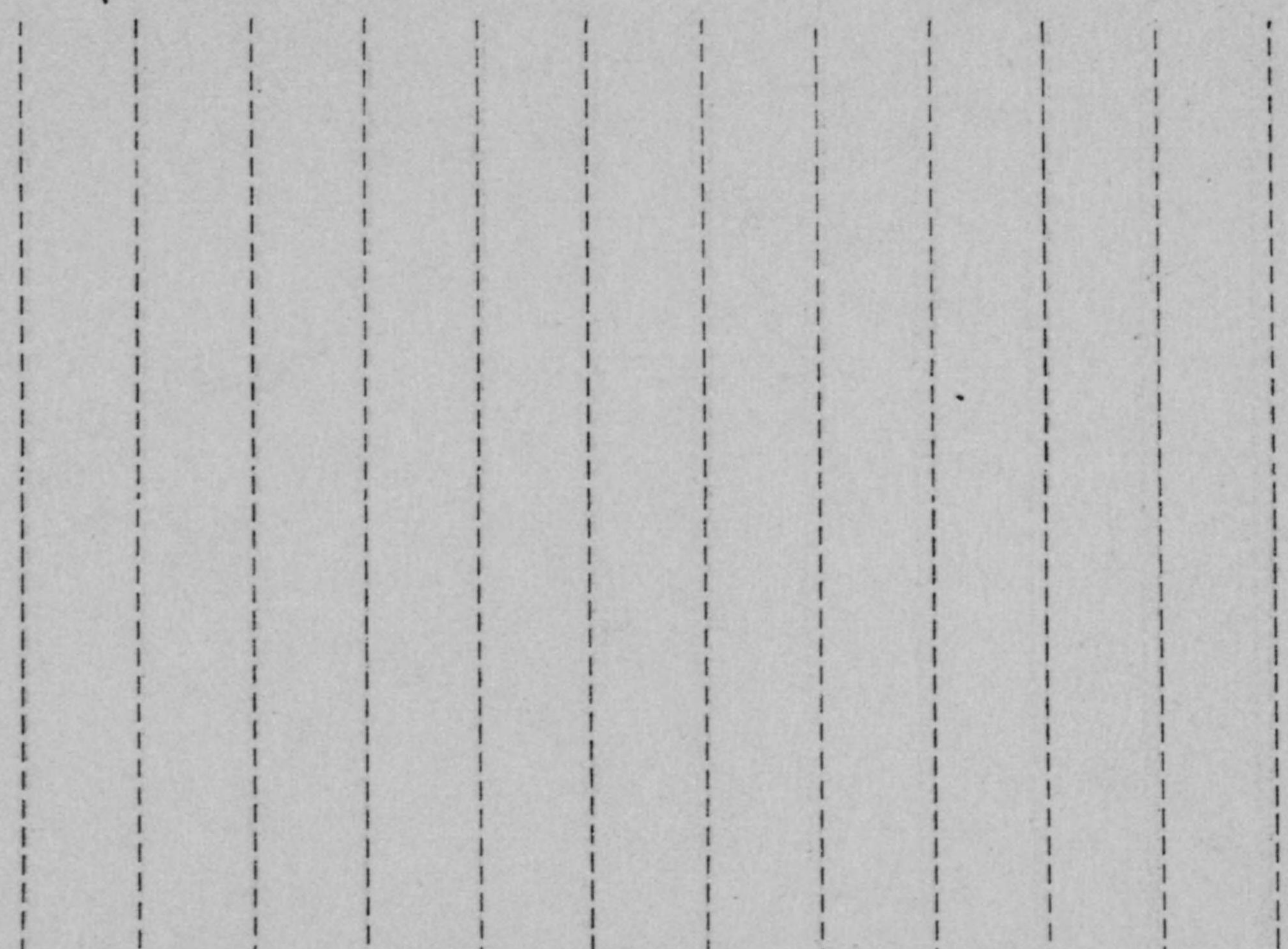
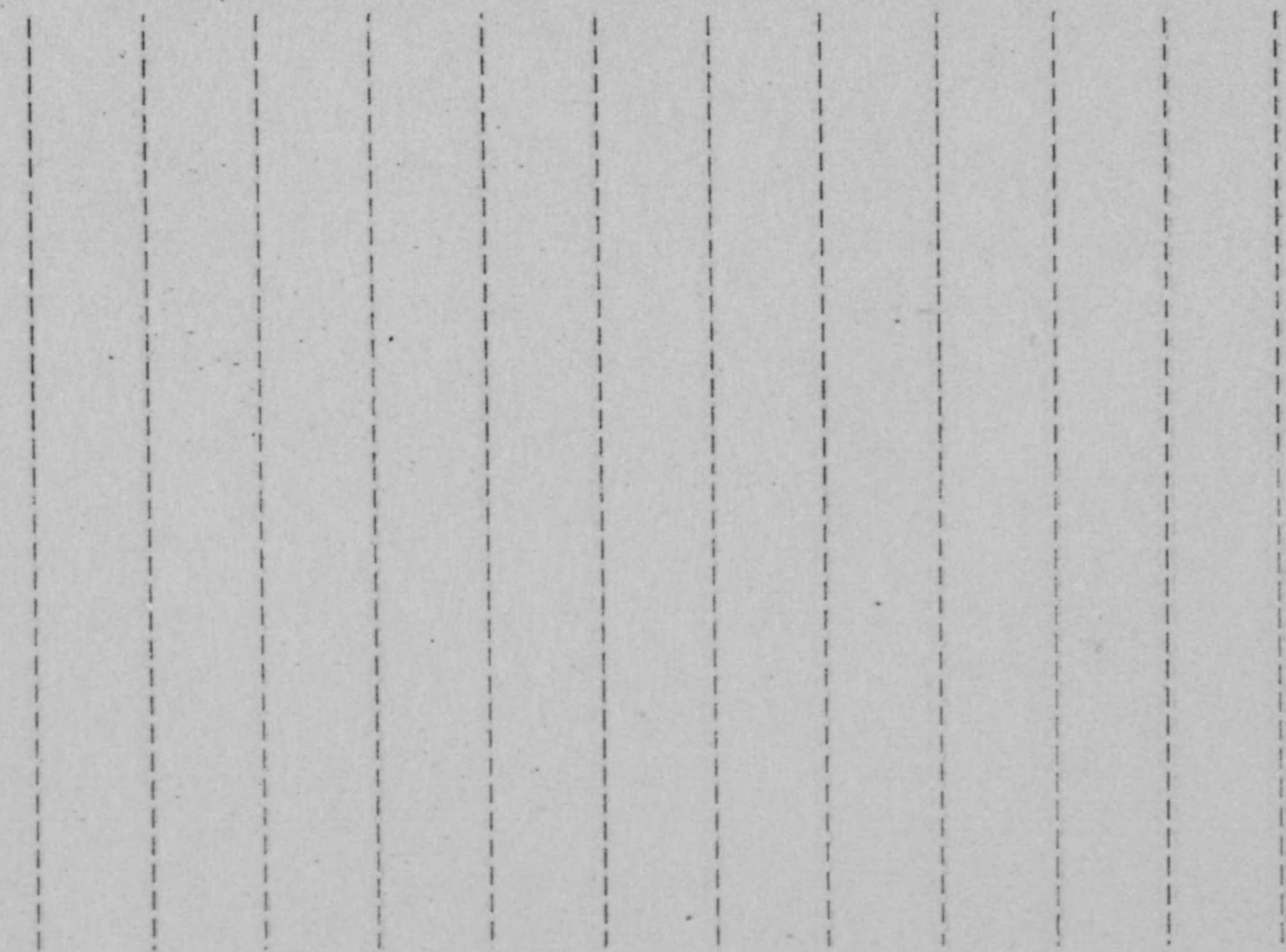
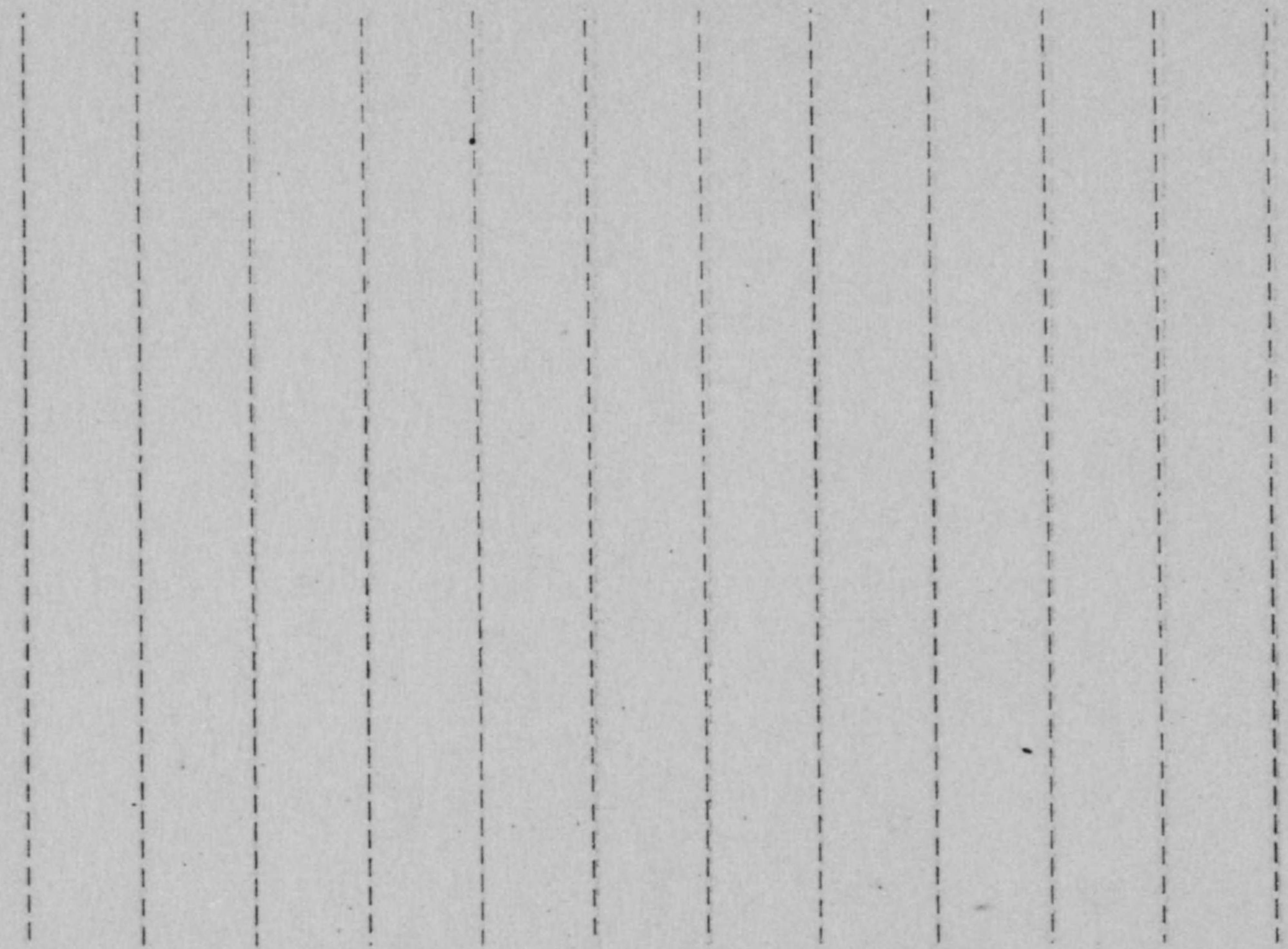
- 一、*印ハ警部補ヲ示シ其ノ他ハ巡查部長、巡查ニシテ*印ハ本數ノ外ナリ
- 二、京都府應授期間―特高六〇日。刑事、交通各四〇日間
- 三、奈良、三重兩縣應授期間―特高、刑事各一五日間

廣	岡	島	島	富	石	福	長	岐	山	靜	愛	栃	茨	千	群	埼	新	兵	
島	山	根	取	山	川	井	野	阜	梨	岡	知	木	城	葉	馬	玉	湯	庫	
*							*											*	
1							1												1
七	〇	五	五	二	三	五	三	三		五	三	五		五	五	三	五	二	三
	*																		*
	1																		1
四	五					四													一
																			〇
五																			
三																			
				三	三	三	二	三	五								三	五	
二					五		三		二										









Vertical dashed lines for handwriting practice on the left page.

Vertical dashed lines for handwriting practice on the left page.

Vertical dashed lines for handwriting practice on the right page.

Vertical dashed lines for handwriting practice on the right page.

